地名研究会報

第 89 号　　平成17年9月4日

鹿児島地名研究会

Ⅰ.第89回例会　　平成17年6月5日（日）　　於西郷南洲顕彰館研修室

（出会者）　青柳俊二・今村誠一・入来院貞子・上野堯史・内山憲一・納　栄蔵・川野雄一・築地成郎・永坂芳彦・浜田良知・繁昌正幸・肱岡修一郎・平田信芳・三善喜一郎・米原正晃　（計15名）

Ⅱ.大日本地名辞書読会　　P.560～P.561　神造島・嘯唫郡・東襲山・止上神社

Ⅲ.古道を探る方法

〔問題となった地名および事項〕　真魚板田と隼人塚・霧島と錦江・止上という地名・八幡社の分布、駅路を探る視点、道と水・湊（港）と水、参勤交代路水上坂

真魚板田と隼人塚

平田　何か質問・意見はありませんか。

納　561ﾍﾟｰｼﾞの一番下の段、前から6行目「毎年正月十四日、里民初猟の獲物の肉を三十三本の串に貫き」というのがあります。これは止上神社のちょっと手前に「マナイタ…」

平田　マナイタダ。

納　という所がありますね。そこを考えてよいでしょうか。

平田　そうです。止上神社の手前の田圃の中にあります。そこに隼人塚がある。

納　三十三というのは何？何かいわれがあるのですか。

平田　民俗のことはよく知らない。そこは米原さんに聞きましょう。

米原　うーん。

平田　三十三で勇名なのは京都の三十三間堂。

米原　そうですね。三十三というのは一つの意味を負わされた数ですね。

納　女の人の33才は大厄やらいな。さんざんという意味かな。

米原　隼人塚で隼人の霊を祀るのに猪肉を33本の串に刺すというのは判らない。初猟の時に祀るというのが、ちょっとね。

平田　云い伝えはいろいろあるのですね。隼人を殺して首を埋めた所とか、手足を埋めたとか、胴体を埋めたとか、いろいろあるようです。首塚を隼人塚と呼んだのは此処のことでしょうね。

現在の指定史蹟の隼人塚は明治30年代末の5万分1図には「軍神塚」となっています。それ以前は將軍塚とかボテシ（菩提寺）の塚とか呼ばれていた。現在の隼人塚は鹿児島神宮の神官：桑幡公幸という人が、まず熊襲塚と名付けた。しばらく経って熊襲塚はまずいということで「隼人塚(ﾊﾔﾋﾄﾂﾞｶ)」に名前を変える。隼人(ﾊﾔﾋﾄ)の名称は慣れないということから人々は隼人塚(ﾊﾔﾄﾂﾞｶ)と呼んだ。そして国の天然記念物に指定され「隼人塚(ﾊﾔﾄﾂﾞｶ)」と正式に決められた。一人の神官が思い付きで決めた名前をずーっと引き継いで来ている。そういうことを私がすっぱ抜くの

で隼人町は私を煙たがっている。

浜田　東京や大阪の人達が隼人と聞くと、隼人町だと思い込んでいる。隼人族がいたのは隼人町だ、と。隼人塚があるのはそのためだと思っている。国分市と隼人町は違うと思い込んでいる。隼人は後に付けられた名前だと吾々はそのことを少しは知っているのだけど、普通の人々は隼人族は隼人町を根拠地としたと思い込んでいる。地名を考える時、一人の思い付きで決められると後世に混乱を残すことになる。

上野　今回の市町村合併でそれは消える。

浜田　それはそうでしょうけど、隼人地区というのは消滅しない。隼人支所という名称は残る。恐らく後世まで残る。

平田　隼人中学校とか隼人工業高校とか、公共機関の名は変わらないだろう。

浜田　隼人・熊襲のことだけでなく、国分市の場合を例にとると、中央１丁目とか中央２丁目をどうするのか。国分１丁目・国分２丁目とするのか。合併すると、国分はどうするのでしょう。駅名や学校の名もあった。国分寺もあったし国府もあった。千二百年以上の歴史をもっている地名をどうするのか。国分中央とすればいいのだというのが現在の話です。考え方が非常に狭い。何故国分１丁目・国分２丁目としておかなかったのか。現在の市長の考え方はどうも頂けない。まあ、国分が上に付くべきだと思う。市名・町名の付け方は後世まで影響がある。誰かが付けたのでしょうけども、これが千年も二千年も続く場合、その重みは無視出来ない。

霧島と錦江

平田　市町村合併で霧島市になるわけですよね。そうなった場合、従来の境界は消滅するのだけど、歴史的境界の感覚が容易に消えるのか、いささか疑問。現在の隼人町と国分市の境界が天降川を境にしながらも、出たり入ったりで不自然な形になっている。明治の初め国分と西国分（隼人町）が土地問題で争い裁判の結果そうなった。天降川の左岸まで西国分の境域になった。

浜田　京セラ工場のある辺りはそうだけど野口の辺りは国分側が右岸に張り出し、下流の住吉では隼人側が出ている。あれは難しいですよ。水の利用問題とからまっていた。清水からの水路の水利用がからんでいた。清水から隼人町の方に入って、また国分の方に水路が通っていた。姫城辺りは昔は清水郷姫城と呼ばれていた。

平田　今後の問題として、例えば国分高校が霧島高校を名乗るかというと、それは考えられない。霧島大学が出来るかというと、それも考えられない。市町村合併に伴う地名の問題は地域性を考えると難しい内容をはらんでいる。

上野　市町村合併問題では私たちの姶良の場合、加治木町の負債問題で錦江市は駄目になりました。もし錦江市になっていたら加治木駅の手前にＪＲの錦江駅があるのです。そうしたら将来あすこが錦江市の中心と錯覚するかも知れない（笑い）。だったら、何のことになるのか判らなくなる。

？　南大隅に錦江町が出来た。

平田　それについて「錦江」の名称について南日本新聞のひろば欄に投稿したけどボツになった。「錦江」という命名は加治木島津家の第６代久徴（ひさなる）が家久の歌にもとづいて名付けたもの。錦江というのは好い名であるのであちこちで付けたがるけど、加治木に優先権があると書いたらボツにされた。

？　古くから加治木町には錦江（ニシキエ）小学校があり、その近くにＪＲの駅が生まれ、錦江（キンコウ）と名付けられた。

上野　いろいろ問題があるな。何故そんな名が付くのか。どうも不思議でならない。

平田　明治初めの町村合併の時に新しい地名が付けられた。中央志向というか、新時代向きの名が付けられた。今回の場合、合併する自治体の決定によるのでしょうが、センスのない命名は後々恥をかくことになるでしょう。

入来院　薩摩町というのはどうなんですか

平田　薩摩町は薩摩郡の一角ということで勝手に名前を付けたのです（笑い）。あすこが、古来、薩摩郡の中心だったことはない。似たようなことは大隅町の命名でも言えますが、これは消えるのですね。今回は町村合併で曽於市に変わるのですね。

上野　当たっているのは日置市ぐらいじゃないですか。

平田　日置郡の町村が固まっているからね

上野　あれはまぁ妥当だと思いますけど。

平田　みんな思い思いに歴史を無視して勝手な名前を付けてるよね。歴史をしらなかったことをそのうち思い知るでしょう。（以下暫時不明瞭、聞きとれず）。

止上（ﾄｶﾞﾐ）という地名

平田　先々月だったかな、隼人研究会で小園氏が止上も大口の鳥神も朝鮮渡来の神だと説明していた。隼人は渡来した人々と見ている。止上神社というのは隼人が持ち込んで来た神で隼人研究にとって無視出来ない存在だとした。

上野　外神：外の神：外来神とみる小園説の拠り所は？

平田　全国的に「ﾄｶﾞﾐ」神を拾いあげて注目していた。

上野　大口は「戸神」ですか？

平田　「鳥神」だ。

（追記）日本地名索引（アポック社）および日本地名総覧（角川）を見ると、砥上（栃木・福岡・神奈川）戸神（群馬・千葉・福島）外神（静岡）砥神（島根）渡神（大分）富神（山形）止上（鹿児島）鳥神（鹿児島）などがある。

平田　まぁ、渡来神として調べる価値はありそうだ。

浜田　心理学的に云えば（国分生まれの心情の意）絶対に土地の神。土着神としてわれわれも見上げている。

平田　韓国に行ってローカル線の飛行機に乗る時、耳にする韓国語を聞くと、鹿児島弁そっくり。鹿児島のイントネーションと変わらない。意識せずに聞いたら鹿児島からの団体客が乗り込んで来たと思うほどです。それほど韓国語と鹿児島弁は似ているのです。

上野　関東大震災の時に鹿児島の人が間違われて殺されかかったという話はそこから来ている。

平田　イントネーションは変わらない。よく聞くと判らない、違う言語だと気付くのです。その昔、海賊が暴れたわけですから、どこかで血がつながっているはずです。

入来院　日本の方から積極的に暴れて行ったのでしょうから、そして向うから美人を連れて来た（笑い）。

平田　他にありませんか。前半はこれぐらいにして、ちょっと休憩しましょうか。

古道を探す方法

平田信芳

今回は「加世田の地名」の予定でしたが、米原先生がまだ準備が出来ていないとのことで、ピンチヒッターを努めることになりました。

古道を探す方法については、かごしま文庫の『地名が語る鹿児島の歴史』で概要は述べてあるのです。それと似たような話になるのですが、裏付けとして用いた数多くの地名などを提示することが出来なかったので今日はそれらの地名を資料として具体的にあげて説明します。

一応今日のレジュメをインプットした後で別のフロッピーを見たら「古道を探る方法」というのを既に打ち込んであるのです。それはレジュメとしてでなく、論考として文章化したものですから、利用方法が少々異なります。必要な方は申し出があれば後日プリントして差し上げます。

配付したプリントに従って話をして行きます。古道を考える場合、古代の道・中世の道・近世の道があるのですが、古代・中世・近世、それぞれの時代に合った道があったと考えたらよいと思います。史料に残っている道についてまず考えてみます。

Ⅰ.古代の道

まず南九州の場合、景行天皇の熊襲征討説話があります。どういう記事が残っているかというと、熊襲征討では行宮として高屋宮を造営したとの記事があります。高屋宮というのは内之浦辺りにあったのだろうと思うのです。その高屋宮の跡に高屋山陵が造られる筋書きになるわけです。

その話の中に熊襲の渠帥（ひとこのかみ）のルビが振ってありますが、厚鹿文（あつかや）迩鹿文（せかや）という兄弟がいます。それがクマソタケルになるとみられます。クマソタケルの娘に市乾鹿文（いちふかや）市鹿文（いちかや）姉妹がいます。天皇がこの姉妹を寵愛し、クマソタケルが酔って眠った時に弓の弦を切っておけば討ち取れることが話題になります。娘は天皇に喜ばれようと思い弓の弦を切っておいたことを天皇に告げ、景行天皇は容易にクマソタケルを討ちますが、親に背いた娘たちを許さなかったとの説話があります。

その時の天皇巡幸の経路は、子湯県から夷守（ヒナモリ）に来ています。霧島連峰の一角に夷守岳という山の名が残っています。夷守という地名で考えさせられるのは魏志倭人伝に「卑奴母離」という官職名が出て来ることです。これが南九州に地名として残っているのです。

その次の熊県（クマノアガタ）。球磨郡の中心：人吉を指すのでしょう。夷守：小林から加久藤峠を越えて行ったとしか考えられない。そして芦北の小島に出て、八代県（ヤツシロノアガタ）に達する。その次の高来県（タカクノアガタ）は不明確ですが、玉名との間にありますから現在の熊本辺りになるのでしょう。

景行天皇当時の古代南九州の情報は児湯郡→夷守→人吉：球磨郡が主で、曾於郡のことは余り知られていない。極言すれば曾於郡には入って来ていないとみられる。

南九州と近畿文化圏との交流は九州の東海岸を通る道、言い換えると瀬戸内海・東九州経由の道だったと考えられます。東側のルートが畿内文化・大和勢力の影響を受けたと見るのが妥当でしょう。

一方、北九州勢力との交流は九州の西側のルート：肥前国・有明海・八代海経由が古くからあったと考えられますが、西側のルートが重視されるのは大宰府が西海道統治の中枢となり駅制が南九州まで整備される奈良時代以降だと考えます。

そこで、(2)古代の駅路・伝路の存在が考えられることになります。大隅国駅馬は蒲生駅・大水駅が各五疋。蒲生駅は蒲生町内にあったのでしょうが、遺構は未発見です。大水駅は各種各様の説があることは、ご存知の通りです。薩摩国駅馬について延喜式に記されているのは市来・英祢・網津・田後・櫟野・高来の各駅ですが、いずれも遺構は未確認です。ここでは深入りしません。

八幡社の分布

大隅国・薩摩国の官衙所在地近辺には八幡社が見られるのが一つの特色です。例えば、大隅国と薩摩国を結ぶルートでは、まず大隅国府の近辺に大隅正八幡があります。蒲生駅には蒲生八幡、薩摩国府には新田八幡があります。

九州各国の一之宮を見ると肥後国に藤崎八幡、筑前国には箱崎八幡、肥前国千栗八幡、豊前国に宇佐八幡、豊後国柞原八幡、大隅国には大隅正八幡と、このように八幡社が各国の一之宮になっているのが九州の特色です。

鹿児島県内の「八幡社の分布」を一覧表として提示しておきました。1.大隅正八幡は大隅国一之宮、4.鍋倉八幡（新正八幡）は帖佐郷の総鎮守、5.蒲生八幡は蒲生郷の総廟、9.荒田八幡は、往古、鹿児島の総廟であったといわれます。27.日置八幡は日置郷総鎮守、「せっぺとべ」という民俗芸能で知られています。

33.新田八幡：薩摩国一之宮は枚聞神社ですから、これを一之宮とするのは無理があります。新田八幡と枚聞神社が一之宮争いをしたことは歴史的事実ですが、一之宮は枚聞神社、薩摩国の総社が新田八幡であったと見ればよいでしょう。

新田八幡の末社である35.八幡神社は上甑の宗廟、37.八幡神社は下甑の総廟として崇拝されました。

右側に移って、40.箱崎八幡は出水郷の宗廟、44.湯田八幡は祁答院の総鎮守、47.郡山八幡は大口郷の総鎮守でした。郡山八幡は棟札に「座主（住職）がけちで焼酎を飲ましてもくれなかった」という落書があったのは有名な話です。また、郡山八幡がこのルートにあることから、大隅国から肥後国へ向かう駅路の存在が間接的に考えられるのではないでしょうか。

51.箱崎八幡は吉松郷の総鎮守、53.栗野八幡（勝栗神社：正若宮八幡）は栗野郷の総鎮守、58投谷八幡は恒吉郷の総鎮守でした。

大隅正八幡の四随神の視点から見ると、北の随神が栗野の正若宮八幡、西が蒲生八幡、南が鹿児島の荒田八幡、東の随神が投谷八幡になり、それらの範囲が大隅正八幡宮の勢力範囲であったことを示します。

66.正若宮八幡宮が吾平の総鎮守、69.若宮八幡宮が往古の根占郷の宗廟であったとのことです。

総社・総鎮守・総廟・宗廟・宗社などの表現は『三国名勝図会』の記載にもとづいています。意味・性格はすべて同じものと考え

てよいものです。

八幡社は有力な官衙が置かれた所に勧請されたと考えられます。そのことを考慮に入れた上で駅路を眺めめると、プリントに示したようなことになります。八幡神社の分布と駅が置かれた地名を見比べて行くと、駅路の存在を説明することにもなります。

大隅国と薩摩国を結ぶ駅路を考えた場合、大隅国から薩摩国に向かう道順を八幡社の存在と結び付けて考えると次のようになります。大隅国府には大隅正八幡、桑原郡衙の所在地と考える帖佐には新正八幡、蒲生駅には蒲生八幡、櫟野駅には八幡神社があります。田後駅および薩摩国府には新田八幡があります。

大隅国から肥後国・日向国へ向かうルートでは大隅国府から横川院を経て大水駅。大水駅は未だ突き止められてはいませんが、有力候補地として大口が考えられ、そこには郡山八幡があります。日向国へ向かうルートには栗野院、そこには正若宮八幡があり、真斫駅→夷守駅を経て日向国府へ向います。

薩摩国から肥後国へ向かう道は、薩摩国府から網津駅→英祢駅。そこには山下八幡があります。そして出水郡衙に向います。此処には出水郷の宗廟、箱崎八幡があります。この箱崎八幡から南に伸びる長い直線道路があります。この直線道路の方位が真北（北極星を見通した方向）に基づいています。この道は西出水小学校（小字、政所）と出水工業高校（小字、堀之内）の間を通り抜けると、出水高校（小字、関屋町）前の東西直線道路（江戸時代の参勤交代道路）と直交します。真北の直線道路設定はいかにも古代的です。

駅路を探る視点

2）「すべての道は国府に通ず」、しかも駅路は軍用道路を兼ねていたので直線的であった。このことを20万分１図で確かめてみます（地図を黒板に掲示して、カラー・マグネットボタンを置いて行く）。

此処が大隅国府（国分）、此処が薩摩国府（川内）蒲生駅は蒲生町、櫟野駅は市比野。これらを並べただけでも一直線になります。薩摩国府と櫟野駅の中間にあった田後駅は、当然その直線上にあったことになりＪＲ川内駅近辺が有力候補地になると考えます。

次に最近東回り高速自動車道の事前調査で財部町高篠遺跡から多くの墨書土器片が出土して何らかの官衙跡・駅家関連遺跡と見られるようになりました。カラー・マグネット・ボタンを東の方にも置いて見ると、都城に島津駅がありました。高篠遺跡は大隅国府と島津駅の中間に位置します。しかもその延長は直線的に薩摩国府へ向います。ただしこれを大水駅とするにはデーター不足であると埋文センターの調査担当者に話しました。『高篠遺跡調査報告書』p.410には「薩摩国府から島津駅は地図上で一直線上であり、高篠遺跡もその直線上に想定されるのではないかとの助言を頂いた」と記されています。

2）に帰ります。「駅路は軍用路を兼ねるので直線的。最短距離を求めようとする現存の高速道は古代への回帰現象ときてよい」。

溝辺台地にある鹿児島空港前を通って北上する九州縦貫自動車道の発掘調査を担当して墨書土器が出土したり、意味の判らない溝状遺構に悩まされました。今ならば道路遺構：駅路と結び付くと判断出来るのでしょうが、その頃は見当もつきませんでした。

3）経済効果の高かった駅家は貴族や社寺

などの権勢と結びつき、古代末にはその荘園になったとみられる。島津荘寄郡（ﾖﾘｺﾞｵﾘ）・正八幡宮領・弥勒寺（宇佐八幡別当寺）領・安楽寺（大宰府天満宮別当寺）領となった。鹿児島県には安楽という地名や苗字がありますが、これは安楽寺（天満宮別当寺）に由来しています。そのために八幡社だけでなく、天神社も多く見られます。

4）馬屋・車道。前回はシャロ（車路）という地名が話題になりました。車道などの地名は鹿児島県では案外少ない。あまり気付きません。

大人足・大人足形。これについては6ﾍﾟｰｼﾞに県内の地名例をあげておきました。鹿児島県は他県に比べて件数が多いようです。大人足というのは従来民俗学的に巨人伝説に結び付けられていたのですが、直線的な道路を造るために切通（ｷﾘﾄｵｼ）を造るようになると、昔の人々は切通を巨人（大人）が踏みつけた足跡とみなしたのです。それが大人足形（ｵｵﾋﾄｱｼｶﾀ）と表現され、さらに大人足・大人と省略されたのです。

大人足形と古代道を結び付けて考えたのは吉川弘文館歴史文化ライブラリー108『古代の道路事情』を著した木本雅康氏です。彼は古代交通研究会長：木下良氏の愛弟子の一人です。木下良氏が去る二月、出水市武本の大人足、野田町下名の大人、阿久根市大川の大人を調べにやって来ました。二泊三日同行しましたが、出水の場合ははっきりしませんでした。野田は低地で巨人伝説に結び付くのかも知れません。阿久根市大川は切通もいくつか見られ、駅路の痕跡と見てよいとのことでした。確認出来たのは阿久根市大川の大人だけでしたが、出水市の場合、シャロ：車路との関連を考える必要が残されています。

大隅国の場合は横川町上ノ大人形、菱刈町徳辺大人形などを現地に行って見る必要があると考えます。

5）早馬・羽山・端山などの地名が県内に沢山あります。これが駅馬（はゆま）と結び付くかということ。種子島の馬毛島にも葉山という地名があり、これを駅馬と結び付けるのは無理な話です。蒲生の場合、上久徳に早馬祠がありますが、これは駅馬と結び付く可能性があります。県内の多くは近世の牛馬神：早馬さぁ結び付くと考えます。

6）姶良町船津では駅路遺構が発掘調査で確認されています。財部町高篠遺跡については先程述べました。

(3) 古代道関連の古文書

1）大隅国府焼き討ち事件

この場合の大隅国府がどこにあったかは断言出来ませんが、長元元年(1029)島津荘を開発した平季基が大隅国の国庁・守館・官舎・民烟および藤原良孝の住宅を焼き払ったことが「小右記」に記されています。この時に平季基が焼き払った大隅国府がどこにあったか、藤原良孝宅がどこにあったかということは、その後の大隅国を考える場合重要になって来ます。

今のような話になって来ると、先程述べた総廟・総鎮守が一つの手がかりを与えて呉れることになります。今日の資料には八幡神社だけを用意しましたが、各郷の総廟一覧は、『地名が語る鹿児島の歴史』に掲載しておきました。八幡社を総廟とする例が多いのですが、春日神社を総廟とする所が一例だけあります。それは加治木です。春日神社は藤原氏の氏神ですから加治木は藤原氏との結び付き

が深かったことを示します。焼き討ち事件に巻き込まれた藤原良孝宅は加治木に求めるべきではないかと考えるのです。藤原良孝宅の焼き討ちは行きがけのついでであって平季基が最大のねらいとしたのは大隅国庁であったとすると、加治木をついでに襲うのですから大隅国庁は当時桑原郡家が置かれたとみられる帖佐にあったことになります。そうでなければ辻褄が合わない。これは私の推論です。

2）宇佐八幡と大隅正八幡が、八幡の本家争いをした時に、天承二年(1132)宇佐八幡の密使が正八幡宮に火を付けるのです。その原因になったのは大隅正八幡が国に報告した次のような内容の文書です。「往古の大路、宮坂麓の石躰に八幡の御名顕現す」というものです。石が二つに割れて、その中に八幡の文字が現れたというのです。大隅正八幡はそれを理由に、こちらが八幡の本家だと主張したのです。そのことが石清水八幡の記録に残っていたのです。

その記録の中で「往古の大路」とあるのは見逃せない記事です。大路とは駅路のことで1132年当時は用いられなくなっていたので、「往古の大路」と記されたのです。その昔、宮坂を登る駅路が溝辺の台地へと続いていたことを示す史料です。

その道を通って宇佐の密使がやって来て、大隅正八幡に火を放った。その時、干してあった大根の葉を火付けの材料にしたので、その日は干大根の葉を食べないのが溝辺の風習になり、その時追手に殺された密使13人の塚が十三塚・十三塚原の由来とされます。

3）俊寛らの配流：鹿ヶ谷の変で捕らえられた俊寛らが鬼界島に流された時の経路が長門本平家物語に記されています。京都→福原→瀬戸内海→伊予国→豊後国を経て日向国島津荘に着きます。それから夏影→止上→赤坂→気色の森へと来ますが、止上と赤坂は順序が入れ替っています。鬼界島：硫黄島からの復路は、房の泊り（坊津）→鹿児島（鹿籠が鹿児島か不明。鹿児島ならば向島の前に位置しなければならない）→逢の湊（知覧町藍の浦）→木入津（喜入）→向島（桜島）→鳩脇→八幡崎の経路で大隅国に帰着します。往路もこのルートだったと推定されます。鳩脇（波止脇）・八幡崎は隼人町に地名が残っています。

島津荘から気色の森に至る道について小園公雄氏が日向国と大隅国を結ぶ官道：駅路とし、その中間の大隅大川原を大水駅に想定する説を提唱しました。このルートは遠回りになるのでバイパスに過ぎないと考えます。菱刈郡大水郷との整合性も説明不足です。

Ⅱ．中世の道

1）山城址の分布：交通の要衝に重要な城が配置されていました。これを考えるために『角川日本地名大辞典』資料編の「中世城郭分布図」をコピーしておきました。しかし著名なものばかりで古道を考察するにはデーター不足です。『三国名勝図会』には各郷ごとに古城址の名が記されています。それを具体的に示すために、資料6ﾍﾟｰｼﾞに「三国名勝図会記載の城数（含関所）」をあげておきました。薩摩国13郡52郷165城、大隅国８郡42郷93城、薩隅日の総計は114郷341城になります

それぞれを地図上に落とす作業をすれば、中世の道の復元に役立ちます。また中世の道は古代の道から発達したと考えるのが歴史展開の上から自然だと思います。

近世の場合、麓（外城）と麓を結んで行けば近世の道を把握出来ます。『角川日本地名大辞典』資料編の「近世郡郷図」を拡大コピーしておきました。これはそのまま近世路復元に使えます。麓（外城）は中世の山城を母胎に成立しますから、近世の道は中世の道に大部分は重なるでしょうし、古代の道にもつながると考えます。

2）湊（港）に留意すること：湊（港）は水上交通だけでなく、陸上交通とも結び付くので水陸交通の要衝にある場合が多い。

3）渡・橋の存在は有力な手がかりになる：これは中世の道だけでなく、近世の道にも当てはまります。

4）『上井覚兼日記』：16世紀後半、宮崎地頭であった上井覚兼が鹿児島・宮崎の往復記事や島津氏の九州制覇時の遠征路などを日記に記しています。いろんな出来事が書いてある面白い読み物です。

資料5ﾍﾟｰｼﾞに「橋」と「渡船」の資料を出しておきました。『島津家列朝制度』巻之六記載の橋名にもとづく橋の数は、薩摩国35・大隅国７・日向国８・薩隅境１で、薩摩国の場合現鹿児島市内の橋が23ですから差し引き12が薩摩国にあった橋になります。しかも主要街道である出水筋が10カ所ですから橋の数は指折り数えるだけだったことが判ります。

出水筋を北から辿ってみると、広瀬川橋（出水）―平良川橋（出水）―高松橋（阿久根）―妹背橋（高城）―仏性橋（隈之城）―水之手橋（隈之城）―五反田橋（串木野）―所崎橋（串木野）。所崎橋は串木野と市来の境にある八房橋の古名と考えられます。その次は薩摩渡川橋（市来：市来農芸高校正門前に架かる橋）―永平橋（伊集院）の10カ所になります。

『薩藩政要録』にみえる渡船の数は26艘。薩摩９・大隅８・日向９だけです。資料の通りです。（渡の列挙は省略）

Ⅲ．近世の道

1）麓（外城）と麓を結ぶ道については、先程説明しました。

2）石橋が架けられた例が多い。石橋については木原安妹子『里の石橋４５３』を見て下さい。

3）宿場町では焼酎屋が繁栄した。焼酎の産地は宿場町に多い。出水筋でいうと、出水・阿久根・川内・市来・伊集院に著名な焼酎屋が育ちました。

4）古道を示す地名：街道(ｹﾄﾞ)・通山・通迫・並木・一里塚などの地名が残存している。

5）藩主の巡見記録・旅行記・日記など、参考になるものが多い。それらは旧記雑録に収録されています。

藩外の文人・商人などの旅行記も参考になります。高山彦九郎『筑紫日記』・伊能忠敬『測量日記』など、いろんな所歩いており意外なことを教えられます。野田泉光院は佐土原の山伏で諸国を修行して廻っています。高木善助は大坂の紙問屋で、鹿児島に紙の仕入れにやって来ます。鹿児島・大阪を六往復し絵も上手で挿絵・風景画を多く入れており、楽しく読めます。『御登道中日帳御下向』は加治木島津家の参勤交代の道中記録です。

6）西南之役の時、薩軍が熊本へ向かった北上路および鹿児島奪回作戦に失敗して宮崎へ逃れた道なども古くからの道だったことも考えられます。

〔質疑応答〕

平田　何か質問はありませんか。

道と水・湊と水

繁昌　湊・津・泊など、いろいろな呼び名がありますが、規模の違いなのか、重要性の違いなのか、単なる呼び名の違いなのか。

平田　それは歴史的に使い分けられた呼び名と見てよい。湊（港）の場合、海岸や河口に人工的に碇泊施設が造られ、船舶が多く集まり、いわゆる港町が出来る所。津は海だけでなく川の中流でも船着場に船津という名が付く。泊は港や船着場の別名だが、風待ち・潮待ちのために宿泊することから「泊り」といわれた。湊：港よりは古い呼び名かも知れない。詳しくは国語辞典に拠って下さい。

繁昌　古図を見ると、よく徒渡(ｶﾁﾜﾀﾘ)と書いてあるのがあります。例えば、川内川を渡るとすれば渡船でないと渡れないような気がします。市来辺りで「徒渡」と書いてある所は通れないことはないかなと思います。

平田　人が渡れる所は「徒渡」。その他に馬ならば渡れる「馬渡（ﾏﾜﾀﾘ）」、牛ならば「牛渡(ｳｼﾜﾀﾘ)」などの地名が沢山ある。歩く場合、海岸沿いに行けば道を間違うこともないし、目的地に早く行ける。古代では海岸沿いに行く道が直線的で早いのだけど、海賊に襲われる危険性があったので、山の尾根道を行くことが多かった。尾根道は谷や川を渡らずに済むけど、登ったり降ったりで一苦労だった。

上野　山道はサイクリングのようには行けません。古道を歩いてみて気付くことはいろんな所を歩いています。山道の場合、襲われた時真っ直ぐ山へ駆け登れるということなのか。むしろ、すぐ山に登れそうにない所もある。水を得やすい所を通っているような気がします。

平田　陸路の場合、人や馬の飲み水が適当な距離で得やすくなければならないし、湊：港の場合も飲み水の供給・確保が絶対必要な条件になって来る。鹿児島県だけでなく清水という地名の近くには古くから湊があった。

話が飛躍するけど鹿児島県内の都市は浦町・港町から発達したものが多い。しかし狭い海岸地帯に人口が集中すると、水不足が大きな問題となる。人口の増加は、人間の飲み水だけでなく排泄物の処理にも悩まされることになる。

上野　鹿児島市は今度の市町村合併で儲けたわけですね。水を得る所がいっぱいある。次の塵焼場を造る所もいっぱい出来た。合併で喜んでいる周辺町村は、やがて鹿児島市の奴隷になる。また、東京の方々は大気汚染のど真ん中に入っているから、そのうちひどい目に遭うだろうと見ています。

平田　過疎の進行によって県内では高校の統廃合が進められようとしているけど、高校・中学・小学校の統廃合はその土地の文化の核を消し去るようなものだ。頭の痛い問題が多いね。

上野　昔は米作りに伴う水争いには深刻なものがありましたけど、今は水争いよりも鹿児島市は利益誘導で早々と他所の水を取り込んでしまった。

平田　港や町の立地条件として「水」は大きな要素を占めていた。私が生まれた清水町は「仁王堂水」という素晴らしい泉を持っていた。それを鹿児島市がねらい、市民のためとの理由や公民館を建ててやるとの甘言で釣って上水道の水源に取り上げてしまった。以来、清水町は干からびた町になってしまった。泉の次は、清水町行電車の廃止、踏んだ

り蹴ったりです。辛うじて残されているのは市営バス２番線という名称。玉竜高校前が表向き終点の呼び名で、清水小学校前バス停と清水町バス停があるだけ。１番線磯公園行は早く無くなったので、２番線という名誉ある番号を奉られているだけの話。

その泉のお陰で湊が栄え、守護大名島津氏の城下町として発達する基礎が出来た。城下町鹿児島の始まりは清水町にあるのだけど、今は電停もなくなったし清水町がどこにあるかも知らない連中が増えた。

稲荷川河口にあった戸柱港が土砂の堆積で浅くなり使えなくなったので、江戸時代初めから海岸の埋め立て造成を営々と続けて来たのが鹿児島の一つの特徴と言える。港を重点的に造らずに、北港だ、南港だ、谷山港だとばらばらにしてしまって、埋め立て地への企業誘致ばかりを考えて来た。それが歴代行政の感覚と言っても過言ではない。

港を造って錦江湾の船旅を楽しめるようにしたら、自然と観光客は集まって来る。活火山桜島の景観・霧島連峰の遠望・俊寛配流の海路・薩英戦争の古戦場・豊富な温泉という素材を活かしていない。

参勤交代路としての出水筋

上野　参勤交代の道のことですが、水上坂(ﾐｯｶﾝｻﾞｶ)を登って行って、登りきって左の方に曲がって行くと、二つに道が分かれるのです。伊集院の手前に清藤(ｷﾖﾌｼﾞ)という所があり、そこに行くまでの間、ちょっと道が判らなくまるのです。今はすべて舗装されて近代的な道になってしまって判りにくくなっています。

平田　舗装道路の中に取り込まれてしまったのでは？

上野　もっと別の道があったのじゃないかと思うのです。山道に入って行くのじゃないかと思って見ているのですが、判らないのです。

平田　別の道があるというの？

上野　町田一族の拠点、えーと、あっちは通っていない。

平田　町田氏の拠点は、石谷(ｲｼﾀﾞﾆ)。

上野　石谷は通っていない。

平田　石谷は鹿児島の入口を抑える重要な場所で、出水筋だけでなく、伊集院別往還：田上――松元――下谷口――伊集院のルートにもにらみを利かしていた。

え一、時間が来ました。今日はこれで終りましょう。

《おことわり》

熱中症→脱水症状→塩分・鉄分不足その他何やかやで、聴力にも変調を来たし、ヘッドフォンをつけても聞き取れない部分が多く、話してもいないことを膨らまして文章化したところが多分にあります。その点ご容赦下さい。どこを膨らましたか定かでありませんが補足が付け加えられたと諒解して下さい。

ふるさと鹿児島の変貌に対する憤懣が吹き出した部分が多々あるようです。

鹿児島地名研究会員名簿

平成１7年9月4日現在

青柳　俊二
安楽　芳久
池田　　純
今村　誠一
入来院貞子

上野　堯史
内山　憲一
小山田　稔
大田　照夫
納　　栄蔵
唐鎌　祐祥
川野　雄一
霧島　一浩
久米　雅章
小原　親英
小山　　更
坂本　　誠
下野　敏見
築地　成郎
永井　啓介

永坂　芳彦
西田　春人
長谷川順一
浜田　良知
原口　　泉
繁昌　正幸
肥後　芳尚
肱岡修一郎
平田　信芳
福元　忠良
二見　剛史
本田　碩孝
松田　　誠
松浪　由安
三善喜一郎
村山　謙一
山崎　盛隆
吉原　林昭

米原　正晃

物故会員

小川亥三郎・片岡八郎・上赤一豊・桐野利彦・郡山政雄・永田典男・浜崎盛雄・原口虎雄・鉾之原矢七・本田親虎・山田慶晴

古 道 を 探 す 方 法

Ⅰ. 古代の道

(1) 景行天皇の熊襲征討（日本書紀）

1) 熊襲征討 ―― 高屋宮造営（行宮）

1. 熊襲の渠帥（ひとこのかみ）：厚鹿文・ 鹿文

2. 熊襲 帥（くまそたける）の娘、市乾鹿文・市鹿文姉妹を寵愛

色仕掛けでだまして、クマソタケルを討つ

2) 九州巡幸の経路

子湯県（児湯郡（西都市））→ 夷守（小林）→ 熊県（人吉）→ 芦北小島 → 八代県（八代）→高来県（？）→ 玉杵名邑（玉名？）

→ 阿蘇國 → 高田行宮（菊池？）→ 八女県（八女）→ 的邑（浮羽）

(2) 古代の駅路・伝路（延喜式巻二十八、兵部省「諸国駅伝馬」の条）

大隅国駅馬　蒲生・大水各五疋

薩摩国駅馬　市来・英祢・網津・田後・櫟野・高来各五疋

伝馬　市来・英祢・網津・田後駅各五疋

1) 大隅国・薩摩国の官衙（国衙・郡家・駅家・院）近辺に八幡社が多く見られる。

（大隅 ＝ 薩摩）大隅国府 → 帖佐（大隅正八幡）→ 蒲生駅（新正八幡）→ 櫟野駅（蒲生八幡）→ 田後駅（八幡神社）→ 薩摩国府（新田八幡）

（大隅 ＝ 肥後・日向）大隅国府 → 横川院 → 大水駅・・・・肥後国府（郡山八幡）

↓

栗野院（若宮八幡（勝栗神社））→ 真斫駅 → 夷守駅・・・・日向国府

（薩摩 ＝ 肥後）薩摩国府（新田八幡）→ 網津駅 → 英祢駅（山下八幡）→ 出水郡家（箱崎八幡）

2) 「すべての道は国府に通ず」と見てよい。駅路は軍用道路を兼ねるので直線的。

最短距離を求めようとする現代の高速道は、古代への回帰現象ともみてよい。

3) 経済効率の高かった駅家は貴族や社寺などの権勢と結びつき、古代末にはその荘園となったとみられる。島津荘寄郡・正八幡宮領・弥勒寺（宇佐八幡別当寺）領・安楽寺（大宰府天満宮別当寺）領となった。（八幡社だけでなく天神社も多い）。

4) 馬屋・車道・古道・大人足（大人足形）などの地名に要注意。

5) 早馬・羽山・端山などの地名 ―― 駅馬（はゆま）と結び付くか。

但し、近世の牛馬神：早馬さぁの存在にも留意しなければならない。

6) 姶良町船津で駅路遺構確認。財部町高篠遺跡：駅家関連遺跡とみられる。

(3) 古代道関連の文書

1) 大隅国府焼き討ち事件

長元元年(1029)　平季基が大隅国の国庁・守館・官舎・民烟および藤原良孝の住宅を焼き払う。（小右記）―― 国庁・藤原良孝宅がどこにあったか？

2) 宇佐八幡 vs. 大隅正八幡

天承２年(1132)　往古の大路宮坂麓の石躰に八幡の御名顕現す。（石清水文書）

宇佐の密使による正八幡の焼き討ち → 密使討たれ → 十三塚に葬る

3) 俊寛らの配流

治承元年(1177)　藤原成経・平康頼・俊寛僧都らの鬼界島配流。（長門本平家物語）

京都 → 福原 ・・・ 島津荘 → 夏影 → 止上 → 赤坂 → 気色の森 ・・ 硫黄島

硫黄島 →房の泊り → 鹿児島 → 逢の湊 → 木入津 → 向島 → 鳩脇八幡崎 ・・・

Ⅱ. 中世の道

1) 山城址の分布：交通の要衝に重要な城が配置されている。

2) 湊（港）：水陸交通の要衝にある場合が多い。

3) 渡・橋の存在は有力な手がかりになる。

4) 『上井覚兼日記』：宮崎地頭として鹿児島・宮崎の往復や九州制覇時の遠征路を記録

Ⅲ. 近世の道

1) 麓（外城）と麓を結ぶ道：麓は中世の城であった場合が多い。

2) 石橋が架けられた例が多い。

3) 宿場町では焼酎屋が繁栄した。

4) 街道（けど）・通山・通迫・並木・一里塚などの地名が残存。

5) 藩主の巡見記録・旅行記・日記など参考になるものが多い。

天明３年(1783)　古河古松軒『西遊雑記』

寛政９年(1792)　高山彦九郎『筑紫日記』

文化７年(1810)　伊能忠敬『測量日記』

文化９年(1812)　野田泉光院『日本九峰修行日記』

天保９年(1838)　高木善助『薩隅往返記事』

嘉永４年(1851)　加治木島津家『御登御道中日帳御下向』

6) 西南之役時の薩軍の北上路および退却路

《参考文献》

『鹿児島県地誌』・『鹿児島県史』・『歴史の道調査報告書』鹿児島県教育委員会

かごしま文庫38『地名が語る鹿児島の歴史』

街道の日本史54『薩摩と出水街道』

八幡神社の分布

平　田　信　芳

1. 大隅正八幡（鹿児島神宮）――大隅国一之宮――姶良郡隼人町内
2. 高倉八幡――姶良郡加治木町高井田
3. 弓箭八幡社――姶良郡加治木町木田
4. 鍋倉八幡（新正八幡）――帖佐郷の総鎮守――姶良郡姶良町鍋倉
5. 蒲生八幡（正八幡若宮）――蒲生郷の宗廟――姶良郡蒲生町上久徳
6. 八幡神社（正一位八幡宮）――鹿児島郡吉田町本名
7. 八幡神社――鹿児島郡吉田町宮之浦
8. 若宮神社（若宮八幡宮）――鹿児島市池之上町
9. 荒田八幡――往古鹿児島の総廟――鹿児島市下荒田
10. 八幡神社――鹿児島市田上
11. 八幡神社――口之島の宗廟――鹿児島郡十島村口之島
12. 八幡神社――鹿児島郡十島村臥蛇島
13. 八幡神社――鹿児島郡十島村諏訪之瀬島
14. 八幡神社――平島の宗廟――鹿児島郡十島村平島
15. 八幡宮――七島の総社――鹿児島郡十島村悪石島
16. 真所八幡――熊毛郡南種子町中之下
17. 弓矢八幡神社――熊毛郡屋久町麦生
18. 八幡神社――熊毛郡屋久町平内
19. 八幡神社――指宿市小牧
20. 八幡宮――指宿市新西方
21. 若宮八幡宮――揖宿郡山川町成川
22. 高良八幡社――川辺郡川辺町宮下
23. 寄木八幡――加世田市小松原
24. 八幡神社（益山八幡）――加世田市益山
25. 高良八幡宮――日置郡金峰町宮崎
26. 大汝八幡宮――伊作郷の鎮守――日置郡吹上町中原
27. 八幡神社（日置八幡）――日置郷総鎮守・せっぺとべ――日置郡日吉町日置
28. 八幡宮――麦生田村の生土神――日置郡伊集院町麦生田
29. 八幡神社――日置郡伊集院町下神殿
30. 由須原八幡神社――日置郡東市来町湯田
31. 鶴岡八幡宮――日置郡市来町大里
32. 八幡神社――川内市都町
33. 新田八幡――薩摩国の総社？――川内市宮内町
34. 若宮八幡社――川内市草道
35. 八幡神社（新田八幡宮）――上甑の総廟――薩摩郡里村里
36. 宇佐八幡神社――薩摩郡上甑村桑之浦
37. 八幡神社（八幡新田宮）――下甑の総廟――薩摩郡下甑村手打
38. 八幡宮――阿久根市大川
39. 若宮八幡社――出水郡野田町上名
40. 箱崎八幡――出水郡の宗廟――出水市西出水
41. 若宮八幡宮――出水市鯖渕
42. 八幡神社――出水郡東町鷹巣
43. 若宮八幡社――薩摩郡樋脇町塔之原
44. 八幡神社（湯田八幡）――祁答院の総鎮守――薩摩郡宮之城町湯田
45. 八幡神社――薩摩郡宮之城町虎居
46. 八幡神社――大口市山野
47. 郡山八幡（八幡宇佐宮）――大口郷の総鎮守――大口市大田
48. 西原八幡宮――大口市目丸
49. 若宮八幡宮――大口市羽月
50. 箱崎八幡宮――伊佐郡菱刈町市山
51. 箱崎八幡社――吉松郷の総鎮守――姶良郡吉松町川西
52. 八幡神社（鶴岡八幡）――姶良郡吉松町鶴丸
53. 栗野八幡（勝栗神社・正若宮八幡）－栗野郷の総鎮守－姶良郡栗野町米永
54. 八幡神社――姶良郡牧園町万膳
55. 八幡宮――国分市曽小川
56. 八幡宮――曽於郡末吉町深川
57. 岩川八幡――弥五郎どん祭――曽於郡大隅町岩川
58. 投谷八幡――恒吉郷の総鎮守――曽於郡大隅町大谷
59. 正若宮八幡社――松山郷の宗廟――曽於郡松山町新橋
60. 八幡神社――曽於郡大崎町溜水
61. 八幡神社――曽於郡大崎町仮宿
62. 八幡神社――肝属郡東串良町川東
63. 八幡神社――肝属郡内之浦町小串
64. 八幡神社――肝属郡内之浦町大浦
65. 八幡神社（新正八幡宮）――肝属郡高山町新富
66. 八幡神社（正若宮八幡宮）――姶良郷（吾平）総鎮守――肝属郡吾平町麓
67. 八幡神社――鹿屋市大姶良町
68. 八幡宮――肝属郡大根占町城元
69. 若宮八幡宮――往古根占郷の宗社――肝属郡根占町川北
70. 八幡神社――肝属郡根占町山本
71. 八幡神社――大島郡笠利町用
72. 穴八幡神社――大島郡徳之島町亀津
73. 八幡川（河川名はあるが、神社は未確認）――揖宿郡喜入町麓

三国名勝図会・角川日本地名大辞典（鹿児島県）・鹿児島万能地図にもとづいて作成した。（2001.10.2）

「橋」と「渡船」

（1）『島津家列朝制度』巻之六、記載の橋　　計 51

寛政年間(1789～1901)　薩州 35（現鹿児島市内 23)、隅州 7、日州 8、薩隅境 1

〔薩州〕出水 広瀬川橋
阿久根 高松橋
東郷 岩切川橋
隈之城 水之手橋
串木野 所崎橋
伊集院 橋一ツ（永平橋？）
〔隅州〕桑原郡姶羅郡境 久留見川橋
加治木 網掛橋
大根占 神之川橋
串良 串良川橋
〔日州〕大崎 大崎川橋
志布志 志布志川橋
都之城 竹之下川橋
志布志 大田川橋
出水 平良川橋
高城 橋壱ツ無名（妹瀬橋？）
隈之城 仏性橋
串木野 橋一ツ無名（五反田橋？）
市来 薩摩渡川橋
指宿 松出川橋
加治木 楢木川橋
垂水 脇元川橋
鹿屋 鹿屋川橋
〔薩隅境〕伊佐郡菱刈郡境 池田橋
志布志松山境 柳之渡川橋
都之城 大岩田口橋
志布志 町川橋
大崎 加之瀬川橋

明治17年(1884)『鹿児島県地誌』に見える橋数

薩摩国 231（うち石橋 91）

（2）『薩藩政要録』にみえる渡船　　鹿児島県史料集 I　pp. 174～175

諸所川渡船、弐拾六艘　　薩摩（9）・大隅（8）・日向（9）

水引大小路
山崎川
阿多渡瀬川
隈之城向田川
東郷船倉町川
鶴田柏原村川
出水黒之戸渡
長島黒の戸渡
宮之城川渡
国分新町川
帖佐上別府川
串良麓川
吉松川
栗野大川
湯尾川
高山商人ケ崎川
帖佐高樋川
倉岡川
吉田川
馬関田河
高岡去川
高岡大野丸川
野尻猿瀬川
穆佐倉永川
高岡田尻村川
大崎菱田川

三国名勝図会記載の城数（含関所）

〔薩摩国〕

伊佐郡	10郷	31城
出水郡	5郷	23城
高城郡	2郷	7城
薩摩郡	8郷	28城
甑島郡	1郷	1城
日置郡	7郷	19城
阿多郡	3郷	17城
河辺郡	7郷	7城
穎娃郡	1郷	2城
揖宿郡	3郷	8城
給黎郡	2郷	2城
谿山郡	1郷	6城
鹿児島郡	2郷	12城
13郡	52郷	165城

〔大隅国〕

菱刈郡	4郷	5城
桑原郡	5郷	8城
姶羅郡	6郷	19城
贈於郡	8郷	16城
大隅郡	7郷	17城
肝属郡	10郷	28城
馭謨郡	1郷	城跡の記載なし
熊毛郡	1郷	城跡の記載なし
8郡	42郷	93城

〔日向国〕

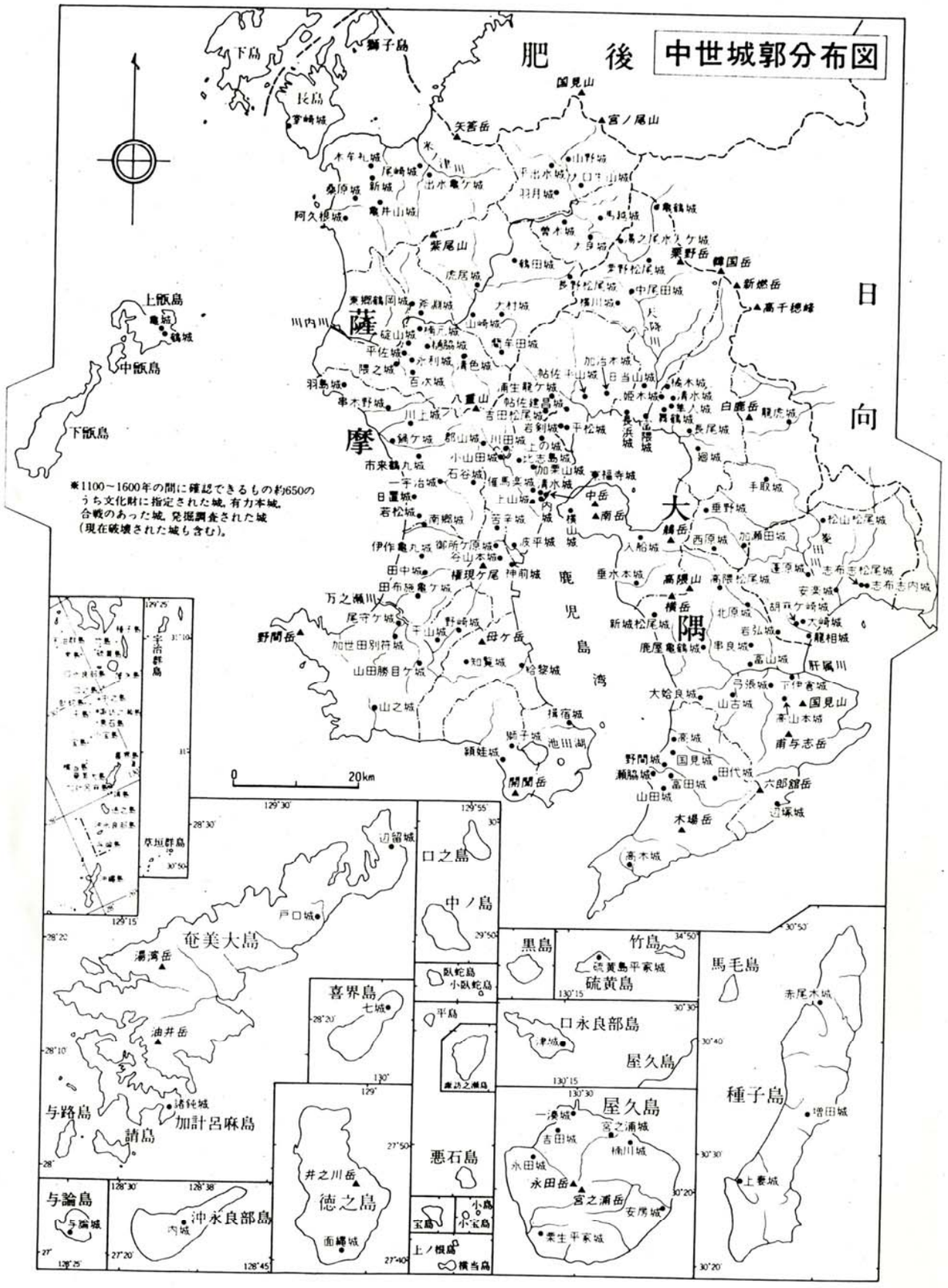
諸県郡	20郷	83城

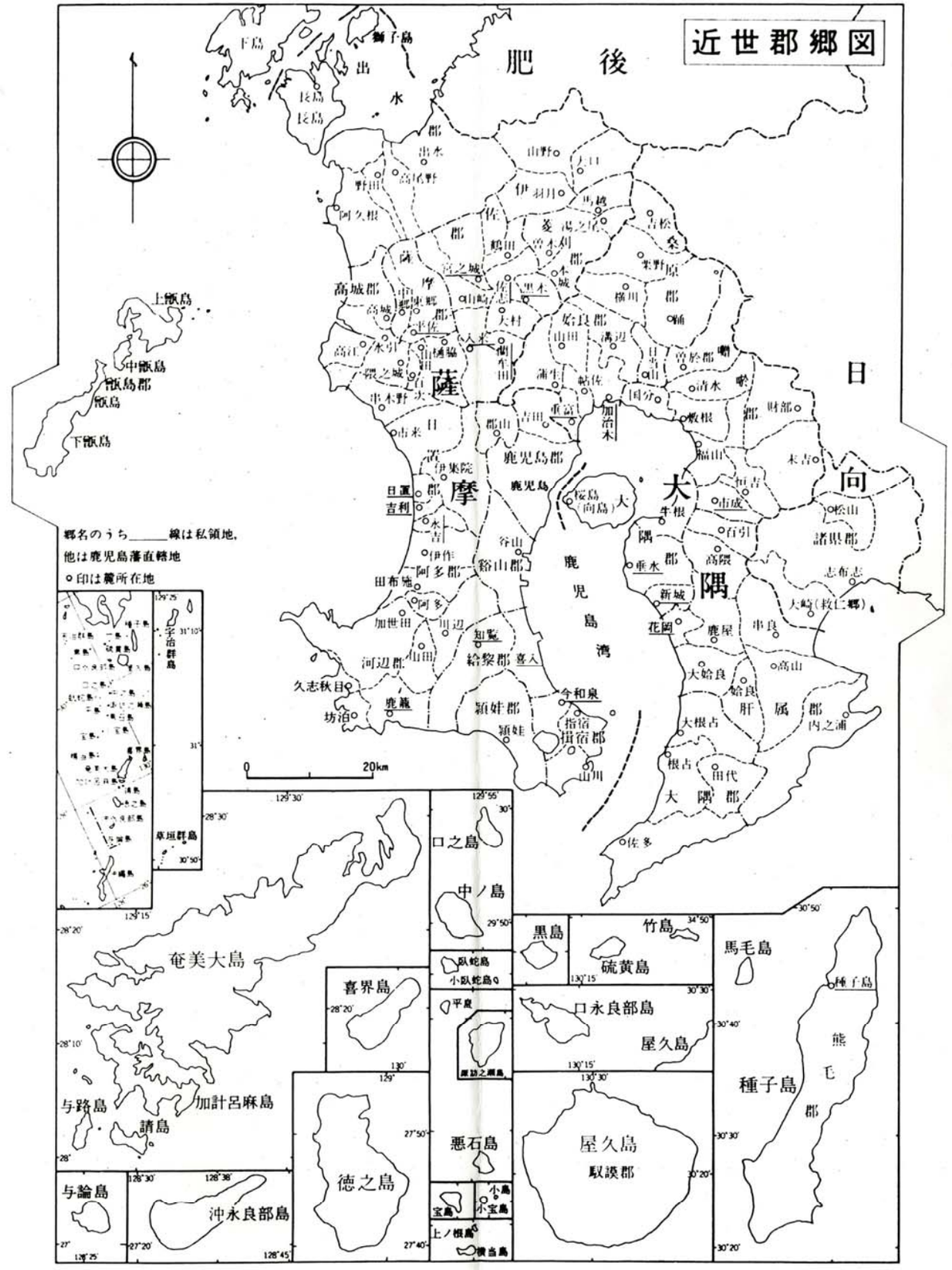
薩隅日総計　114郷　341城

（鹿児島城下も1郷と数えてあり、差し引くと113外城になる）

「大人足形」地名の分布

1. 大人足形(ﾀﾞｲﾆﾝﾉｱｼｶﾀ)　鹿児島市川上
2. 大広形(ｵｵﾋﾛｶﾞﾀ)　鹿児島市犬迫
3. 尾広形(ｵﾋﾛｶﾞﾀ)　鹿児島市犬迫
4. 大人足　出水市武本
5. 大人跡　串木野市下名
6. 大人　阿久根市大川
7. 大人　野田町下名
8. 定之足形　川辺町野間
9. 大広潟(ｵｵﾋﾛｶﾞﾀ)　宮之城町二渡
10. 人足形(ﾆﾝｿｸｶﾞﾀ)　垂水市牛根境
11. 大人足跡　福山町佳例川
12. 大人形　牧園町下中津川
13. 大人形　横川町上ノ
14. 大広形　菱刈町徳辺
15. 大人足　志布志町安楽
16. 大人　末吉町二之方





「角川日本地名大辞典」資料編

地名研究会報

第９０号　　平成１７年１２月４日

鹿児島地名研究会

Ⅰ．第９０回例会　　平成１７年９月４日（日）　　於西郷南洲顕彰館研修室

（出会者）　今村誠一・入来院貞子・上野堯史・納　栄蔵・川野雄一・永坂芳彦・浜田良知・繁昌正幸・平田信芳・米原正晃（計１０名）

Ⅱ．佐多の地名

Ⅲ．上町の地名

〔問題になった地名および事項〕　「佐多の地名」インプット、読みの違い、地名の分類
隣同志で同じ字名、伊座敷と佐敷、佐多という地名、木佐貫・五色、
割子・津和山、佐多薬草園、佐多の製鉄、過疎の進行、製鉄と銅田。
上町の範囲、上武士・下女子、上竜尾という地名、竜ケ水、箱水、
共研公園の由来、上町地区の地名、薩軍の城山侵入路、毘沙門堂。

「佐多の地名」インプット

平田　前半はいつもの例会のとおり大日本地名辞書を読むつもりでしたが、コピー機が１週間ぐらい前から調子がおかしくなり資料のコピーが出来ませんでした。気まぐれに電源がつながってコピー出来たのですが、昨日になって全然動かなくなりました。そのために後半に予定していた米原先生の説明を先にお願いして、後半はこの辺の地名を取り上げて解説することにします。米原先生よろしくお願いします。

米原　本来は「加世田の地名」と言われていたのですが、角川日本地名大辞典（以下、角川と省略）の小字一覧を見ると、あまりに多いのでびっくり仰天して（笑い）、とてもじゃないけど処理出来ない。大字ごとに分けてということも考えましたが、もう一つの担当が佐多町の地名だったもんですから、佐多にしよう。佐多だったら数も少ないということで急遽変更しました。佐多町は合併によって「町」がなくなっていますから「佐多の地名」としました。事前に仕上げて平田先生に見て貰おうと思っていましたが、それが出来ませんでした。

私はワープロしか使えないので、ワープロを使って資料を作ったのですけど、１週間ぐらい前に故障で印刷が出来なくなりました。修理屋に持って行ったらもう修理はしてないとのことでした。これじゃどうにもならないと、パソコンと取り組むことにしました。右も左も分からず、枠組みだけは子供に打って貰い文字の打ち方を習いながら、ようやく打ち込みました。

それで地名の分類に目を向けるよりもパソコンで打つことの方が精一杯でした。初めてパソコンに触れる次第になりました。そんなことで間違いもだいぶあるのじゃないかと思います。

以前、佐多の担当だと言われたので佐多に行った時に小字一覧と地図を貰っておきました。時間的余裕がなく、地名の分類は機械的にやりました。ページによっては別の所に

入ったりする形になっております。詳しく考えることなしに兎に角入れました。後でご指摘頂ければと考えます。

ただ「読み」は全部その土地に一応行ってみました。それで現地読みの空白の所はその通りの読み方になります。判らない所は何人かに聞けば判るのでしょうが、行った所で一人か二人程度に聞くわけですので、判らないという答えも多くありました。年輩の人たちに聞いた時にはある程度判るのですが、年齢が下がったりすると小字の知識に関しては全然判らんという結果でした。ずーっと聞いたのは現地での読みです。

地名の読みの違い（役場・角川・現地）

どういうふうに分けるかと一応眺めて見たのですが、角川の辞典には読みは付いていないわけです。比べて見ると角川と役場の読みが違うのが、いくつかありました。それを取り上げてみます。

No. 1. 35. 桃木迫、角川は横に示した「桃木迫」になっています。これを「モモ」と読むのか。「桃」の間違いだろうと思います。

No. 2. 53. 開き、これは角川にはありませんでした。「開き」は開墾・開発地名だろうということで此処に○印をつけました。

No. 2. 84. 柳ケ瀬、これが「柳ケ渡（ヤナギガワタリ）」になっています。恐らく役場職員の読み違いだろうと思います。

No. 3. 110. 漆ノ迫（ウルシノサコ）、「添ノ迫」と角川辞典にはなっています。

No. 4. 143. 渡瀬（ワタセ）、役場の読みではセトになっています。現地で聞くと「ワタイ」と言っておる、と。「渡瀬」なんでしょうけど、変化しています。

No. 4. 156. 堀町（ホリマチ）、地元の人は「ホイマッ」と呼んでいます。「松」ですが、役場の方は「町」になっています。角川は「堀松」になっています。多分これは「松」だろうと思います。角川の方が訂正をして書いたのでしょう。山の方にありますから「松」だろうと思います。

No. 4. 164. 犬山（インニャマ）、角川の方は大山になっていますが、犬山です。何故犬山という名前がつくのかと聞くと、昔から佐多の場合海岸を行くか嶽道を行くかのどちらかで、海岸の方はほとんど道がないわけですから海岸は夏は暑くて歩けない。葉っぱなどを置き、葉っぱの上に乗りながら砂の上を歩いたそうです。竹之浦とか外之浦とかは、そういう形で行く。あるいは危険な岩の所を渡る。危険でもそっちの方が早いから、それを行く。

嶽道いわゆる山を越えて行くのは遠い。それともう一つ、嶽道を行く場合は出来るだけ一人では行かない。何故と聞くと、犬なんです。野犬が非常に多かった。だから山を行く時には連れだって行くのが鉄則だった、と言われました。そういうことの「犬山」なのかな、と思っています。

No. 5. 187. 佐牟田、角川の場合は佐弁田になっています。「弁」は「牟」の間違いなんでしょうね。

No. 5. 195. 役場の方は「櫛原（クスハラ）」ですが、角川の方は「節原」になっています。

馬籠（マコメ）では、No. 6. 9. 尾波瀬山尻（オハセヤマシリ）、これが角川では尾波瀬山尾になっています。

No6. 12. 嶽道ケ平、役場の方では「コークトウガヒラ」となっているのですが、地元の人に聞くと、そんな読み方はない。「タケミッガヒラ」というような話なんです（笑い）。役場の職員もいい加減だなと思います。角川は岳道ケ平になっています。

No. 6. 25. 船碁石（フナコイシ）、角川は船基石になっています。

馬籠の63. は三方境（サンボウサカイ）ですが、角川は三方鏡になっています。

64. 漢字は「臼山」ですが、読みは「シラヤマ」です。役場の読みもいい加減だと思います。地元の人に聞きましたが判りませんでした。

馬籠3. 92. 城ノ原（ショウノハイ）、このように読むのでしょうかね。

99. 役場の方は「佐弁田」と書きながら、読み方は「サムタ」になっています。角川はそのまま「佐弁田」。地元の人は「サッタ」と言っていました。これは「佐牟田」でしょう。

No. 107. 市木（イチキ）、役場の方は市木ですが角川は「市水」になっています。地元の人に聞きましたが判りませんでした。私が聞きもらした所だったかも知れません。

108. 日ケ暮（ヒガクレ）、日影だろうということで気象地名に入れました。

131. 表記が角川と役場では違っています。木へんがあるので役場の文字は何と読ませるのか。「矢　（ヤビキ）」なんでしょうが、地元で聞くと「ヤヤイ」と言っていたとのことです。

132. 苦地山（クルチヤマ）と役場の方には書いてあるのですが、地元の人たちは「ワカジャマ」。角川は「若地山」になっています。角川の方がむしろ正しい。苦と若の文字の間違いだろうと思います。

150. 水溜（ミッタマイ）、地元では「コタマイ」。角川は「小溜」になっています。どっちが正しいのか判らない読みがあったりします。

No. 11. 79. 役場の方は「牟田」ですが角川のは「弁田」になっています。これを「ベンタ」と読ませるつもりだったのか、単なる文字の間違いなのか。「読み」は大体そういうことでした。

地名の分類

佐多という地名に関しては、三国名勝図会に「或る説に曰、当社は出雲国秋鹿郡佐多神社を勧請す、佐多の名は是に因て得たる」として出雲の佐多神社を紹介しています。佐多の地名をどう考えるかについては後で意見を聞かせて頂きたいと思います。

小字名の分類をしたことについて説明します。難しい地名は大体景観地名とか目印地名か、その辺りに機械的に割り振りました。そこが増えている状態です。ここら辺りを丁寧にすればいいのでしょうが、考えていると頭が痛くなるので出来る限り機械的に割り振ってみました。まず伊座敷から手がけました。

最初の烏賊ノ浦（イカノウラ）にしても、これは浦ですから入り込んだ地形的なもの、その方がよいのかなとも思いましたが、目印にしておきました（編集者後記：烏賊がよく捕れる浦ではないのか）。

5. 竹原は一種の「原」ですけども、佐多辺りでは以前から竹山を焼畑にするのが盛んな所でしたので、竹原は焼畑に関係する地名としてあげられると考えました。どれもこれも読み方によって分け方が違ったりするので分類は一筋縄ではいかないようです。

28. 割子谷（ワリコタニ）は浸食地名かなと思っています。34. 城ケ崎（ショウガサキ）は昔伊座敷の城がありましたので、それに因む地名。

42. 鳥井原（トリイハラ）は鳥居の存在を考えて信仰地名に割り振りました。

67. 五色（ゴシキ）、これは何だろうと思いました。多分地質的な色の違い、色の着いた地

名・土地があるんじゃないかと思って、目印地名にしました。

69.立野(ﾀﾃﾉ)は茅を取ったりする立ち入り禁止の所。71.福留(ﾌｸﾄﾞﾒ)は瑞祥地名で処理しました。75.大將軍(ﾀﾞｲｼｮｳｸﾞﾝ)は信仰地名ですね。101.上之園(ｱｹﾞﾝｿﾝ)は他に例がない独特の読みです。

115.土取尾(ﾂﾁﾄﾘｵ)、これは開発地名かなと考えて開発の中にいれましたが、どうなんでしょうか（編集者後記：土取の丘のこと。土取場の地名は多い）。

135.垂水(ﾀﾙﾐｽﾞ)、これは一応水利地名にしました。ところが地元の人たちに水に関係する地名なのかと聞くと、意外な展開になりました。いや、此処はそういうのとは違う、と。垂水(ﾀｲﾐｯ)というのは伊座敷の町の国道のすぐ上の所です。ここら辺りの人は、昔、知覧から移って来たという言い伝えを受け継いでいるのです。いわゆる薩摩半島から移って来た人たちの子孫になります。知覧の「垂水」に関係する地名だというのです。地元の古老たちは此処は水とは関係ないよ、と言われるのです。いわゆる大隅移り：東目移りの地名がかなり残っているのじゃないかと思いました。

157.木佐貫(ｷｻﾇｷ)、これは何に分類すればよいのでしょうか。一応、田畑地名にしましたが判りません。後で教えてください。

180.浮津(ｳｷﾂ)、根占町との境に近い所の国道沿いの集落です。しかし此処は港とか津とか、そういうことには特に結び付かない。あすこは断崖・絶壁になった所でです。一応「津」ということで交通地名に入れておきました。これ辺りがどうなんでしょうか。どうも関係ないような感じもしますけど。

169.泉。こういう文字が役場の方に書いてありました。角川にもこの文字で書いてありました。何と読むのだろうかと最初は判らなかったのですが、201.白木(しらき)というのがあり、「白木」のことだと見当をつけました。現地で聞いてみたら「ｼﾗｷﾊﾞｲ」ということでした。

次は馬籠(まごめ)。馬籠は伊座敷(いざしき)から山の上に上って行った所です。交通の要衝で一つは大中尾(おおなかお)・辺塚(へつか)に行く道、もう一つは郡(ｺｵﾘ)へ行く道、もう一つは伊座敷に下りる道です。すべて馬籠を通る形になっています。

ところが、佐多の地名は物凄く入り組んでいるのです。此処が伊座敷ですが、その隣は字名なしです。此処も字名なし。何故字名がないのかと聞くと、官公山(かんこやま)だという。官公山というのは官が持っている土地で、そういう所は字名がないのです。これを通り過ぎると字名が出て来ます。非常に広い範囲が、2/5程度が字名がない土地になっているのです。此処が馬籠ですが、飛び地があったり、此処は郡の小字があったりで入り組んでいます。こっちは馬籠で隣は郡だ、と。非常に複雑です。何が何か、此処辺りの所は聞いて行くとどっちなのか判らなくなる所が多い状態でした。此処にも71.木佐貫があります。

馬籠3.No.8.91.栗柄野原(くりすのはら)（栗柄とあるのは栗栖の誤記だろう）とかいう地名があるのですが、これが一体何なのか。辞典を見たりすると「ｸﾘｽ」というのは崩壊地名だと出ているのです。こういうのはよく判りません。後で教えてください。（編集時後記：久留須(くるす)と書かれることが多く、シラスの対称語：黒土・黒砂のこと）

No.9.151.月形(つきがた)ノ前。これは一応信仰地名として処理しました。此処に月形神社があります。尋ねると、此処は山の上なんですが、満潮になると小さな岩に水がいっぱい溜まるということで信仰を起きているわけです。神社も建てられ、戦時中は佐多の人たちはこの神社に二十三夜待などでお参りしたり、出征する時はお参りしたりしたそうです。大きな鳥居が建っていますが、行ってみると草ぼうぼうです。鳥居だけは綺麗です。鳥居引きをしたりするとのことで綺麗な鳥居ですが、草ぼうぼうになっています。

郡。郡には鎌倉時代以降：中世のいろんな地名が残っているのじゃないかと思ったりしますが、確実には捉えていません。

それともう一つ、佐多という所は昔の砂鉄の産地・鉄の生産地ですので、それに関係するような地名がないかなと気を付けて見るのですが、これと言って残っているようなものはありません。そういうものがあれば面白いと思うのですが、鉄に関する地名がないのです。強いてあげれば、郡の40.城(じょう)ケ原(がはい)という地名でしょうか。それ以外の所では特にないようです。

No.13.辺塚(へつか)。1.柴立(ｼﾊﾞﾀﾃ)、これは信仰地名。9.鳥井ノ前(ﾄﾘｲﾉﾏｴ)、これは辺塚神社の鳥居の前の田圃。22と23.が西ノ城(にしのじょう)・東ノ城という所です。No.14.の25.人塚(ﾋﾄﾂｶ)というのがあったり、78.鍛冶ケ沢渡(ｶｼﾞｶﾞｻﾜﾜﾀﾘ)というのがあったりします。恐らく鍛冶屋の集落があったのだろう思いますが、現在は地名としては「沢渡(ｻﾜﾜﾀﾘ)」になっています。5～6戸ありますかね、小さな集落があります。

レジュメの方を簡単に説明します。インプットの段階で「谷」「迫」「平」「原」と次々に出て来たもんですから、いくつあるかなということで整理してみました。

小字総数 596。596の中では景観・自然地名が多い。そう言った地名が多いから「迫」とか「平」が多いのかなと思いました。意外と川や湿地に関する地名が少ないな、と思いました。

「泊」の地名がいくつかありますから海上交通が生活に結び付いていたと感じます。山に関する地名もかなりあります。

「迫」地名だけをあげると 37。596の中の37ですから10%に届かないのですが、7%が「迫」地名。「平」も47ですから1割程度。「尾」もそうです。「原」は23、「園」は伊座敷を中心に多く見られるなと思いました。「谷」も大体似たような数になります。一応そんなところで説明を終ります。

〔質疑応答〕

平田　質問があったら出して下さい。

上野　馬籠の131.矢木遣(ﾔﾔｲ)。木へんの文字は金へんにすれば鑓(やり)です。木へんでもヤリで通るのではないでしょうか。「ﾔﾔｲ」の方が一応正解。

隣同士で同じ字名

納　隣同士で同じ字名を使っている所があります。佐多の場合、佐多辺塚、それから内之浦にも内之浦辺塚。同じ肝属郡に吾平論地・高山論地とあります。川内と串木野の間に、川内川の左岸になりますか、川内市と串木野市とに亘って同じ字名があるのでがすが（土川(つちかわ)のこと）。町村が分かれて字名の同じものがあるのは、吾平論地と高山論地の場合は町村が分かれる時、議論をして別れたようなことで、土地の人はそれで「論地」なんだとの理屈を付けているのですが、どうしてあのように別れたのだろうか。どちらにも引

き：譲歩の姿勢がなかったのかなと思うのですが。

米原　あすこの境は、いまでこそ自動車が通っていますが、かつては簡単に行けるような所じゃなかった。内之浦辺塚と佐多辺塚は通婚圏というのですかね、結婚などがあったようですから、行こうと思えば行けるのですけど。元々一緒だったというよりは、辺塚は辺鄙な所ですから、内之浦辺塚も一番奥まった行き止まりの所ですから、そういう所は当然一番端っこというような名前が付いただろうと思うのです。「塚」にしても、あすこはいろんな昔の史蹟があり、伝承もあります。今でも平朝臣などという立派な墓を造ったりしていました。意識としてはプライドが高いという面があります。

納　内之浦辺塚・佐多辺塚もそうですが今でこそ簡単に行けます。高山などでは小さな溝を挟んどるのですよ。これが町境になるのですよ。同じ論地なんですがね、どんなにしてあのように分かれるのかと思うのです。

平田　論地は争った所ですね。それを裁定で分けたら二つに分かれることになる。

納　吾平論地の場合では、間に小さな溝というか川というかな。

平田　それを境界として分けたのでしょうから。それ以来、意識的に互いに高山論地・吾平論地と呼んだのでしょう。

上野　論地は溝辺にもありはしませんか。

平田　あっちこっちにありますよ。論山とか論地とか論迫と。

米原　内之浦辺塚と佐多辺塚とは地図の上では隣同士で、同じ辺塚。とくに何か関係があってというようなことではなくて、一番奥まった所というような土地です。

平田　昔は舟で行くコースがあったはず。

米原　そうです。

平田　海上交通の方が便利。

納　どちらも端っこという地名、な。

伊座敷と佐敷・那波

米原　伊座敷という地名。これも何なんだろうか。伊座敷。熊本県に佐敷、沖縄県にも佐敷がありますね。皆、湊町というか、海に面しています。伊座敷も現在は「座」を書きますが昔は「佐敷」を書いた。そうすると、熊本の佐敷、佐多の伊佐敷、沖縄の佐敷、この辺りをどう考えたらいいのかなと思ったりもします。

上野　今、この地図を見ると「那波ﾅﾊ」という地名がある。佐多辺塚に。

米原　地名にもありますし、地図に出ています。

平田　国分にも「名波ﾅﾊ」という地名があり、古い時代：大昔の漁場＝ナバの名残だろうと思います。伊座敷の場合、「ｼｷ」という言葉の意味について『日本国語大辞典』小学館には20例近くの解釈が載っています。その中の一つに「ｼｷﾅﾐ（敷波）」というのがあって、次から次に浜辺にうち寄せる波を敷波という。その敷波によって座敷のようなきれいな砂浜が出来る。

鹿児島県の地名の中には敷根があったり、伊敷があったり、「ｼｷ」地名は多い。伊座敷の浜というのは、いざよい寄せ来る敷波が寄せたり返したりして出来たきれいな砂浜があった。その砂浜がコンクリート護岸で固められた。（テープの切れ目で録音されておらず、若干補足した）。

伊座敷という地名についてイザナギ・イザナミ神話を考えたことがあります。20年ばかり前ですが雑誌『歴史と旅』に書きました。最近民俗学の人たちが、イザナミはそのままですがイザナギをイザナキと表現することに触発されてのことです。小さい時から「筑紫の日向の橘の小戸の檍原に坐しますイザナギノカミ」と祝詞にあるのが耳にこびりついているので「イザナキ」に違和感を感じたからです。「イザ」は、いざよう・十六夜・いざさらばなどに用いられ「さあ」と誘う表現。ナギとナミは渚と波の関係。渚は波を誘いながら寄せたり返したりで美しい砂浜を造って行く。また激しい波に対して波一つ立たないナギの水面がある。本性からみると激情的なナミは女性的、もの静かなナギは男性とみなされる。イザナギ・イザナミの国生み神話は油なす漂える海原を天浮橋から天沼矛でかき回すと凝り固まってオノコロ島が出来た。オノコロとは「男児オノコ＋語尾ロ」、犬ころチビコロなどの表現と同じ。男女の神の交わりで男児が生まれたという話になる。また、オノコロ島は淡路島のことだと教えられて来た。淡路島に式内社伊弉諾神社があるので、イザナギ・イザナミの国生み神話は淡路島の浜辺でもの知りの古老が子供たちに話した物語がその始まりと思う。その昔の伊座敷の浜の写真を思い出して、イザナギ・イザナミ神話を連想しました。

佐多という地名

繁昌　佐多岬と類似した地名が四国にあります。佐田岬。両者を考えると端っこという意味ではなかったかと思うのですけど。

平田　鹿児島県の例をあげると阿多に対して佐多がある。一般的な表現では上がると下がる。四国には英多郷と賞多郷があった。アとサは対照的な表現になる。

納　大隅は大きな隅っこ、薩摩は小さなツマ。どちらも端っこという意味に理解出来ますね。大隅の「隅」は「ｸﾏ」とも読めます。その下の方にあるから、熊毛郡という解釈もありますね。

平田　周防国にも熊毛郡があるから、その解釈は無理。

納　それを考えるとおかしいですね。

木佐貫・五色

平田　木佐の意味はよく判らないのだけど「貫」はシラスの崖にトンネルを掘って水を求める穴を「貫(ﾇｷ)」と呼んでいる。

上野　鹿児島県にはそのような「貫」地名は多い。

納　大隅に行けば・・・

米原　鹿屋に田貫神社があります。

平田　五色という地名は多い。以前から気になっている地名です。五敷・郷敷・郷式・川敷・郷鴨など、いろいろあります。

米原　あぁ、そうですか。そうすれば色にこだわってはいかんですね。

平田　強いて解釈すれば河川敷？

納　五色。陰陽で言えば木・火・土・金・水の五つの色で表した・・・

平田　陰陽道？

納　縁起の良い色として御触があったようなことはないでしょうね。

平田　さぁ、それは？判らない地名には信仰にからむものがあるかも知れないけど、判らないのは判らんとした方がよい。そのうちに判る時が来るかも知れないという気持で対処した方がよいと思います。無理な解釈・こじつけはしない方がよい。

割子・津和山

平田　割子(ﾜﾘｺﾞ)というのは二つに割れた

器。そういう入れ物があったのじゃないですか？そういう物の形に似ていることで名付けられた地名（編集時後記・割子（ワリコ゛）は二つに仕切った昔の弁当箱）。

38.津和はツワブキから来たもの。植生地名で目印地名とした方がよい。

米原　そうですね。

平田　ツワが採れる山と理解する方が自然

米原　その辺のところが、どれに入れたらよいか、悩まされる。

平田　二つに印を付ければいいのですよ。一つに限定すると悩むけど。

米原　あぁ、そうですね。一つにすると無理に解釈する。そうなると自然とか目印に目が向いて安易に入れてしまう。

佐多薬草園

上野　佐多は確か島津家の薬園があった所じゃないですか。

米原　はい、そうです。

上野　辺鄙な所で容易に近づけないような場所。

米原　佐多には姥捨伝説があります。辺塚辺りに俗称地名ですが、正月山というのがあります。正月用の柴をとりに入る山だろうと解釈出来るのですけども、どんな山ですかと聞くと昔姥捨山だった、と。

浜田　話は聞くけど、その実態はどうなんですか。

米原　姥捨は県内のあっちこっちにあります。指宿にもその伝説があります。

上野　薬園があっちこっちにあるということは、ある意味では地方の実情とも結び付くのかなと、そんな気もするのですが。

納　　指宿にも薬園があった・・・

平田　それは山川です。

米原　山川と吉野と佐多ですね。山川と佐多は海を挟んで向い合っていた。

上野　あぁ、成る程。研究成果も舟で送ってやれる。錦江湾を出て佐多岬を回るというのは、あれは最悪のコースですね。

平田　海が荒れるからね。

上野　だから、そのルートを通るつき合いというのはないけど、錦江湾を挟んでのつき合いは多いでしょう。

平田　まぁ、通婚圏ですね。

米原　そうですね。

佐多の製鉄

浜田　先程、話がありました佐多の製鉄のこと。私もいろいろ調べたことがあります。地名から云うて、多分古い時期ではなかっただろう、と考えています。地名が全然入っていないから。

米原　入っていないですね。

浜田　だからそんなに古い時期ではない。地名と古代の製鉄は結び付いている、という説を私はその時云うたのですけどね。

上野　小園先生が此処で発表された時、炉のことを話された。そして種子島と結び付けられたのですね。

浜田　佐多には製鉄に関する地名がほとんどないのです。重大な製作形態が地名に入らないはずがない、というのが私の意見だったのです。あっちこっち見に行きました。田代の方は一番高い山の上で、川のそばになる。

米原　そうです。

浜田　炉を作った痕もあります。だけど地名から眺めた場合、古代の製鉄地名が見られない。だから、そんなに古い時期ではないと私は見ています。

上野　少しぐらい「タタラ」という地名が

あってもよさそうですね。

浜田　中世史研究会でよく話が出るのですよ。祢寝院の鉄器の製造は相当古い時代からという説明が出て来る。相当古い時期、それは平安時代かと云えば、まぁ古い祢寝院とか云う。古い製鉄地名がないので案外後世ではないか。

平田　佐多の製鉄は起源が新しいとの説ですね。

浜田　そうでないと理解が出来ない。

過疎の進行

平田　今度の選挙は郵政民営化が争点とされていますが過疎で農村も漁村が消えかかっていることの方が問題なんだけど。

米原　兎に角多いですね。昔集落があったのだけど、今はない。いわゆる禿集落が兎に角多い。

浜田　郵政問題は、郵便局・特定局の問題じゃない。特定局が成り立たないというレベルの問題じゃなくて、佐多町の人口は以前は６千人ぐらいだったのが今は３千人ぐらいになっているのでしょう。この10年ぐらいで。鹿大が民俗学的な調査をする時に付いてあそこまで行ったのですけど、集落がなくなっている。集落がなくなっているのを行くたびに見て来ました。

昭和40年頃ですかね。辺塚分校に赴任した小学校の先生が一か月ぐらいで休んで帰ったそうです。もう分校は今はないのじゃないですか。今行ったら道がなんとかあるような状態で、５～６軒ありますかね。

米原　辺塚ですか。家はかなりあるのですが、全部高齢の方ばかりです。

浜田　そういう家なんか、車を停めておけば猿が出て来て車の上に坐っている。しかし歴史学的に云えば、いろんな地名とか民俗とか古いものが残っている。純粋なものが残っていて面白い所です。

鹿大が民俗学的調査をした時、一番関心を払ったのは「オットイ嫁女」という言葉でした。これが強烈に残っているのです。オットイ嫁女の話をいろいろ聞きました。あれは親同士が相談して銭がなかでオットッテクレというのがほとんどでした。

平田　その風俗を復活させたら（笑い）。

浜田　昔は結納とか、あるいは着物を着せにゃいかんとか、そういうのがありましたでしょう。今はそういう時代じゃないから。現在はそれこそオットイ嫁女です。

平田　今は男性の方がちょっとだらしがないのかな。オットイ方法も知らん。

佐多の製鉄（再度）

上野　佐多の製鉄と種子島の関係について私の研究とも関係があるので述べます。鉄砲伝来の直後ぐらいに種子島で内紛が起きています。根占の方に付く勢力と一方は島津貴久の方に付く。貴久側に付く者が多かった。貴久の頃には鉄砲とからめた利害関係があったのではないか。

浜田　もっと以前のことでしょう。鉄器が佐多で製造されるのは、製鉄地名がないことから見ておそい。恐らく中世の中頃ぐらいじゃないか。あすこの砂鉄で製鉄が出来るかの分析・調査も試みられている。

それから浜崎太平次が根占に工場を持っていた。その前に製鉄が起ったのは喜入よりも後だから、中世の後葉ではないか。製鉄地名はそれ以前から全国的にあったのです。あの辺には精錬に関係のある地名がないのです。国分には銅田とかあるでしょう。大雑把な話

で歴史的裏付けのない、思い付きの話です。

銅田

納　その銅田について、国分寺に結び付くのかは判りませんが、あそこに鐘突(カネツキ)という集落があります（編集時後記：小字鐘突は国分高校の裏、城山の下にある）。熊本県にも鐘撞という地名がある。鐘撞きの御堂に由来するのではないか。国分の銅田というのは私流の解釈ですが、あそこには銅を造りそうな所はない。鐘撞きの堂があってそれに銅を使ったか。私はそういうふうに解釈しました。御堂の経営に必要な田圃、それが堂田で、堂田から銅田になった。二月田・三月田と同じ性格のものから来た。堂田と解釈すれば、どうですか。

上野　国分に銅山はあったのですか。

浜田　私は鹿児島神宮の関係で調べたことがあります。鼓田(ツツミダ)とか御供田(ゴクデン)とか、そういう中で銅を掘った例がある。それから考えると銅を掘ることに関係した人がいた。現代人の関心は金goldですが、昔は銅だと、私はそういうふうに解釈します。

上野　寺に関係した「堂田」なら「銅田」と書かれるのは、どうなるのか、ということですね。（３人がそれぞれ発言してわいわいがやがや話が混乱、各人耳が遠いのか録音を聞いても何が語られているのか判断不能）。

平田　「銅田」にからんで「銅山」の話が出ました。銅山が具体的にどこにあったのか確認してはいません（編集時後記：銅田から検校川(けんこうがわ)に沿って上流の方に行くと銅山という地名が残存しているとのこと）。銅田があるのは上井(うわい)になります。検校川に沿って上流に向かうと川原(かーばる)になります。川原の景観は福岡県（豊前国）の香原(カハル)に似ている。実際に訪れたのでなく写真で見ただけのことですが、よく似た景観です。香原には採銅所(さいどうしょ)という地名があって、銅を採ったことは古くから知られています。とくに東大寺の大仏を鋳造するのに採銅所の銅を用いたことは有名な話です。

大隅国設置の翌年、豊前国から二百戸が隼人教導のために移住して来ます。溝部という地名が移って来たのもそうですが上井にある韓国宇豆峯神社をもたらしたのも豊前国から来た人々です。当然、大隅国府周辺で金・銀・銅などの鉱山を探したと推定出来ます。堂田から銅田への変化でなく、銅田には鉱物資源を探した歴史が秘められているように思います。また、溝部を名乗る人々は採鉱や土木などの技術を持った集団と考えられます。現在、全国に散らばっている溝部姓の人々は土建屋さんが多いとのことです。

上町の地名

平田信芳

上町の範囲

上町(カンマチ)と下町(シモマチ)の境はどこになるのか。この会場のある上竜尾町(カミタツオチョウ)も一般的には上町と考えられていますが、厳密に云えば上町ではないのです。

江戸時代の上町は、地蔵町・柳町・車町・和泉屋町・戎町・浜町の６町。明治以降は、小川町(オカワチョウ)・和泉屋町(イズミヤチョウ)・恵美須町(エビスマチ)・車町(クルママチ)・栄町(サカエマチ)・柳町(ヤナギマチ)・浜町(ハママチ)・向江町(ムカエマチ)の８町になります。

地蔵町は栄町と名前が変わります。現在の栄町というのは、鹿児島駅から清水町(しみずちょう)に向うバスの停留所にその名が残るだけです。戦時中まであの辺に専売局があって、鹿児島駅・専売局をねらった爆弾が落とされ多くの死傷者を出した所です。栄町という実体はなく、バス停に栄町の名があるだけです。

和泉屋町はＪＲの踏切辺りです。柳町は変っていませんが恵美須町・車町辺りは上本町(カミホンマチ)に呼び名が変っています。

高山彦九郎（寛政三奇人の一人・勤皇の志士）が雲仙岳が爆発した時に薩摩国を訪れています。「島原大変、肥後迷惑」という有名な表現がありますが、彼はちょうどその一日前に薩摩国の関所：野間関に着いているのです。しかし、うさん臭いと見た関守が通してくれなかった。一週間ほど足止めされた後、許可されて鹿児島にやって来た旅行記録が「筑紫日記」として残っています。

そうですね。後に私学校になる御厩の北側の道沿いに昔は堀があって、いくつか橋が架かっていました。その堀が上町・下町の境だと書いているのです。上町・下町の境を具体的に記しているのは高山彦九郎の旅日記だけです。

ところが鹿児島の人たちは一般的に鶴丸城の堀の南端：本丸と二之丸の境から東の方に向う堀というよりは大きな溝がありました。今は暗渠になっていますが、それを上方限(かみほうぎり)と下方限(シモホウギリ)の境にしていました。すなわち鶴丸城本丸と二之丸の境の線で北が上方限・南が下方限と分けたのを、上方限にあるのを上町、下方限にある町を下町というふうに受け止めてしまったのです。そのために清水町や春日町なども上町と呼ぶようになったのです。

明治になると厳密な上町は江戸時代の６町に小川町(オカワチョウ)と向江町(ムカエマチ)が加わったのです。小川町はどの辺かというと、鹿児島駅のすぐ近くに踏切があります。鹿児島駅前電停側の踏切と理解してもよろしいです。その踏切で海の方に向かって立つと、右手の方に展開する町並みが小川町、正面の日本通運の敷地から国土交通省鹿児島出張所にかけての地域が向江町になります。

また、その踏切から昔の鹿児島県庁：今の県民交流センターに向かう道の左側：東側一帯が小川町になり、以前南日本新聞社や鹿児島税務署があった所が易居町になります。小川町も易居町も幕末の埋立地です。そして小川町と易居町の境界が上町・下町の境にもなります。

江戸時代は武士中心の社会ですから鹿児島城下は上方限・下方限の感覚で上・下に区分されていたのです。そうすると、上町というのは大竜小学校の所にあった内城に伴う城下町、下町は鶴丸城に伴う城下町として発達した町人の町だったとも言える、戦国時代の城下町が上町、江戸時代になって発展したのが下町と見ることも出来ます。

納　それで、ちょっと困ったことがあるのですよ。ＭＢＣのテレビ番組だったと思うのですが「上町ことばを話す人はおらんか」というのです。彼のいう「上町ことば」とは上方限の言葉なんです。それを上町とごっちゃにして云うもんですから手こずりました。本人さんは下町に住む裕福な人たちの言葉を

上町言葉だと念頭にあるもんだから、それを訂正させるのに難儀しました。最後まで上方限の言葉を上町言葉だと思い込んでおり、今でもそのように思っているようです。

仲町や呉服町のよか所：金持ちの商売人の奥さん達が使われる言葉、それとごっちゃにしとるわけです。呉服町や仲町の大きな商家の奥さん達が上方限野武士の奥さん達と往来があったもんだから、こっち（下町）の言葉を上方限の奥さん達も使うておいやった。それを上町言葉と考えている人たちは多いのです。

そこは上町じゃなかど上方限じゃっど、と云うても、うんにゃ上町じゃっ、と。上町そのものが動いていますからね。その辺がごっちゃになっています。

上武士・下女子

もう一つ、鹿児島では「上武士・下女子」という表現があります。上武士さぁ：上方限の武士たちは西南戦争の時には、殆ど動かなかったのです。それで、よかぶっちゃおるけど、いざという時にはやっせん、役に立たん、動かん、と。西南戦争は鹿児島城下士の中でも下級武士が中心になったのです。上方限の武士たちはそう簡単には動かなかった。

納　それで「上武士(ｶﾝﾌﾞｼ)・下女子(ｼﾓｵﾅｺﾞ)」というのですね。

平田　下町の女子は裕福な家で育ったからよかぶっちゃおっどん仕事はせん、仕事は出きん、と。

上竜尾という地名

一般的に上方限の地名は見ただけで大体の意味は判るのですが、竜尾だけはその意味はちょっと理解出来ない。柳が植えてあった柳町、車が控えていた車町、浜町は浜を埋めた所、小川町は滑川が流れていた、向江町は向う側に出来た町、清水町は仁王堂水という泉があり、稲荷町は稲荷神社、池之上町は蓮池があったから。ほとんどが地名の由来も容易に判ります。

納　車町ですが、人によっては廓：遊廓があったからというのもあります。

平田　あすこに廓はないですよ。どっちかというと浜町の方にあった。

納　それから戎町ですね。今は納屋馬場(ﾅﾔﾝﾊﾞｱ)がありますが、あすこに上町の納屋があったから戎町が出来たという説もあります。

平田　下町ではイヅロ（石燈籠通り）の角の所に大黒神社があります。下町では大黒様を祀った。これに対して上町の方は戎様を祀った。戎と大黒というコントラストが見られる。戎も大黒も、まぁ正体不明の神様です。そして商売の神様になった。エビス・ダイコクの違いが上町・下町の違いにもなっている

このように考えて来ると、この辺で古くからあるのが大竜小学校になります。これに共通するものがあります。大竜小学校の「大」は島津貴久：「大中公」、「竜」は島津義久の号「竜伯」に拠った。15代貴久と16代義久が内城に居城し、その跡に大竜寺が出来た。明治以降その跡に大竜小学校が出来た。「竜伯」という名称は何か意味がありそうな気がします。一説によると「河童」のことだとも云いますが、島津義久はあちこちで雨乞いをしているのです。雨を降らすのに大きな役割を果たし、その効果があったと伝えられています。国分に行くと「竜王」という地名があります。竜王は中国渡来の水神で、今でも水神として崇拝されています。

ところで此処には鎌倉時代以来、浄光明寺という時宗の寺があった。薩隅日に於ける時宗の本山でした。今は時宗の寺は鹿児島県に一つしかないのですが、浄光明寺は冷水の水源地を支配していた。冷水峠近くに水源地がありますが、あれを支配していた。現在は鹿児島市水道局の所管になっていますが歴史的経緯から浄光明寺は市に対して水道料金を支払わなくてよいことになっているようです。

市水道局は水が出る所はすべて取り込んでいます。清水町の仁王堂水も福昌寺の水源地も水道局が確保しました。お陰で清水町は干からびた町になりました。

さて、竜尾というのは竜の尻っぽでなく、竜王を「ﾀﾂｵｳ」と読んで、それが竜尾に変化した可能性があるわけです。昔は寺には鎮守神神社には別当寺という表裏一体の組合わせがあるのですが、浄光明寺にはペアの神社が伝えられていないのです。しかし此の山（浄光明寺山）の一角に竜尾神社とおいうのがあったようです。竜尾神社の祭神が竜王であればと考えられるのです。

竜ケ水(ﾘｭｳｶﾞﾐｽﾞ)

納　竜ケ水は大雨が降ると崩れるような「流ケ水」でしょう。あれは崩れそうな名前になってますね。

平田　それは文字が違うでしょう。

納　字が違いますか。

平田　あれは歳久を祀った龍水山心岳寺から来ているのです。

浜田　竜ケ水ですか。心岳寺から来ているのですね。

平田　そして明治の頃は『鹿児島県地誌』ではあの辺の字名は「塩ケ水」になっている

浜田　龍水山心岳寺としたら、あすこに龍ケ水という地名があったから、心岳寺を造る時に龍水山と付けたのではないでしょうか。それは、どっちでしょう。

平田　そうなんだけれども、明治の頃、竜ケ水の人たちは殆どが「塩屋」姓を名乗るのです。塩屋を名乗って製塩業：塩を造っていたのです。塩を造っていたから地名としては竜ケ水でなく塩ケ水と呼ばれたのだと思います。しかし塩ケ水では鉄道の駅の名前としては良くないということで、駅の名に竜ケ水とと付けたと考えられるのです。

浜田　わざわざ竜ケ水と付けたのか、竜水山心岳寺があるから竜ケ水と付けたのか。

平田　「竜」の字を付けた寺は多いのですよ。あれは禅宗の寺かな。不思議なぐらいに「竜」が付くのです。神社でも寺でも手洗水は多くの場合、竜の口から水が出てきます。すぐそこにある浄光明寺の入口にも手水鉢があって竜の口から水が出ています。浄光明寺の竜の頭は反田土石製の見事な彫刻です。

箱水(ﾊｺﾐｽﾞ)

浄光明寺脇の石段：女子坂(おなござか)を登り切ると、その正面の石垣の所に箱水の痕が残っています。今でも箱水の痕と見ただけで判ります。箱水というのは江戸時代から明治・大正にかけて鹿児島市の随所にあった水道施設です。箱水の数を調べたものがあります。明治32年9月6日の「鹿児島新聞」に鹿児島市の井戸数と箱水数というのが載っています。井戸数は4,623とあるのですが、個別の数を足すと5,439となり、その差815が箱水の数になると思われます。100年前の鹿児島市に800ばかりの箱水があったことになります。鹿児島市は早くから水道施設の充実に力を入れていたことが伺えます。

ところが、現在箱水は殆ど見られなくなった。何故なくなったかというと第一に考えられることは台地上の開発によって雨水が溜まらず井戸水が涸れたことです。水の確保・管理に問題があったということです。現在鹿児島市の人口は約55万人から、周辺町村の合併で60万人になろうとしています。県の人口は180万ないわけです。鹿児島県の人口の1/3が鹿児島市に集まって来ている。明治初めの人口は、鹿児島県は約80万人、鹿児島市は約10万人でした。1/8なんです。現在は1/3。そこに大きなアンバランスがあることに気付かなきゃいけないのですけどね。無理して台地上を開発している。

上野　今度、鹿児島市はいい処を見付けましたよね（笑い）。喜入・松元・郡山・吉田・桜島と、よかゴミ捨場を見付けたわけですよ（笑い）。関係する人がいたら悪いけど、私はそう見ています。何も鹿児島市は合併する必要はない。むしろ田舎を抱え込んだら世話がやける。それを抱き込んだのは何かねらいがある。

納　今云われた箱水。二見屋のおばっさんが「昔は納屋馬場から石燈籠の箱水を貰け行っもんじゃった」と、箱水という言葉を使こおいやした。箱水て何じゃろかいと考え方でした。その後、易居町に鹿児島商業学校があった時代に火災に遭いまして、その火事を消すために側にあった箱水の水を持って行って掛けた、と。鹿児島商業が燃えた時に箱水が役に立った。それで箱水のわけ：存在理由が判りました。

平田　箱水が形として残っているのは磯庭園の中、曲水の宴が行われる所。それから福昌寺墓地の中に残っているけど、これは水が全然入っていません。それくらいかな。

上野　台地の下の方にいっぱい箱水があったのですか。

平田　街角には大抵あった。どれくらいの数になるかというと、人口は大体10万、10万に対して約５千個の井戸がある。20人に１か所の割合で井戸があったということですね。また125人に１か所の割合で箱水があった。そう考えると鹿児島市は「水」だけは充分にあったことになる。

浜田　井戸は殆どに家にあった。井戸のあるのは常識だった。

平田　市内に三つの川が流れているわけですからね。稲荷川・甲突川・田上川。その周辺に地下水脈があった。どこを掘っても井戸水が出た。今、川を見ていると水面が相当下がっている。低くなっている。台地の上に団地が造られて保水力が失われている。

浜田　武岡の入口に住んでいる人たちに聞くと、皆涸れたという。昔はこんこんと湧き出ていたが、それがなくなった。市の水道に頼るようになった。そのうち井戸が涸れたと苦情が出るかもということでした。井戸が涸れたのは武岡の開発の後ですよ。私なんかの小さい時は、こんこんと湧き出て流れてました。水上坂(ﾐｯｶﾝｻﾞｶ)の入り口。

平田　あれは阿弥陀井戸と呼ばれるもの。

浜田　その頃は出よったですよ。井戸が涸れたのはやっぱり人口関係ですかね。水道局は罪滅ぼしに水道を提供しているという。

平田　近辺にある地名で、これはどんな意味だろうかというのを出して下さい。

共研公園の由来

浜田　一昨年、ある飲屋に行ったのです。東京から来た人が来とっていろいろ話をしていたんですが、共研公園の話が出ました。側のホテルに泊っている、と。あそこに共産党の支部がありますね。その関係で共研公園と付けたんじゃないか、と（笑い）。調べてみるからということで、翌日二日酔いの頭でぼーっとしながら共研学舎に行きました。共研学舎が三方限の共同の学舎ということは知ってましたよ。共研公園には今の女子高の前身・・・

平田　女子興業学校。

浜田　そうそう。あそこにまだ道路があった。憶えてますよ。昭和22年だったのですが区画整理をしましてね、その時、跡を公園化したのです。何故共研公園と付けたかというと、あの辺の土地を交換分合で整理して広い土地を造り出した。その公園の所に明治12年共研学舎が出来た。何故共研公園になったかと云うと、共研学舎の理事長だった時任さんが交換分合で共研学舎が相当狭くなった。それで市役所に行ったら国家百年の計だと勝目市長が云やったということだった、と。その時の二人の話で「名前は何と付くかい」「共研公園と共研学舎の名をとればよか」ということで、共研公園の名になった。去年、公園の改装があって式典があった。式典の前に市に電話が来たという。新聞に共研公園と出たが何故共研公園というのか、と。市公園課は知らんと答えたそうです。

県外から来た人が共産党の事務所があるからというので、私は明くる日に調べに行ったのです。それで判りました。あれは時任さんと勝目さんの合作やっで、と。

昔は共研公園の脇に共研舎の建物がありました。同じ建物が、昼間は幼稚園、夜は学舎です。昭和23年に学舎は成立たんということで学校法人になった、と。その時「共研舎の歴史」というコピーを貰いました。共研公園の由来はそういう簡単なことでした。飲屋で名刺を貰っていたので時任さんと勝目市長の合作で共産党とは関係がないと知らせました

納　私は共研舎幼稚園を出ました。

浜田　あぁそうですか。舎が成立っていかんとのことで学校法人共研学舎共研幼稚園という形になった。

納　晩には、晩と言えばおかしどん、幼稚園が済んでから学舎でした。

浜田　あそこを出た人は、皆、二中に進んだ。

納　鹿児島市内の場合は昼間は幼稚園として、それが済んだら学舎というふうに両方兼用して使い分けておった。加治屋町もそうじゃらせんかな。

入来院　キョウケンとはどんな字を書くのですか。

浜田　共に研く(ﾐｶﾞｸ)、研鑽する。

上町地区の地名

平田　もう少し時間がありますから此の辺の地名を説明します。此処から西南の方に坂道を下って行けば長田町にでますが、この辺り一帯は上之原(ｳｴﾝﾊｲ)と呼んでいました。上之原を下ると昔は電車道がありました。そこが竪野馬場(ﾀﾃﾉﾊﾞﾊﾞ)です。竪野馬場を北の方に行くと直交する道路に出ます。それが竪馬場(ﾀﾃﾊﾞﾊﾞ)。竪野馬場を真っ直ぐ東北方向に行くと、柳町に柳町線電車の終点があった。柳町から上町になるのです。柳町から左に折れて北に登ると、そこがセモン坂。さらに北に進んだ所に玉竜高校に入る道があります。その辺を堂之前(ﾄﾞﾉﾏｴ)と云った。そこに地蔵堂があったからです。

セモン坂を下り切った所から西に入って行く道がアヒル馬場(ｱﾋｲﾊﾞｱ)で、その脇を流れる川がアヒル川。そこは昔アヒルを泳がせていた（曲者の侵入を知るために）。アヒル馬場の行きあたりで玉竜高校へ行く道とつながっていた。そこが観音坂で、そのすぐ上の崖に彫った観音像が残っています。アヒル馬場から観音坂一帯が内之丸（ｳｯﾉﾏｲ)という。内城(ｳﾁｼﾞｮｳ)に関係する地名です。アヒル馬場と内城の間に東西の道路があった。これを上之馬場(ｳｴﾝﾊﾞｱ)という。大竜小学校の所が内城跡です、内城の南側が浄光明寺から下って来る道になります。内城前のその道路が犬之馬場(ｲﾝﾉﾊﾞﾊﾞ)。犬追物を行った場所です。それが後に大竜寺馬場(ﾀﾞｲﾘｭｳｼﾞﾊﾞﾊﾞ)と名前が変る。その名前も消えてしまって「南洲門前通り」という妙な名前が付けられた。歴史無視も甚だしい。

大竜寺馬場のはずれ、この辺に南洲門前通の名前を付けてもいいのでしょうが、此処に階段があって西郷さんの墓に登りますから。この階段を登って行くと右側は南洲神社に行く道、左側は浄光明寺に行く道になります。右側は男坂、左側は女坂(ｵﾅｺﾞｻﾞｶ)になります。階段の入口から左に入って行く道が般若院筋(ﾊﾝﾆｬｲﾝｽｼﾞ)、そして今給黎病院の方へ下る道が佐藤小路(ｻﾄﾝｽｯ)。今給黎病院から右折して城山に向かう道が堀之内馬場(ﾎｲﾉｳｯﾊﾞｱ)。それを過ぎると岩崎谷になる。

鹿児島の地名として上之原(ｳｴﾝﾊｲ)と同じ文字で吉野にあるのは上之原(ｶﾝﾉﾊｲ)。ｳｴﾝﾊｲとｶﾝﾉﾊｲを鹿児島の人たちはちゃんと地理的配置を心得ていた。

略図を板書したのはどういうことかというと、明治10年９月１日に西郷さんたちは名越(ﾅｺﾞﾔ)どんの坂・鞦韆鼻坂(ﾀﾝﾀﾄﾞｻｶ)・番所坂(ﾊﾞﾝｼｮｻﾞｶ)を下って鹿児島の市街地に入った。名越どんの坂は名越左源太の野屋敷があった所、そこで齊彬擁立派が密議を行った。それがばれてしまって処分。いわゆるお由羅騒動になります。清水町一帯はお由羅生騒動の震源地：齊彬派の巣窟で、ほとんどが切腹させられます。反対派一掃の計画：お由羅排除お計画がばれてしまい、50人近くが処分を受け、その中の13人が切腹です。13人のうち半分近くは清水町の住人、一晩のうちに隣・前向いの家で、一族の者が集まって泣きながら切腹を見守る大騒動だったのです。清水町の者は、以後絶対に政治活動をしなくなるのです。それほど変わるのです。それが上武士さぁと呼ばれることに続くのです。

上方限の武士たちがそういう経緯で退いたので明治維新の主役は上町から出なかったことになる。全部、加治屋町・高麗町出身になるのです。お由羅騒動で処分されていなければ、当然その人たちが引っ張って行くことになり西郷・大久保は芽が出なかったことになる。歴史というものは意外ないたずらをするものです。

薩軍の城山進入路

脇道にそれました。本筋に戻します。明治10年９月１日、西郷さん達は鞦韆鼻坂を下ってきて堂之前で清水町の方に曲がる道があります。そこに一つ橋(ﾋﾄﾂﾊﾞｼ)が架かっています。私は一つ橋の脇で生まれましたが、川を挟んだ向い側：池之上町側に安政城下絵図では田中七之丞宅があります。此処を９月１日薩軍は本営にします。私が生まれた処の川向いの隣家・隣同士です。

その間に辺見十郎太たちが私学校を襲撃して官軍を追い払います。その後、夜になって西郷本隊は城山に入るのです。どの経路を通ったかというと、一つ橋を出て堂之前からアヒル馬場を通り、竪馬場に出て般若院小路に来て、佐藤小路に出て、堀之内馬場から岩崎谷を通って城山に入った。これが最後への道だったのです。

納　結局、西郷さんの最後の場所はどこだったのですか。

平田　はぁ？

納　別府晋介が最後に介錯をするでしょう。それで西郷さんの首は墓には入ってる。西郷隆盛の首は墓に入っとるのだ、と。

平田　入ってることにしてあるのです。

納　入ってることに。

平田　はい。

納　私が小学校の頃に聞いたのです。首は入っていないんだ、と。西郷隆盛の首は別府晋介がどこかへ持って行った、と。その墓にはないのだ、と。

平田　昔からそんな話があるのですか。

納　よくいう。私もないと思っている。上町の人に聞けばあるんだ、というのです。その首はどこにあるのですか。

平田　それは現在本屋で売ってますから、『歴史読本10月号』を見て下さい。

上野　首はないはずだ。あると云えばおかしい。首があったらロシア皇太子と一緒に西郷さんが帰って来るという話はあり得ない。首はないことにしなければいけない。首が入っていればロシア皇太子と一緒にやって来れない。

毘沙門堂

（堂之前の説明のところで質問されたことは記憶しているが録音では良く聞きとれなかったので順序が合わないが、最後に補足しておく）。

上野　毘沙門堂というのは、どこにあったのですか。

平田　川上昌久が切腹させられた所のことね。清水中学校の体育館があった所がその跡になる。体育館脇の道を山手の方に向かうと正面に高い石垣があります。そこが大興寺跡で、11代島津忠昌が自決した所でもあった。古老から「この庭で殿様が腹を切いやったたっど」と聞かされた。私が歴史専攻というのを承知で話されてことと感謝しています。染川どんの屋敷になりますが、現在は誰も住んでいません。二階建ての家は大正の初期に易居町あたり？にあった旅館の建物を移したものだとのことです。空襲で古い建物が焼かれた鹿児島市では、放置されているのがもったいない気がします。

今日はこの辺で終わりにしましょう。

佐多の地名

1、三国名勝図絵・・或る説に日、当社は出雲国秋鹿郡佐多神社を勧請す、佐多の名は是に因て得たると、

2、役場台帳と角川地名大辞典とのちがい

3、小字の分類

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
	信仰	城郭・集落	土地・区画	市・街・交通	水利・川・池	人名・職掌	開発	職業・産業	田畑	瑞祥	景観・自然	位置	形状	目印	侵食・崩壊	川原・湿原	気象	意味不明
伊座敷209	10	3	3	23	2	3	13	9	12	2	55	40	4	19	6	4	1	
馬籠159	9	4	0	15	3	2	1	6	5	1	35	51	6	16	2	1	2	
郡112	2	3	0	9	4	3	5	4	8	0	26	26	2	17	1	2	0	
辺塚116	4	4	0	10	7	1	4	5	12	1	22	34	2	7	1	1	1	
小字総数596	25	14	3	57	16	9	23	24	37	4	138	151	14	59	10	8	4	
%	4	1		9	2	1	3	3	6		23	25	1	9	1			

4、<迫　37>

伊座敷15・・井迫、後ノ迫、桃木迫、桑ノ迫、外ノ迫、釘ノ迫、谷ケ迫、漆ノ迫・・

馬籠　8・・水ノ迫、牧ノ迫、前迫、大迫、茗荷迫、挽木ケ迫

郡　8・・小谷迫、釜ケ迫、相ケ迫、広迫、船迫、鬼ケ迫、

辺塚　6・・船迫、運迫、小迫、宇都迫 、灰ケ迫、谷之迫、椨ケ迫

5、<平　47>

伊座敷16・・赤土ケ平、中野平、大谷平、山ノ田平、上ノ園平、西平、東平、大迫平

馬籠　17・・エビス平、本田平、一崎ケ平、狐ケ平、嶽道ケ平、銭ケ平、桜平、

郡　7・・大谷平、水ノ平、田ノ平、平松、平山、

辺塚　7・・下萩平、向井之平、地平、

6、<尾　15>

伊座敷　6・・松尾、尻無尾、丸尾、宮ノ尾、土取尾、菖蒲ノ尾、

馬籠　3・・大瀬尾、湯ノ尾、仁野尾

郡　4・・枇榔ケ尾、鳶ノ尾、中尾、丸ノ尾

辺塚　2・・大那木尾、中尾

7、<原　23>

伊座敷　9・・西ン原、一才原、新ノ原、中原、仁田原、唐木原、木場原、鳥井原

馬籠　11・・赤瀬原、宇宿原、大瀬原、前ノ原、高瀬原、野原、五郎原、城之原

郡　5・・平原、巣森原、平原、城ノ原、川田原、竹原添

辺塚　3・・谷ノ原、田原、上ノ原

7、<園　10>

伊座敷　6・・ 有木園、中園、福園、雇園、上之園、園田、

馬籠　0

郡　2・・古園、宮園、園ノ内

辺塚　2・・上之園

8、<添　6>

伊座敷　1・・垣添

馬籠　1・・道添

郡　2・・竹原添、野添

辺塚　2・・野添、山添

9、<谷　16>

伊座敷　2・・割子谷、島子谷

馬籠　9・・河良谷、松保ケ谷、枇榔ケ谷、菅ケ谷、道添谷、八ケ谷、大谷

郡　3・・大田ケ谷平、小谷迫、大谷平

辺塚　2・・水谷、谷之原

10、　<門>

※門名概観――調査小牧「郷土佐多」より

伊座敷村

永山、木佐貫、黒木、堀切、上之園、植木、持留
入ケ町、阿保、長浜、福留、向井、迫、中園、猿
喰、露重、檀木、小田、瀬戸山、西野、桒田、尾
崎、今別府、二階、川内、白木、木場、下岩、吉
永、尾迫、浮津、垂水、鞍掛、上之脇、橋口、西
方、上籠、平川、橋本、牧内、平原

馬籠村

福里、杉原、馬場、川田代、蓬萊、永吉、宝船、
東山崎、鶴田、片野坂、吉永、上籠、前田、加田
日高、田中、大久保、土持、平松、石原、折山、
宝満、中村、山里、福園、山野、福多、有村、溝
辺、川越

郡　村

松元、岩元、西方、成尾、前田、古里、富丸、若
松、川尻、巣脇、永江、海陸、川田原、山之口、
今針山、塩屋、立切、白川、上坂元、中園、永栄
花月、若山、松山、木屋川内、西保

辺塚村

栗栖、上之原、平原、荻平、湊原、辻、内山、浜
川、中野、八重岳、熊畑、郷里、沢渡、田畑、鍋
田、牧之内、那波

No.1

	佐多町大字	伊座敷1		1 信仰	2 城郭・集落	3 土地・区画	4 市・街・交通	5 水利・川・池	6 人名・職掌	7 開発	8 職業・産業	9 田畑	10 瑞祥	11 景観・自然	12 位置	13 形状	14 目印	15 侵食・崩壊	16 川原・湿原	17 気象	18 意味不明	
	小字名	役場読み	現地読み																			
1	烏賊ノ浦	イカノウラ															○					
2	琵琶ノ首	ビワノクチ	ビワンクッ													○						
3	西大波江	ニシオオバエ													○							
4	東大波江	ヒガシオオバエ													○							
5	竹原	タケハラ	タケバイ									○										
6	立楠	タチクス															○					
7	田底	タソコ													○							
8	丸山	マルヤマ														○						
9	桐木	キリキ															○					
10	坂ノ上	サカノウエ													○							
11	長山	ナガヤマ												○								
12	平島	ヒラジマ												○								
13	向江	ムカエ													○							
14	島泊	シマドマリ	シマドマイ				○															
15	芝原	シバハラ									○											
16	後平	ウシロビラ	ウシトビラ											○								
17	花ノ木	ハナノキ															○					
18	赤水	アカミズ	アカミッ					○														
19	西山尻	ニシヤマシリ	ニシヤマジイ												○							
20	大瀬戸	オオセト					○															
21	横瀬	ヨコセ													○							
22	西山	ニシヤマ													○							
23	西ノ原	ニシノハラ	ニシノハイ											○								
24	菖蒲ノ口	ショウブノクチ	ショウブンクッ												○							
25	高山	タカヤマ												○								
26	西谷	ニシタニ	ニシタン											○								
27	赤土ケ平	アカツチガヒラ	アカツッガヒラ											○								
28	割子谷	ワリコタニ	ワイコガタン															○				
29	花牟礼	ハナムレ																	○			
30	井迫	イザコ												○								
31	後ノ迫	ウシロノサコ	ウシトンサコ											○								
32	頭無し	カシラナシ	カシタナシ														○					
33	入丸	ニュウマル							○													
34	城ケ崎	ジョウノサキ	ジョウガサッ		○																	
35	桃木迫	モモキガサコ	モモッガサコ											○								排木迫
36	通山	トオリヤマ	トイヤマ				○															
37	桑ノ迫	クワノサコ	クワンサコ											○								
38	津和ノ山	ツワノヤマ	ツワンヤマ											○								
39	横瀬道上	ヨコセミチウエ	ヨコセミッノウエ												○							
40	石堂原	イシドウハラ	イシドウバエ	○																		
41	石塚	イシヅカ		○																		
42	鳥井原	トリイバラ	トリイバイ	○																		
43	外ノ迫	ホカノサコ	ホカンサコ											○								
44	藤ノ鹿ノ木	フジノカノキ	フッカンキ														○					
45	上間瀬戸	カンマセド				○																
	小計			3	1	1	3	1	1		1	1		13	10	2	6	1	1			

No.2

	佐多町大字	伊座敷2		1 信仰	2 城郭・集落	3 土地・区画	4 市・街・交通	5 水利・川・池	6 人名・職掌	7 開発	8 職業・産業	9 田畑	10 瑞祥	11 景観・自然	12 位置	13 形状	14 目印	15 侵食・崩壊	16 川原・湿原	17 気象	18 意味不明	
	小字名	役場読み	現地読み																			
46	間瀬戸	マセド					○															
47	はぜ木	ハシキ	ハシキ														○					
48	菅牟田	スガムタ																	○			
49	猿喰	サルバン	サルバン															○				
50	尾立南平	オタテミナミビラ	オダテミナンビラ												○							
51	新村	シンムラ			○																	
52	向井中原	ムカイナカハラ	ムカイナカバイ												○							
53	開き	ヒラキ	ヒラキ							○												記載無し
54	雇園	コゾノ	コゾン							○												
55	釘ノ迫	クギノサコ	クッノサコ								○											
56	畦地	アゼチ										○										
57	尾立北平	オダテキタビラ													○							
58	有木園	アリキゾノ	アリキゾノ							○												
59	中園	ナカゾノ	ナカゾン							○												
60	福園	フクゾノ	フクゾン							○												
61	登尾	ノボリオ					○															
62	新ノ原		ニイノハイ							○												
63	荒平	アラヒラ												○								
64	松尾	マツオ															○					
65	黒仁田	クロニタ	クロンタ																○			
66	葛草土	カツソウド	カッソド											○								
67	五色	ゴシキ	ゴシキ														○					
68	宇都	ウト												○								
69	立野	タテノ									○											
70	稗畑	ヒエバタ										○										
71	福留	フクドメ	フッドメ										○									
72	中野平	ナカノヒラ												○								
73	丸尾	マルオ												○								
74	島子谷	シマコダニ	シマゴダン											○								
75	大将軍	ダイショウグン	タイショウグン	○																		
76	持留	モチドメ	モッドメ										○									
77	椿木	アベノキ															○					
78	本外戸	モトケド	ホンケド				○															
79	一才原	イッサイバラ	イッセバイ								○											
80	谷之口	タニノクチ	タンノクッ												○							
81	小立目	コタツメ	コダンメ			○																
82	牧神		マッガン	○																		
83	大谷平	オオタニヒラ	ウタンビラ											○								
84	柳ケ瀬	ヤナギガセ	ヤナッガセ											○								柳ケ渡
85	三番立	サンバンダテ									○											
86	屋敷ノ本	ヤシキノモト	ヤシッノモト		○																	
87	長尾	ナガオ												○								
88	尻無尾	シリナシオ	シイナド											○								
89	山瀬	ヤマセ	ヤマゼ											○								
90	黒瀬	クロセ												○								
	小計			2	2	1	3			6	4	2	2	12	4		4	1	2			

No.3

	佐多町大字	伊座敷3		1 信仰	2 城郭・集落	3 土地・区画	4 市・街・交通	5 水利・川・池	6 人名・職掌	7 開発	8 職業・産業	9 田畑	10 瑞祥	11 景観・自然	12 位置	13 形状	14 目印	15 侵食・崩壊	16 川原・湿原	17 気象	18 意味不明	
	小字名	役場読み	現地読み																			
91	阿保谷西平	アボタニニシヒラ													○							
92	狭間	ハザマ														○						
93	垣添	カキゾエ								○												
94	阿保	アボ		○																		
95	谷ケ迫	タニガサコ																				
96	宮ノ尾	ミヤノオ												○								
97	長浜	ナガハマ												○								
98	浜田	ハマダ										○										
99	五反田	ゴタンダ										○										
100	堂ノ前	ドウノマエ		○																		
101	上之園	アゲノソノ	アゲンソン							○												
102	植木	ウエキ									○											
103	堀切向江	ホリキリムカエ													○							
104	平原	ヒラハラ	ヒラバイ											○								
105	植木ノ上	ウエキノウエ													○							
106	松ノ迫	マツノサコ	マッノサコ											○								
107	水洗	ミタライ																○				
108	星項橋	ホシコロバシ					○															
109	松ノ迫東平	マツノサコヒガシビラ													○							
110	漆ノ迫	ウルシノサコ												○								添ノ迫
111	柿迫	カギザコ	カッザコ											○								
112	古河道上	フルカワミチウエ					○															
113	今別府	イマベップ	イマビュウ							○												
114	土橋	ツチハシ	ツッバシ				○															
115	土取尾	ツチトリオ								○												
116	松坂	マツサカ	マッサカ				○															
117	吉ノ迫頭	ヨシノサコカシラ													○							
118	山ノ田平	ヤマノタビラ													○							
119	吉ノ迫	ヨシノサコ												○								
120	柳ノ内	ヤナギノウチ	ヤナッノウチ												○							
121	赤石	アカイシ												○								
122	野迫	ノザコ													○							
123	中原	ナカハラ													○							
124	南迫	ミナミサコ													○							
125	堀切	ホリキリ	ホリキイ				○															
126	上ノ園平	アゲノソノヒラ	アゲンソンビラ				○															
127	入ケ町	イリガマチ	イカマッ				○															
128	園田	ソノダ	ソンダ									○										
129	園田平	ソノダビラ	ソンダビラ											○								
130	盤瀬	バンゼ												○								
131	盤瀬平	バンゼヒラ	バンゼビラ												○							
132	田之崎	タノサキ	タンサッ												○							
133	川ノ頭	カワノカシラ	カワンカシタ												○							
134	伊座敷	イザシキ					○															
135	垂水	タルミズ	タイミッ					○														
	小計			2			8	1		4	1	3			14	1		1				

No.4

	佐多町大字	伊座敷4		1 信仰	2 城郭・集落	3 土地・区画	4 市・街・交通	5 水利・川・池	6 人名・職掌	7 開発	8 職業・産業	9 田畑	10 瑞祥	11 景観・自然	12 位置	13 形状	14 目印	15 侵食・崩壊	16 川原・湿原	17 気象	18 意味不明	備考 川地角名辞典
	小字名	役場読み	現地読み																			
136	鞍掛	クラカケ	クラッケ						○													
137	三反田	サンタンダ	サンダンタ									○										
138	櫟山	クヌギヤマ	クヌジャマ														○					
139	立山ノ尻	タチヤマノシリ	タッチャマンシイ												○							
140	カシ水	カシミズ	カヒミッ												○							
141	石田	イシダ	イヒダ									○										
142	桑水流	クワズル										○										
143	渡瀬	セト	ワタイ				○															*
144	村ノ下	ムラノシタ	ムランシタ												○							
145	粢田	シトギデン	シトッデン	○																		
146	瀬戸山	セドヤマ	センヤマ											○								
147	和田	ワダ										○										
148	不動ノ上	フドウノウエ	フズンウエ												○							
149	八石高	ハッコクダカ										○										
150	不動坂	フドウザカ	フズサカ	○																		
151	尾崎道上	オザキミチウエ					○															
152	立畑道上	タテハタミチウエ					○															
153	立山	タチヤマ	タッチャマ	○																		
154	立山西平	タチヤマニシビラ	タッチャマニシビラ											○								
155	森石	モリイシ												○								
156	堀町	ホリマチ	ホエマツ														○					堀松
157	木佐貫	キサヌキ	キサノッ									○										
158	三反田平	サンタンダビラ												○								
159	三反田西平	サンタンダニシビラ													○							
160	狩俣	カリマタ	カイマタ							○												
161	瀬脇	セワキ	セワッ												○							
162	川尻平	カワシリヒラ	カワンシイビラ												○							
163	穴口	アナクチ																○				
164	犬山	イヌヤマ	インニャマ														○					大山
165	センガイ	センガイ	センゲ																		○	
166	塩地	シオチ	シオヂ											○								
167	鼻尾	ハナオ	ハナンハイ											○								*
168	竹ノ尾	タケノオ	タケンノオ														○					
169	岩穴ケ平	イワアナガヒラ	ユワナガヒラ														○					
170	鍋ケ谷	ナベガタニ	ナベガタン											○								
171	中野	ナカノ													○							
172	松瀬戸	マツセト	マッガセト											○								
173	中丸	ナカマル	ナカンマイ						○													
174	赤生ケ迫	アカオガサコ	アッガセト											○								
175	北之迫	キタノサコ	キタンサコ											○								
176	大迫平	オオサコヒラ												○								
177	中尾	ナカオ													○							
178	崩渡	クズレワタシ	クッゼワタイ															○				
179	尾迫	オサコ												○								
180	浮津	ウキツ				○																
	小計			3		1	3		2	1		6		12	9		5	2			1	

No.5

	佐多町大字	伊座敷5		1 信仰	2 城郭・集落	3 土地・区画	4 市・街・交通	5 水利・川・池	6 人名・職掌	7 開発	8 職業・産業	9 田畑	10 瑞祥	11 景観・自然	12 位置	13 形状	14 目印	15 侵食・崩壊	16 川原・湿原	17 気象	18 意味不明	
	小字名	役場読み	現地読み																			
181	下り松	クダリマツ															○					
182	立平	タチヒラ	タッメビラ											○								
183	割石ケ迫	ワリイシガサコ	ワイガサコ															○				
184	横道	ヨコミチ	ヨコミッ				○															
185	横井迫	ヨコイサコ	ヨコッザコ											○								
186	上床	ウワトコ									○											
187	佐牟田	サムタ	サムタ																○			佐弁田
188	茶屋ノ元	チャヤノモト	チャヤンモト				○															
189	元乗り	モトノリ	モトノリ				○															
190	野迫	ノザコ												○								
191	船人原道下	フナトバラミチシタ	フナトバイミチシタ				○															
192	仁田原	ニタハラ	ニタンハイ											○								
193	箱山	ハコヤマ									○											
194	八久保	ハチクボ	ハックボ													○						
195	櫛原	クスハラ															○					節原
196	梟原		シラキバイ											○								
197	菖蒲ノ尾	ショウブノオ															○					
198	木揃	キゾロイ									○											
199	坂ノ口	サカノクチ	サカノクッ				○															
200	川内	カワウチ													○							
201	白木	シラキ															○					
202	坂ノ下	サカノシタ					○															
203	永山	ナガヤマ												○								
204	屋敷ケ谷	ヤシキガタニ	ヤシッガタン												○							
205	唐木原	トウキバラ	トウキバイ											○								
206	美野崎	ミノサキ												○								
207	尾ノ上	オノウエ													○							
208	木場	コバ								○												
209	木場原	コバハラ	コバンハイ							○												
	小計						6			2	3			8	3	1	4	1	1			
	合計			10	3	3	23	2	3	13	9	12	2	55	40	4	19	6	4	1		
			%	4	1	1	11		1	6	4	5		26	19	1	9	2	1			

No.6

	佐多町大字	馬籠1		1 信仰	2 城郭・集落	3 土地・区画	4 市・街・交通	5 水利・川・池	6 人名・職掌	7 開発	8 職業・産業	9 田畑	10 瑞祥	11 景観・自然	12 位置	13 形状	14 目印	15 侵食・崩壊	16 川原・湿原	17 気象	18 意味不明	備考
	小字名	役場読み	現地読み																			
1	松瀬原	マツセハラ	マッセバイ											○								
2	赤瀬原	アカセハラ	アカセバイ											○								
3	宇宿原	ウスキハラ	ウスッハイ											○								
4	後ノ迫	ウシロノサコ	ウシトザコ											○								
5	枦場	ハシバ	ハイバ								○											
6	河良谷	アラタニ	コランタン											○								
7	倉山	クラヤマ												○								
8	尾波瀬山	オバセヤマ													○							
9	尾波瀬山尻	オバセヤマシリ	オバセヤマジイ												○							尾波瀬山尾
10	松保ケ谷	マツボガタニ	マッボガタン											○								
11	郡ノ氏	グンノジ	クイノウジ		○																	
12	嶽道ケ平	ゴクドウガヒラ	タケミッガヒラ				○															岳道ケ平
13	屋根多道下	ヤネタミチシタ					○															
14	下原	シモハラ	シモバイ												○							
15	越平	コシヒラ	コエッビラ				○															
16	前之平	マエノヒラ	マエンヒラ												○							
17	山神平	ヤマガミヒラ	ヤマンカンビラ	○											○							
18	尾波瀬	オバセ																				
19	エビス平	エビスヒラ	エビイビラ	○																		
20	榎ケ平		エノッガヒラ														○					
21	入ケ尾	イリガオ	イレガオ												○							
22	西ノ海	ニシノウミ	ニイノウン												○							
23	大河原	オオカワラ	オオコラ																○			
24	鞍掛	クラカケ	クラケ						○													
25	船碁石	フナゴイシ	フナゴイシ											○								船基石
26	熊ケ山	クマガヤマ													○							
27	御崎	ミサキ		○																		
28	田尻	タジリ													○							
29	中島	ナカシマ													○							
30	本田尻	ホンタジリ	モトタジイ		○																	
31	枇榔ケ谷	ビロウガダニ	ビロンタン											○								
32	鳥越	トリゴエ	トイゴエ				○															
33	本田平	ホンダビラ	モトタビラ												○							
34	江子ノ木		エゴンヒラ														○					
35	大瀬原	オオセバラ	オオセバイ											○								
36	大瀬尾	オオセオ												○								
37	天ノ平	アマノヒラ													○							
38	奈木河原ノ	ナキカワハラノタニ	ナギコランタン															○				
39	菅ケ谷	スガノタニ	スガンタン												○							
40	孝行石	コゴウイシ	コゴウイシ	○																		*
41	西俣	ニシマタ													○							
42	川回り	カワマワリ	カワマガイ													○						
43	一崎ケ平	イッサキガヒラ	イッサッビラ														○					
44	道添谷	ミチソエダニ	ミッゾエタン				○															
45	屋根田	ヤネダ										○										
	小計			4	2		5		1		1	1		11	14	1	3	1	1			

No.7

	佐多町大字	馬籠2		1 信仰	2 城郭・集落	3 土地・区画	4 市・街・交通	5 水利・川・池	6 人名・職掌	7 開発	8 職業・産業	9 田畑	10 瑞祥	11 景観・自然	12 位置	13 形状	14 目印	15 侵食・崩壊	16 川原・湿原	17 気象	18 意味不明	
	小字名	役場読み	現地読み																			
46	松佐ヶ平	マツサガヒラ	マッサッガヒラ											○								
47	八ヶ谷	ヤツガタニ	ヤッガタン											○								
48	枦場谷	ハシバタニ	ハシバタン												○							
49	奈良松	ナラノマツ	ナランマッ														○					
50	小池増	コイケマス						○														
51	大久保	オオクボ	オッボ													○						
52	大泊	オオドマリ	オオドマイ				○															
53	阿後泊	アゴトマリ	アゴドマイ				○															
54	谷崎	タニサキ	タンザキ												○							
55	高瀬原	タカセハラ	タカセバイ												○							
56	大谷西平	オオタニニシビラ													○							
57	大谷東平	オオタニヒガシビラ													○							
58	外之浦	トノウラ			○																	
59	前之原	マエノバラ	マエンバイ												○							
60	小野原	オノハラ	オノバイ											○								
61	落平	オチビラ														○						
62	七回西平	ナナマワリニシビラ													○							
63	三方境	サンポウサカイ													○							三方鏡
64	臼ノ山	シラノヤマ														○						*
65	荒磯	アライソ												○								
66	水ノ迫	ミズノサコ	ミッノサコ											○								
67	湯ノ尾	ユノオ													○							
68	瀧の尻	タキノシリ	タキノシイ												○							
69	竹屋	タケヤ									○											
70	牧之迫	マキノサコ	マッノサコ														○					
71	木佐貫	キサヌキ	キサヌッ							○												
72	上ノ原	ウエノハラ	ウエンバイ												○							
73	宇都	ウト												○								
74	園之山		ソノンヤマ												○							
75	勝地	カツチ	カチッ												○							
76	勝地原	カツチバラ	カチッバイ											○								
77	横井ノ元	ヨコイノモト													○							
78	轟川内	トドロキカワウチ	トドロッガワ														○					
79	大割目	オオワレメ	ウワメ															○				
80	間瀬戸	マセト														○						
81	馬込	マゴメ									○											
82	馬平	マヒラ													○							
83	東山崎	トウヤマザキ													○							
84	東山崎村之下	トウヤマザキムラノシタ													○							
85	仮屋崎	カリヤザキ	カイヤザキ												○							
86	銭ヶ平	ゼニガヒラ	ゼンガヒラ											○								
87	中崎	ナカザキ													○							
88	石野崎	イシノザキ	イノザキ												○							
89	長谷	ナガタニ	ナガタン											○								
90	石畳	イシダタミ	イィダタン				○															
	小計				1		3	1		1	2			9	20	4	3	1				

No.8

	佐多町大字	馬籠3		1 信仰	2 城郭・集落	3 土地・区画	4 市・街・交通	5 水利・川・池	6 人名・職掌	7 開発	8 職業・産業	9 田畑	10 瑞祥	11 景観・自然	12 位置	13 形状	14 目印	15 侵食・崩壊	16 川原・湿原	17 気象	18 意味不明	
	小字名	役場読み	現地読み																			
91	栗柄野原	クリスノハラ	クルイノバイ											○								
92	城之原	ジョウノハラ	ジョウバイ		○																	城原
93	東原	ヒガシバル													○							
94	前之迫	マエノサコ	マエンサコ												○							
95	仁野尾	ニノオ	ニノ											○								
96	上永谷平	カミナガタニビラ	カンナガタンビラ												○							
97	大長崎	オオナガサキ	ウナガサッ														○					
98	高平	タカヒラ												○								
99	佐弁田	サムタ	サッタ											○								佐弁田
100	持留	モチドメ	モッドメ																			
101	後川内	ウシロカワウチ	ウシトガワッ										○									
102	下川内	シモカワウチ	シモカワッ												○							
103	城之下	ジョウノシタ	ジョンシタ												○							
104	大向	オオムカイ	オムコ												○							
105	井手ノ山	イデノヤマ	イデンヤマ					○														
106	牛牧	ウシマキ	ウシマッ								○											
107	市木	イチキ															○					市水
108	日ヶ暮	ヒガクレ																		○		
109	井手ノ上	イデノウエ	イデンウエ												○							
110	薬師	ヤクシ		○																		
111	下り	クダリ	クダイ				○															
112	小迫ノ口	コザコノクチ	コザコンクッ												○							
113	折山間瀬戸	オリヤママセド	オイヤママセド														○					
114	椿ノ元	ツバキノモト	ツバッノモト												○							
115	大迫	オオサコ	オサコ											○								
116	大立山	オオタチヤマ	ウタッチャマ	○										○								
117	桑ノ迫	クワノサコ	クワンサコ														○					
118	坂之上	サカノウエ	サカンウエ				○															
119	平岩	ヒライワ												○								
120	思い崎	オモイザキ	オモザッ														○					
121	平原	ヒラハラ	ヒラバイ											○								
122	狐ヶ平	キツネガビラ															○					
123	折山	オリヤマ	オイヤマ											○								
124	八久保	ハックボ	ハックボ													○						
125	五郎原	ゴロウハラ	ゴロバイ						○													
126	滑道	ナメリミチ	ナメイミッ				○															
127	釘之野	クギノ	クッノ											○								釘野
128	平後	ヒラゴ	ヘゴ												○							
129	桜平	サクラビラ												○								
130	牧平	マキヒラ	マッビラ								○											
131	矢 櫃	ヤビキ	ヤヤイ								○											矢遺
132	苦地山	クルチヤマ	ワカッジャマ											○								若地山
133	石畑	イシハタ	イシバタ									○										
134	山崎	ヤマザキ															○					
135	建神	タテガミ	タテガン	○																		
	小計			3	1		3	1	1		3	1	1	12	10	1	7			1		

No.9

	佐多町大字	馬籠4		1 信仰	2 城郭・集落	3 土地・区画	4 市・街・交通	5 水利・川・池	6 人名・職掌	7 開発	8 職業・産業	9 田畑	10 瑞祥	11 景観・自然	12 位置	13 形状	14 目印	15 侵食・崩壊	16 川原・湿原	17 気象	18 意味不明	
	小字名	役場読み	現地読み																			
136	湯之川内	ユノカワウチ	ユノカワッ												○							湯川内
137	桂石	カツライシ												○								
138	中原	ナカハラ	ナカバイ											○								
139	中川内	ナカカワウチ	ナカガワチ												○							
140	川田代川内	カワダシロカワウチ	カワダシロカワチ												○							
141	川田代	カワダシロ										○										
142	永田	ナガタ										○										
143	和田	ワダ										○										
144	堂之坂	ドウノサカ		○																		堂坂
145	尾屋地ノ上	オヤジノウエ													○							
146	中須	ナカス													○							
147	並木原	ナミキハラ	ナミッバイ														○					
148	茗荷瀬戸	ミョウガセト	ミョウガセド														○					
149	茗荷迫	ミョウガサコ															○					
150	水溜	ミズタマリ	コダマイ					○														小溜
151	月形ノ前	ツキカタノマエ	ツッガタンマエ	○																		*
152	茶屋ノ本	チャヤノモト	チャヤンモト				○															
153	宇都川内	ウトカワウチ	ウトカワッ												○							
154	挽木ヶ迫	ヒキガサコ	ヒッガザコ											○								
155	大坂	オオサカ	ウサコ				○															
156	片野坂	カタノサカ	カタンザカ				○															
157	新坂	シンサカ					○															
158	片野坂上	カタノサカウエ	カタンザカウエ												○							
159	三本松	サンボンマツ	サンボンマッ														○					
	小計			2			4	1				3		3	7		3					
	合計			9	4		15	3	2	1	6	5	1	35	51	6	16	2	1	2		
	%			5	2		9	1	1		3	3		22	32	3	10	1		1		

No.10

	佐多町大字	郡1		1 信仰	2 城郭・集落	3 土地・区画	4 市・街・交通	5 水利・川・池	6 人名・職掌	7 開発	8 職業・産業	9 田畑	10 瑞祥	11 景観・自然	12 位置	13 形状	14 目印	15 侵食・崩壊	16 川原・湿原	17 気象	18 意味不明	
	小字名	役場読み	現地読み																			
1	道下	ミチシタ													○							
2	波戸之浦	ハトノウラ	ハトンウラ				○															
3	間泊	マドマリ	マドマイ				○															
4	枦平	ハシビラ												○								
5	枇榔ヶ尾	ビロウガオ													○							
6	間泊ヶ宇都	マドマリウト	マドマイガウト														○					
7	大田ヶ谷平	オオタガタニヒラ	ウタンガヒラ												○							
8	中島	ナカシマ													○							
9	越路	コエジ	コシジ				○															
10	小谷迫	コタニサコ	コタンザコ											○								
11	平山	ヒラヤマ												○								
12	竹之浦	タケノウラ					○															
13	川原	カワハラ	コランハイ																○			
14	尾松ヶ平	オマツガヒラ	オマッガヒラ														○					
15	鷲巣	トビス	ワイノス														○					
16	釜ヶ迫	カマガサコ	カマッサコ											○								
17	岩下	イワシタ													○							
18	巣森	スモリ	スモイ														○					
19	巣森原	スモリハラ	スモイバイ														○					
20	風毛	フウケ	フケ																○			
21	鍋石	ナベイシ														○						
22	小山	コヤマ												○								
23	平原	ヒラハラ	ヒラバイ											○								
24	草道	クサミチ	クサミッ				○															
25	園ノ内	ソノウチ	ソノウッ												○							
26	横畑	ヨコハタ										○										
27	土カルヒ	ツチカルヒ									○											
28	鬼田	オニタ	オンダ									○										
29	立迫	タチザコ	タッサコ											○								
30	永江	ナガエ						○														
31	立切	タチキリ	タッキイ															○				
32	荒磯	アライソ												○								
33	木佐貫	キサヌキ	キサヌッ							○												
34	岩穴	イワアナ															○					
35	島ヶ山	シマコヤマ												○								
36	古里	フルサト			○																	
37	川尻	カワシリ													○							
38	野多礼	ノタレ												○								
39	椎鹿倉	シガクラ									○											
40	城ヶ原	ジョウノハラ	ジョンハエ		○																	
41	楠ノ元	クスノモト	クスンモト												○							
42	通山	トオリヤマ	トオイヤマ				○															
43	桃ヶ迫	モモキガサコ															○					
44	用之前	ヨウノマエ													○							
45	平松	ヒラマツ	ヒラマッ														○					
	小計																					

No.11

	佐多町大字	郡2		1 信仰	2 城郭・集落	3 土地・区画	4 市・街・交通	5 水利・川・池	6 人名・職掌	7 開発	8 職業・産業	9 田畑	10 瑞祥	11 景観・自然	12 位置	13 形状	14 目印	15 侵食・崩壊	16 川原・湿原	17 気象	18 意味不明	
	小字名	役場読み	現地読み																			
46	戸柱	トバシラ	トバシタ	○																		
47	相ヶ迫	アイガサコ												○								柏ケ迫
48	馬道ノ口	ウマミチノクチ	マミッノクッ								○											
49	大谷平	オオタニヒラ	ウタンヒラ											○								
50	坂元	サカモト					○															
51	宮園	ミヤゾノ	ミヤゾン							○												
52	上篭	ウエゴモリ	ウワゴモイ													○						
53	松坂	マツサカ	マッサカ				○															
54	井手ノ口	イデノクチ	イデンクッ					○														
55	平山	ヒラヤマ												○								
56	御子川内	ミコカワウチ	ミコガワチ		○																	
57	平山道上	ヒラヤマミチウエ	ヒラヤマミッノウエ												○							
58	椋木		ムクノキ														○					
59	馬場	ババ									○											
60	馬場尻	ババジリ	ババシィ												○							
61	間川内	マカワウチ	マガワウッ												○							
62	水之平	ミズノヒラ												○								
63	大迫	オオサコ	ウサコ											○								
64	鳶ヶ尾	トビガオ	トッガオ														○					
65	竹原添	タケハラゾエ	タケハランゾイ							○												
66	又ノ尾	スノオ	マタンオ												○							*
67	佐之水	サノミズ	サノミッ					○														
68	広迫	ヒロサコ												○								
69	松山	マツヤマ	マッチャマ														○					
70	轟木	トドロト															○					
71	回り迫	マワリミチ	マガイサコ											○								
72	田ノ川内	タノカワウチ	タノカワウッ											○								
73	マテノ木	マテノキ	マテノッ														○					
74	滑之口	ナメリノクチ	ナメノクッ												○							
75	萩ノ崎	ハギノサキ	ハンノサキ														○					萩崎
76	鳥越	トリゴエ	トイゴエ				○															
77	宮ノ本	ミヤノモト		○																		宮本
78	袴田	ハカマダ										○										※
79	牟田	ムタ										○										弁田
80	斜角		ナナメンスン												○							※
81	尾ノ上	オノウエ													○							
82	迫目	サコメ													○							
83	松原田	マツハラダ	マッバランダ									○										
84	阿蔵田	アゾダ	アソダ									○										
85	川田原	カワダハラ	カワダバイ											○								
86	源次ヶ中尾	ゲンジガナカオ							○													
87	水栗	ミズクリ	ミックイ					○														
88	船迫	フナサコ												○								
89	古園	フルゾノ	フルゾン									○										
90	鬼ヶ迫	オニガサコ	オンガアコ											○								
	小計			2	1		3	3	1	2	2	5		11	8	1	6					

No.12

	佐多町大字	郡3		1 信仰	2 城郭・集落	3 土地・区画	4 市・街・交通	5 水利・川・池	6 人名・職掌	7 開発	8 職業・産業	9 田畑	10 瑞祥	11 景観・自然	12 位置	13 形状	14 目印	15 侵食・崩壊	16 川原・湿原	17 気象	18 意味不明	
	小字名	役場読み	現地読み																			
91	平別府	ヒラベップ	ヒラビュウ							○												
92	山角	ヤマズミ	ヤマスン												○							
93	平野	ヒラノ												○								
94	宇田	ウタ	ウダ									○										
95	大丸	ダイマル							○													
96	中尾	ナカオ													○							
97	迫	サコ												○								
98	船野	フナノ												○								
99	堀瀬戸	ホリセト															○					
100	丸之尾	マルノオ													○							
101	外戸ノ元	ケドノモト	ケドンモト												○							
102	田ノ平	タノヒラ													○							
103	野添	ノゾエ								○												
104	山之下	ヤマノシタ	ヤマンシタ												○							
105	外ノ丸		ソトノマル						○													※
106	川ノ尻	カワノシリ	カワンシイ												○							
107	針山	ハリヤマ	ハイヤマ														○					
108	平石	ヒライシ												○								
109	浜平	ハマヒラ	ハマビラ											○								
110	三本松	サンボンマツ	サンボンマッ														○					
111	浜尻	ハマシリ	ハマジイ												○							
112	川口	カワグチ	カワグッ												○							
	小計								2	2		1		5	9		3					
	合計			2	3		9	4	3	5	4	8		26	26	2	17	1	2			
			%	1	2		8	3	2	4	3	7		23	23	1	15		1			

No.13

	佐多町大字	辺塚1		1 信仰	2 城郭・集落	3 土地・区画	4 市・街・交通	5 水利・川・池	6 人名・職掌	7 開発	8 職業・産業	9 田畑	10 瑞祥	11 景観・自然	12 位置	13 形状	14 目印	15 侵食・崩壊	16 川原・湿原	17 気象	18 意味不明
	小字名	役場読み	現地読み																		
1	紫立	シバタテ		○																	
2	迫田	サコダ										○									
3	矢田下	ヤダシタ													○						
4	西ノ迫	ニシノサコ	ニヒノサコ												○						
5	中村	ナカムラ			○																
6	小川	オガワ						○													
7	大坪	オオツボ	ウツボ					○													
8	田原	タハラ	タバイ												○						
9	鳥井ノ前	トリイノマエ	トリインマエ	○																	
10	前田	マエダ										○									
11	小山田	コヤマダ										○									
12	大那木尾	オオナギオ	オオナッゴ												○						
13	宮川	ミヤガワ						○													
14	栗柄	クリス												○							
15	下萩平	シモハギヒラ															○				
16	湊原	ミナトハラ	ミナトバイ												○						
17	瀬戸口	セトグチ	セトンクッ												○						
18	牧之口	マキノクチ	マンノクッ								○										
19	平川	ヒラカワ						○													
20	辻	ツジ	ツッ				○														
21	柿ノ内	カキノウチ	カクッ												○						
22	西ノ城	ニシノジョウ	ニイノジョウ		○																
23	東ノ城	ヒガシノジョウ	ヒガヒンジョウ		○																
24	瀬崎	セザキ	セザッ												○						
25	村山田	ムラヤマダ	ムラヤマンタ				○														
26	園田川	ソノダガワ	ソンダガワ					○													
27	中道	ナカミチ	ナカミッ				○														
28	野添	ノゾエ								○											
29	上之園	ウエノソノ	ウエンゾン							○											
30	尾之上	オノウエ												○							
31	熊之細	クマノホソ	クマンソイ												○						
32	向井之平	ムカイノヒラ	ムカエンヒラ												○						
33	大田平	オオタビラ	ウタビラ											○							
34	竹之尻	タケノシリ	タケンシ												○						
35	船迫	フナサコ												○							
36	長山	ナガヤマ												○							
37	上長山	カミナガヤマ	カンナガヤマ												○						
38	トビス	トビス															○				
39	崎山	サキヤマ	サッキャマ											○							
40	居石		スワイシ											○							
41	山之口	ヤマノクチ	ヤマンクッ												○						
42	佐渡道下	サドミチシタ													○						
43	髙岩	タカイシ												○							
44	西之田	ニシノタ	ニヒノタ									○									
45	宮田	ミヤタ	ミヤダ									○									
	小計			2	3		3	5		2	1	5		8	14		2				

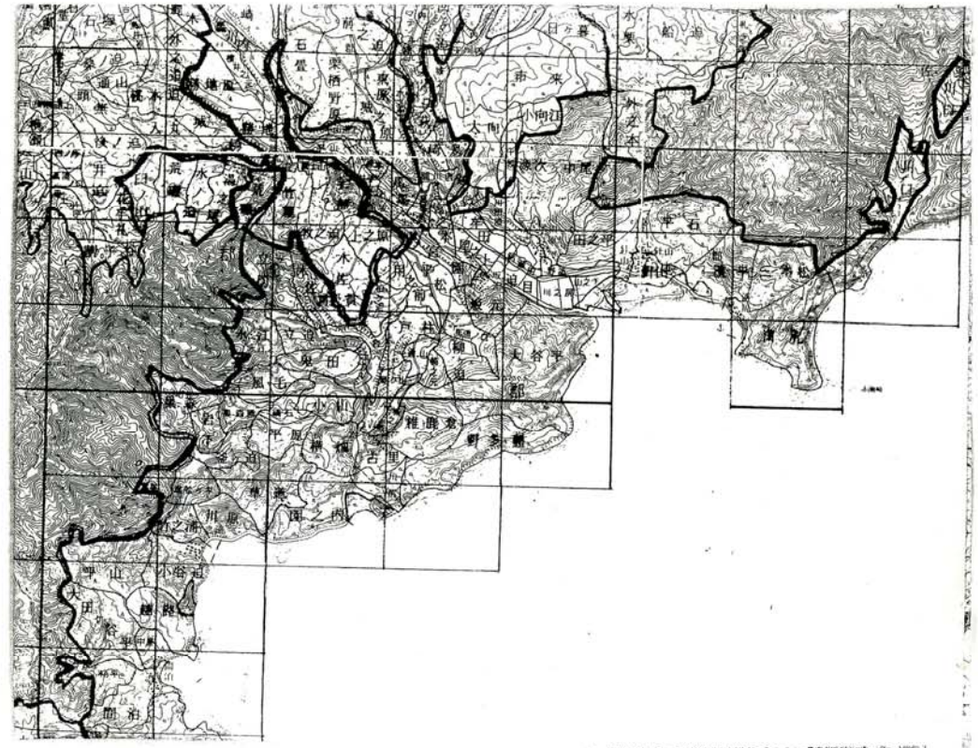
No.14

	佐多町大字	辺塚2		1 信仰	2 城郭・集落	3 土地・区画	4 市・街・交通	5 水利・川・池	6 人名・職掌	7 開発	8 職業・産業	9 田畑	10 瑞祥	11 景観・自然	12 位置	13 形状	14 目印	15 侵食・崩壊	16 川原・湿原	17 気象	18 意味不明
	小字名	役場読み	現地読み																		
46	川畑	カワバタ										○									
47	中尾	ナカオ													○						
48	橋之口	ハシノクチ	ハイノクッ												○						
49	大丸	ダイマル							○												
50	長畑	ナガハタ										○									
51	藤畑	フジハタ										○									
52	八江泊		ハエドマイ				○														
53	東浜	ヒガシハマ	ヒガヒハマ												○						
54	西浜	ニシハマ	ニヒハマ												○						
55	山添	ヤマゾエ								○											
56	松ノ川	マツノカワ	マンノカワ					○													
57	内山	ウチヤマ	ウッチャマ											○							
58	今別府	イマベップ	イマビュ							○											
59	矢田	ヤダ										○									
60	柴山	シバヤマ	シバンヤマ								○										
61	開田	ヒラキ	ヒラキダ									○									
62	那木尾平	ナキオビラ	ナゲンヒラ												○						
63	平原	ヒラハラ	ヒラバイ											○							
64	小田	オダ										○									
65	萩平	ハギヒラ												○							
66	高牧瀬戸	タカマキセト	タカマンノセト								○										
67	桑水流	クワズル	クワズィ																○		
68	東平	ヒガシヒラ	ヒガヒビラ												○						
69	八重岳	ヤエダケ												○							
70	中野	ナカノ													○						
71	枇榔首		ビワンクッ													○					
72	大谷	オオタニ	ウタン											○							
73	中ノ俣	ナカノマタ	ナカンマタ												○						
74	上ノ原	カミノハラ	ウエンハイ												○						
75	人塚	ヒトツカ		○																	
76	門元	カドモト			○																
77	飛石	トビイシ					○														
78	鍛冶ヶ沢渡	カジカサワワタシ	カジカサワタリ				○														
79	川ノ上	カワノウエ	カワンウエ												○						
80	瀬道	セミチ	セド				○														
81	脇宇都	ワキウト	ワッノウト												○						
82	宇都迫	ウトサコ	ウトンサコ												○						
83	日蔭	ヒカゲ																		○	
84	横平	ヨコヒラ													○						
85	松橋	マツハシ	マッバシ				○														
86	運迫		ウンサコ											○							
87	小迫	コザコ																			
88	岩塚	イワズカ		○										○							
89	宇都	ウト												○							
90	赤生ヶ平	アカオガヒラ	アコガヒラ											○							
	小計			2	1		5	1	1	2	2	6		9	13	1			1	1	

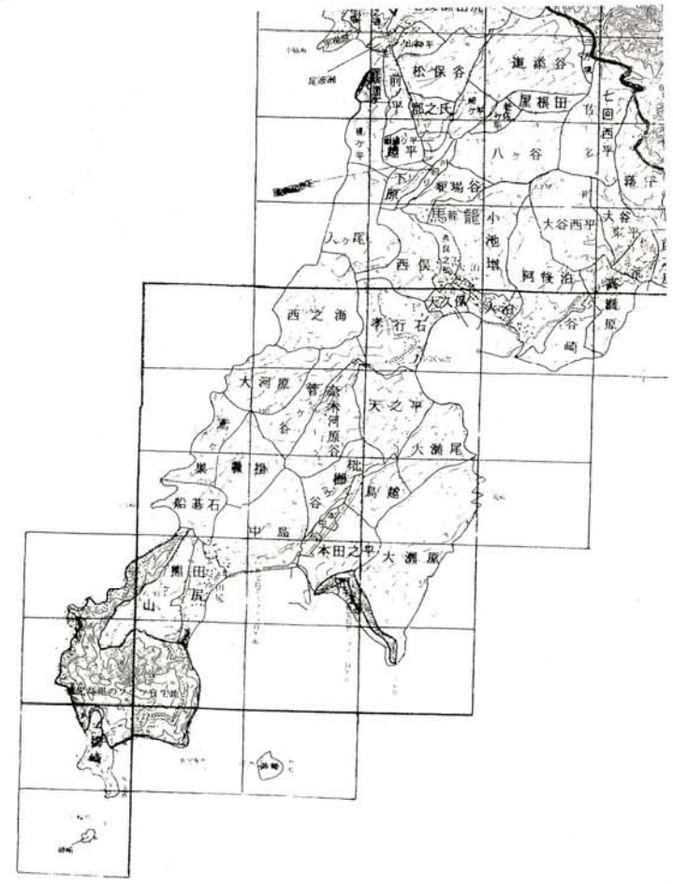
No.15

	佐多町大字	辺塚3		1 信仰	2 城郭・集落	3 土地・区画	4 市・街・交通	5 水利・川・池	6 人名・職掌	7 開発	8 職業・産業	9 田畑	10 瑞祥	11 景観・自然	12 位置	13 形状	14 目印	15 侵食・崩壊	16 川原・湿原	17 気象	18 意味不明	
	小字名	役場読み	現地読み																			
91	富松	トミマツ	トンマッ														○					
92	井手ノ元	イデノモト	イデンモト					○														
93	谷之迫	タニノサコ	タンノサコ											○								
94	高牧	タカマキ	タカマッ								○											
95	楮ヶ迫	クツガサコ	クッガサコ														○					
96	門ノ口	カドノクチ	カドンクッ												○							
97	平見	ヒラミ															○					
98	瀬戸	セト	セド											○								
99	市山	イチヤマ	イッチャマ											○								
100	牛の牧	ウシノマキ									○											
101	内山ノ口	ウチヤマノクチ	ウッチャマンクッ												○							
102	前平	マエヒラ	マエンヒラ												○							
103	浜ノ上地平	ハマノウエチビラ													○							
104	浜上南平	ハマノウエミナミヒラ													○							
105	欅平																○					
106	南瀬戸	ミナミセト	ミナンノセド												○							
107	蕗畑											○										
108	丸山	マルヤマ														○						
109	飯ガイ山	イイガイセン	イイガイヤマ										○									*
110	大迫	オオサコ												○								
111	辻ノ瀬戸	ツヂノセト					○															
112	本道	モトミチ	モトミッ				○															
113	田之浦	タノウラ													○							
114	灰ヶ迫	ハイカサコ	ヘンガサコ														○					
115	谷之原	タニノハラ	タンノバイ											○								
116	水谷	ミズタニ	ミッタン															○				
	小計						2	1			2	1	1	5	7	1	5	1				
	合計			4	4		10	7	1	4	5	12	1	22	34	2	7	1	1	1		
	%			3	3		8	6		3	4	10		18	29	1	6					

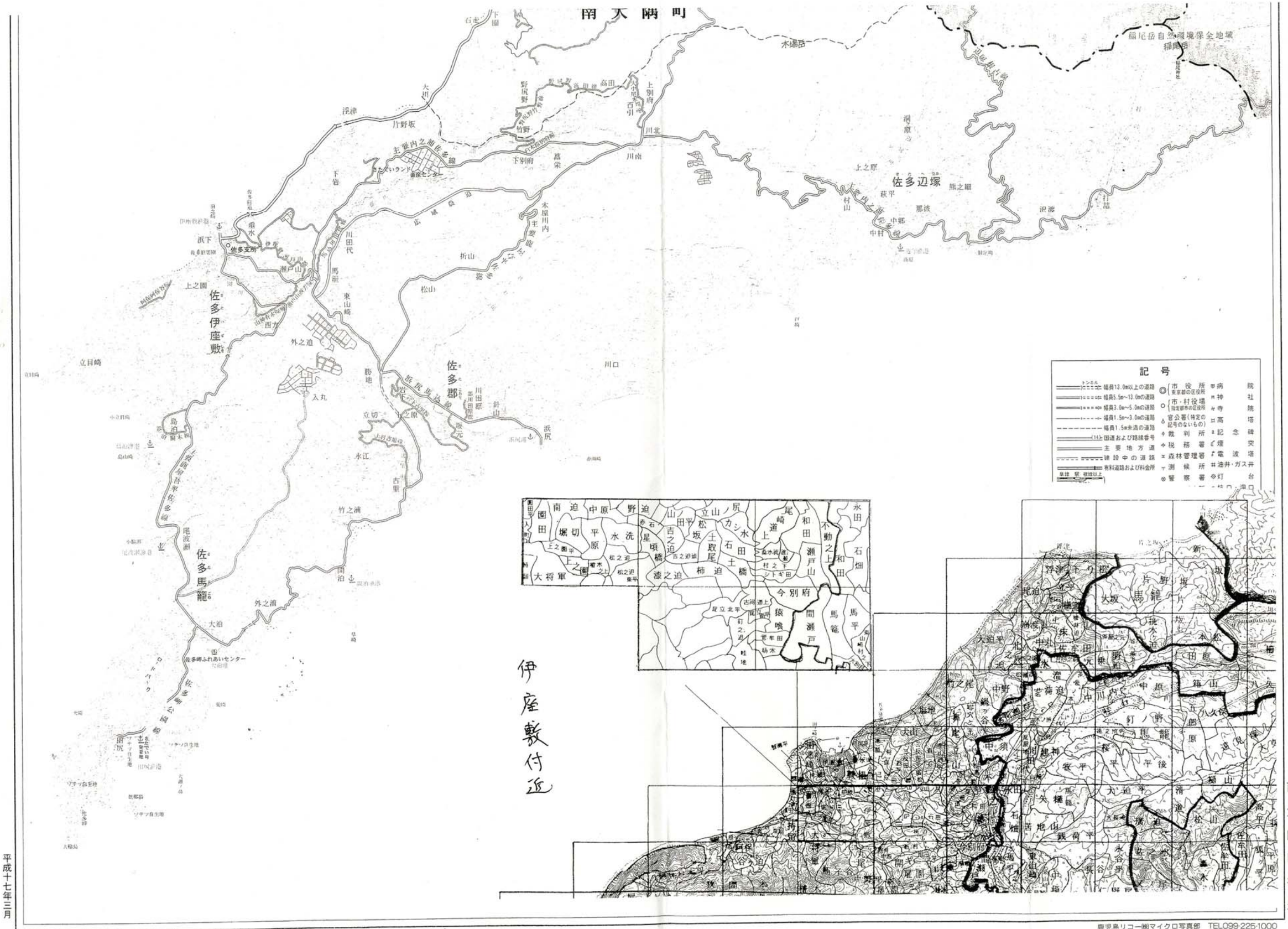
郡付近



大浜付近



南大隅町



平成十七年三月

南大隅町役場

「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の5万分の1地形図を複製したものである。（承認番号　平16九複、第387号）」

鹿児島リコー㈱マイクロ写真部　TEL099-225-1000

地名研究会報

第 91 号　　平成18年3月5日

鹿児島地名研究会

Ⅰ．第91回例会　　平成17年12月4日（日）　　於西郷南洲顕彰館研修室

（出会者）　青柳俊二・池田　純・今村誠一・入来院貞子・上野堯史・内山憲一・納　栄蔵・川野雄一・久米雅章・坂本　誠・永坂芳彦・浜田良知・繁昌正幸・肱岡修一郎・平田信芳・松浪由安（計16名）

Ⅱ．大日本地名辞書読会　　P.562～P.563　霧島山・襲山・高千穂宮址

Ⅲ．ミナト地名について

〔問題となった地名および事項〕　霧島の池、真鉢と御池、上下・慈眼寺・天保山、千穂・高千穂、錫杖寺、天降川、細島港、中央からの伝播地名、嘉例川・佳例川、久米氏と大伴氏、内之浦と外之浦、籠（コモリ）

霧島の池

平田　今日の箇所は天孫降臨の場所で天皇家が始まるキーポイントの説明です。

内山　温泉山というのは・・・

平田　何ですか？（よく聞き取れず）。

内山　雲仙岳を温泉山とも言います。

平田　雲仙岳のこと。はい、判りました。じゃー、多良岳は？

内山　長崎県にあります。

平田　長崎県につながる。霧島火山脈は、あっちにつながっているのかな。

池田　池の名前がかなり現在のものと変っているのです。大浪池はそのままですが、長池・鉢池・金剛界池・胎蔵界池。琵琶池は判ります。琵琶池は韓国岳から高原の方へ降りる途中にある池です。現在は不動池とか六観音池とか白紫池はあるのですけど。

平田　名前が変わっているわけですね。

池田　ここに書いてある池はほとんどないです。名前が途中で変わったのでしょうか。

平田　こんなのは仏教用語ですからね。廃仏毀釈後に変えられたのでしょう。

池田　特に鹿児島県はそうですね。それと雄池（ｵｲｹ）と雌池（ﾒｲｹ）ですか、雄池は御池（ﾐｲｹ）と今言っている池だと思います。雌池は小池と言います。御池のすぐ横の方に小さいのがあります。

真鉢と御池

浜田　真鉢（ﾐﾊﾁ）ということですが、初めてこの表記を見ました。御池（ﾐｲｹ）あるいは御鉢（ﾐﾊﾁ）が普通です。富士山に登った時に御鉢廻り（ｵﾊﾁﾒｸﾞﾘ）というのをしました。霧島の御鉢をＮＨＫのアナウンサーが「ｵﾊﾁﾒｸﾞﾘ」と関東風に呼んだもんですから、ＮＨＫに聞いたのです。そしたら判らないということで、各自治体に聞きました。御池（ﾐｲｹ）があるから御鉢（ﾐﾊﾁ）じゃないか、と。

平田　御鉢（ﾐﾊﾁ）？

浜田　御鉢（ﾐﾊﾁ）です。霧島町には、女子短大に行っている・・・

平田　小園氏？

浜田　小園氏が出身地ですから、どうなんだと聞いたのです。御鉢（ﾐﾊﾁ）と言われている。そして御山（ﾐﾔﾏ）・御池（ﾐｲｹ）だからミが

正しい。小さい時からそう習っている、と。それでNHKに言うたら、国土地理院も知らなかったと。それで国土地理院に電話をしたのです。そしたら昭和43年に地図が変わっているのです。その時に地名を確定するのにはどうしたのかと聞くと、そういう苦情がありまして読み方を地元自治体に確かめました。あすこの場合は高原町ですか、高原町に聞いてそこからの申請によって御池(ｵｲｹ)というふうになったとの答えが返って来ました。本来は御鉢(ﾐﾊﾁ)ということが判りました。鹿児島県側と宮崎県側の表現が違っている。

平田　呼び方が食い違っているわけだな。

浜田　高原の方は民家に問い合わせたら、今でも御鉢(ｵﾊﾁ)という。霧島町側は古老あるいは小園さん以外にも聞きましたが、御鉢(ﾐﾊﾁ)という。NHKが御鉢(ｵﾊﾁ)というもんだから、そのうちに御池(ﾐｲｹ)も御池(ｵｲｹ)になるのじゃないですか。

平田　ｵｲｹ・ﾐｲｹ、ｵﾊﾁ・ﾐﾊﾁと二通りに分けられる。

浜田　NHKの影響力というのは物凄く大きい。富士山では御鉢(ｵﾊﾁ)という。しかも昔の記録にもある。だから霧島も御鉢(ｵﾊﾁ)だというので調べてみようということになった。

池田　桜島の北嶽は御鉢(ｵﾊﾁ)という。

浜田　今日これ（大日本地名辞書）を見て真鉢(ﾐﾊﾁ)ということを知りました。御池(ﾐｲｹ)というのがあるから、「ﾐﾊﾁ」だと。そして「ﾐﾔﾏｷﾘｼﾏ」、これを「ｵﾔﾏｷﾘｼﾏ」とは読みません。私はそういう論法から「ﾐﾔﾏ」が正しいのじゃないかと聞いて回ったのです。霧島町側では、これは「ﾐﾊﾁ」です。そして橘南渓の『西遊記』に御鉢(ﾐﾊﾁ)というふうに振り仮名を振ってあります。本人がふったのか、印刷の時に振ったのかは知りません。今日これを見て、こういう所にも文献があったと気付きました。「ﾐﾊﾁ」が正しいということを確認しました。

平田　国土地理院が地図を作る時に地元に何遍も確かめて、振り仮名を振るはずですからね。

浜田　自治体が電話で何というかを聞かれて、自治体の若い職員が答えてしまう。そのことが旧名が消えてしまう一つのパターンではないでしょうか。とくにNHKなどの報道機関が国土地理院のいうことを信用すれば、富士山がそうでしたから此処もそうですよというようなことになるのではないでしょうか

平田　日本全国の名前を確実に知るというのはやはり難しい。小字の読みも役場の職員が独断でいい加減に読んでしまい、それが公称として広まっていくわけですからね。そこに日本の地名学が普及しない原因がある。

浜田　国土地理院がその土地に住んでいる人の呼称を・・・

平田　大事にするのです。

浜田　大事にするという基本方針はありますか。

平田　はい、あるはずです。

浜田　ところが、それに情報を提供するのは地方の行政機関ということになるのです。だから行政の人たちがすらすら通すと、そうなってしまう。今度の・・・

平田　市町村名と同じです。

浜田　そうです。マンションの手抜きと同じです。市町村で通ると倒壊の恐れも気付かずにパスするのと同じです（笑い）。

上下・慈眼寺・天保山

納　鹿児島市内の上・下(ｶﾐ・ｼﾓ、ｳｴ・ｼﾀ)上荒田(ｳｴｱﾗﾀ)と下荒田(ｼﾓｱﾗﾀ)の表現も同じようなことです。上下の組み合わせは「ｶﾐ」に対して「ｼﾓ」ですね、「ｳｴ」と「ｼﾀ」。谷山では上福元(ｶﾐﾌｸﾓﾄ)に対して下福元(ｼﾓﾌｸﾓﾄ)というのに、鹿児島では上(ｳｴ)荒田に下(ｼﾓ)荒田。妙な言い方をする。どうしてか、と尋ねられても返答出来ませんでした。昔からこういうふうに言うとったのでしょうね。

平田　慣用語・慣用地名・俗称地名として一般に広まったら動かんですね。

納　谷山の慈眼寺(ｼﾞｹﾞﾝｼﾞ)、もう一つの言い方がありますね。

平田　「ｼﾞｶﾞﾝｼﾞ」。

納　「ｼﾞｶﾞﾝｼﾞ」でしょう。これは古い言葉ではありません。方言では「ｼﾞｹﾞｼ」という

平田　あぁ、「ｼﾞｹﾞｼ」。

納　若い人は知りません。最近ＪＲの駅が出来た関係上「ｼﾞｹﾞﾝｼﾞ」というらしいですしかし普通は「ｼﾞｶﾞﾝｼﾞ」が多いようです。

平田　鹿児島市の小学校がよく遠足に行く処だった。

納　鹿児島の表現は上(ｳｴ)になったり下(ｼﾀ)になったり上(ｶﾐ)になったり、読み方も変わっているのじゃないでしょうか。

池田　今は漢字のまま読む。例えば天保山(ﾃﾝﾎﾟｳｻﾞﾝ)が正しいだろうが、「ﾃﾝﾎﾟｻﾞﾝ」と言います。慈眼寺も本当は仏教的、お寺の名前から来ているのでしょうから「ｼﾞｹﾞﾝｼﾞ」が正しいわけです。それを漢字のまま読む。

浜田　「ﾃﾝﾎﾟｳｻﾞﾝ」と引っ張らないのです。鹿児島では。

池田　鹿児島では引っ張らないのです。天保年間に出来たのだから本来は「ﾃﾝﾎﾟｳｻﾞﾝ」でなければおかしいわけです。

浜田　天保銭は「ﾃﾝﾎﾟｳｾﾝ」と鹿児島の人は絶対に言わない。

平田　大阪にも天保山があるのでしょう。それは「ﾃﾝﾎﾟｳ」と引っ張るの。

浜田　引っ張ってます。

平田　あぁ、大阪は。

浜田　天保山も「ﾃﾝﾎﾟｳ」です。

平田　縮まったら鹿児島らしくていいじゃないですか。

池田　先生は先程、享保(ｷｮｳﾎ)と言われましたよ。

平田　ああ、享保(ｷｮｳﾎｳ)。

納　鹿児島では垂水(ﾀﾙﾐｽﾞ)ですが関西辺りでは垂水(ﾀﾙﾐ)という。

池田　ああ、神戸。

浜田　鹿児島は「ﾀﾙﾐｽﾞ」ではなく「ﾀｲﾐｯ」でしょう。

平田　はい、はい。自由に発言して下さい

千穂と高千穂

平田　此処は天孫降臨の場面ですから、これを信じている人は多いと思います。歴史家は皇国史観として全然考えてもいないのですけどね。

浜田　昭和11年に発刊された鹿児島史談会が編纂した青年学校の教科書を先日手に入れました。友達が東京から送ってくれました。これをお前にやるから、と。皇国史観のものです。読みますとね、高天原からず一っと書いてあり、指定の仕方とか正しいというようなことが書いてあるのです。それで昭和10年代に青年学校で習った人たちは未だにそれを信じています。

平田　今日読んだ中で臼杵の千穂郷のことですが、これは日向国風土記逸文にあるものです。ニニギノミコトが多くの籾を撒くと、

霧がはれた。それで知舗郷と名付けたとの説話があるのです。日向国臼杵郡高千穂の説明で、こちらの高千穂の説明じゃないのです。

浜田　563ﾍﾟｰｼﾞの下段、清水郷弟子丸村、これは私の出身地です。此処に智尾丘というのがあり、われわれは「チノ尾様」と言っていました。前方後円墳の形にそっくりなんです。

平田　あぁ、そうですか。

浜田　掘った痕も、盗掘か最初のものかは知りませんが。そして明治・大正の頃、鹿児島県から何度も調査に来ている。

平田　ふーん、そんなの聞いたことがないもんな。

浜田　現在はありませんから。

平田　あの地域に高塚古墳が入ってるとの情報はない。

浜田　ないですか。当時の一中の先生たちが文部省の人と一緒に来て調査したということが村史に書いてある。誰々というのは忘れましたけど。

平田　それからね、これは鹿児島の人たちにはショックかも知れないけど「ﾀｶﾁﾎ」という山が青森県にもう一つあるのです。どんな字を書くかというと「高乳穂」と書くのです。横から見るとオッパイが寝ているように見えるのです。高千穂も見ようによってオッパイに見えるわけです。昔の人はすぐ異性のことを連想してグラマーな乳房が天空に聳えていたら、すぐ目に着きますから、そういう命名が自然だと思うのですがね（笑い）。

浜田　これは余談ですけど、清水の弟子丸の智尾には祢占から分かれた建部氏の神社があった。

平田　あの辺は建部氏が大きな勢力を持っていましたからね。

浜田　その神社は中学校（国分北中）を建設する時にどこに移築したのか。今は全然ないのです。弟子丸さんに聞いてみなければと思っている。

平田　弟子丸という名前は仏弟子に由来するのです。仏弟子という意味で男児の名前に付けた。その弟子丸という人物が開発した地域だから、弟子丸名になるのです。

浜田　祢占の建部氏の分家です。

平田　でしょうね。

錫杖寺

納　鹿児島県にあるのかなと思うけど、宮崎県の高千穂にある「ｸｼﾌﾙﾆﾐﾈ穂触峯」と穂触神社。鹿児島県の場合、霧島にそれに対応する地名はあるのですか？

平田　鹿児島県にはないですよ。霧島六所権現のうち5箇所は宮崎県にあるわけです。西御在所霧島権現が現在の霧島神宮になっているわけで、鹿児島県が霧島市を名乗るのは宮崎県が文句を言ったら困ると思うのです。

上野　私もそれを聞きたかったのです。本当に霧島市でよかったのだろうか、と。

平田　それを名乗ったから国分市長は選挙で負けたのでしょう。余計なことだけど。

納　日向の高千穂は秀でた山ではないのですよ。まぁ云えば高原です。極端に云えば畑です。その下に穂触神社があるのです。きれいな三角形の山があります。その前に穂触神社があります。「ｸｼﾌﾙ」という地名がこっちにもあるんだろうかと思ったのですが。

平田　あっても宮崎県側ですよ。こっちにはない。

上野　都城から霧島を眺めると非常に綺麗です。山の形がですね。鹿児島県側から見ると妙に山が飛び出して見える。桜島で云えば表とか裏と云います。桜島には失礼な言い方ですが、こっちから見るのが本当なのか垂水から見るのが本当なのか（笑い）。

浜田　袴腰があるから裏じゃないですか。

平田　袴の腰か（笑い）。

浜田　これの最後、錫杖寺と・・・

平田　錫林寺？

池田　錫杖院じゃないですか。

平田　錫杖院か（全員いい加減）。

浜田　これと華林寺との関係は、どうなんですか？

池田　あれは、「ｹﾘﾝｼﾞ」。すべて錫杖院が霧島岑神社も管轄しています。あの辺の神社のほとんどの別当寺が錫杖寺であったり華林寺であったりです。

浜田　東霧島神社のお寺は何という寺ですか？

池田　金剛院だったかな。

浜田　そこも錫杖院が差配していたのですか？

平田　それは三国名勝図会を見て下さい。

天降川

池田　563ﾍﾟｰｼﾞ上段真ん中から後の方に「其より霧島山より遷り坐して其山を下りて空国を行去て笠沙御崎に到り坐し」とありますが、空国（むなくに）とは襲国のことですか？

平田　膏宍（そじし）の空国とは何もない国のことで襲国とか熊襲国と呼ばれていた。古事記の時代に呼ばれていた名称と思ったらよい。

米原　563ﾍﾟｰｼﾞの中段のはじめの方に「国府郷に渦川を又は天降川とも云るは」とありますが。

平田　何ですか。はい、判りました。大津川のことを渦川と理解したのですね。あすこに大津という地名があります。それを「ｳﾂﾞ」と読み、さらに宇豆峯（ｳﾂﾞﾐﾈ）と結び付けているわけです。天降川（ｱﾓﾘｶﾞﾜ）というのは襲（その）山（やま）郷あたりが名付けた名称で、三国名勝図会をみると国分の人たちは天降川という名を知らないのです。天降川という名は新しいよび名で、神話が行き亘ってから江戸時代の終り頃に付けた名称だということです。

ここで休憩しましょう。

「ミナト地名について」

繁昌正幸

平田　後半は埋文センターの繁昌正幸さんにお願いします。じゃー、よろしく。

繁昌　皆さん今日は。若輩者であまり地名の研究はしていないのですけど、機会を与えられましたので発表してみたいと思います。

この地名研究会に入らせて頂きました契機が古代の郡郷の地名、それから古代の官道とか、そういうのを調べようと思って平田先生に尋ねたら、こういうのがあるよと教えて頂き、参加するようになりました。

古代官道ですから、道を調べて行くうちに陸の道だけでなくて海の道もあるということで、港を調べて行った方がいいのじゃないかということになったわけです。そうした時に千田　稔『埋もれた港』に出会いました。古代の湊とか、国の湊、郡の湊とか、そういうのがありましたので、それについて調べてみようと取り組み始めた次第です。

やってみると資料だけは沢山あるのですが広すぎて収拾がつかなくなったような状況です。それでも一応まとめてみようと考えております。

港というと、ご存知の「空も港も夜ははれて」という歌もあります。港と云えば一般的に港湾を考えますが『埋もれた港』によれば「ミナト：本来の語源は水門」と書いてあります。どういうことかというと、川は流れて海に入ります。そこが本来的には「水門：ミナト」になります。

古事記に因幡の素兎の話があります。「今急くこの水門に往きて水をもて汝が身を洗ひてすなはちその水門の蒲の黄を取り・・・」と。剥げた兎になったのを蒲の穂でいたわる話です。川が海にせり出す所に生えている蒲の穂でいたわるという表現になります。また景行天皇の段に「東に淡水門を定め」と出て来ますが、水門（港）を造ってということです。同じ古事記でも内容が異なって来ます。

私は埋蔵文化財センターにいるのですが、発掘調査で港が検出されるのかというと、なかなか難しい。現在２か所ほど古代のドック跡ではないかというのがあります。福岡県福岡市の今山遺跡で石組遺構が出ています。最近の新聞に長崎県壱岐島の原の辻遺跡で同じようなドックと思われる石組遺構が出ていることが報道されました。

海外との交流を考えたら当然港が必要なので、港があれば船を修繕するドックが遺構として見つかる可能性があります。

それとは別に青森県の十三湊（ﾄｻﾐﾅﾄ）。十三湖という湖があるのですが、そこに中世に栄えた湊があったことが判って来ました。

ところで「ミナト」地名はどんな表現をされるかを調べてみました。そこに書いてある通り「水門、湊、港、津、泊、浦、江、浜」そういうものがミナトの地名として出て来るようです。

まず漢字が表わす字義を「新字源」角川・「新明解漢和辞典」三省堂で調べてみました

港：船の通る水路。ミナト。船着場。本来は水門の意味で、もと河口を指した。

湊：水路の集まる所。ミナト。船着場。水門の意味で、もと河口を指した。

津：川を渡って進む所。渡し場。渡し。船着場。ミナト。ミナトを雅語で表わしている

泊：船が泊まる水辺。船を泊める船着場。

浦：石籬浦に着船（続日本紀）。水辺の平地。海や湖などの陸地に入り込んだ所。海や湖が陸地に入り込んで波の静かな所。

江：大きい川。入江。湖や海で水が入り込んでいる所。もと川や海の入江を指す。

浜：舟を引き入れる溝・港。（これは字義的に自分のイメージとは違ったのですが、浜にもミナトと意味があるようです）。

港から浜まで七つほどあります。すべてミナトを表わしていることになるようです。

次ぎに千田　稔『埋もれた港』の記載から要点を抜き出してみました。

和名抄では三つ「津・済・泊」を書いているようです。津については、和名、豆(ﾂ)。渡水処（水を渡るところなり）ということ。「諸度関津及び舟筏に乗りて上下し津を経る者皆まさに過所有るべし（唐令）」があるのです。過所(ｶｿ)というのはパスポートです。船で来て津に泊って行ったり来たりする人はパスポートを取らないといけない、船に通航許可証が必要だということです。古代の日本では長門と摂津ではパスポートが必要だったのですが、それ以外の船の通航には必要がなかったと書いてあります。

済：和名、和太利。渡処なり。渡る津、河川の渡し場と書いてありました。海のミナトを考えてますので、ここでは関係がないと思っています。

泊：和名、止末利。止なり。津と泊は同義語ではないかと思います。

次ぎに地形とミナトの関係について私なりに解説してみます。まず「浜」：吹上浜のような真っ直ぐな海岸・砂浜のイメージ。少し入り込んだ処を「江」という。さらにもう少し入り込むと「浦」という地名になる。「津」というのは坊津などのように奥深く入り込んだ処のイメージとして大まかに使われているようです。これが絶対ということではありません。

本来的にこちらが海、こちらが川であるとすれば、海と川の接点を水門(ﾐﾅﾄ)という解釈になります。ミナトには港と湊がありますが、現在湊の文字は使いません。ほとんどが港です。ということは新たに波止とか突堤を造り出して船の入る入江を造っていることによります。それに対して十三湊なんかでもそうなんですけど、地形でいうと天然の入江を湊として使っているようです。

そうすると「浜」だけが私がイメージするミナトと異なります。こういう地形的なものをもとに大まかにミナトが造られるのかなと思いました。

次ぎに古代以降各時代にいろんな地名・地形・場所で、どういう表現がミナトに実際的に使われているかということです。３ﾍﾟｰｼﾞの資料をご覧ください。『埋もれた港』に書かれているものをほぼそのまま書いたものですけど、そこでもいろんな表記が出て来るようです。これに従っていきます。

最初に「五泊」というのがあります。大阪から神戸・兵庫あたりの処に⑤五泊と書いてあります。河尻泊(ｶﾜｼﾞﾘﾉﾄﾏﾘ)・大輪田泊(ｵｵﾜﾀﾞﾉﾄﾏﾘ)・魚住泊(ｳｵｽﾞﾐﾉﾄﾏﾘ)・韓泊(ｶﾗﾉﾄﾏﾘ)・楚生泊(ﾑﾛｳﾉﾄﾏﾘ)。これが当時五泊と呼ばれていたようです。

次ぎに遣新羅使のルート（新羅使が日本に来て帰るのを送って行った）に出て来るミナトが、大伴御津(ｵｵﾄﾓﾉﾐﾂ)・難波御津(ﾅﾆﾜﾉﾐﾂ)とも書いてあります。難波のミナトだと思います。次ぎに武庫浦(ﾑｺﾉｳﾗ)、この図では武庫水門（ﾑｺﾉﾐﾅﾄ)になります。それから明石浜(ｱｶｼﾉﾊﾏ)、備後の長井浦、それから安芸の風早浦(ｶｻﾞﾊﾔｳﾗ)、周防の麻里布浦(ﾏﾘﾌﾉｳﾗ)・熊毛浦(ｸﾏｹﾞｳﾗ)、佐婆津(ｻﾊﾞﾂ)。そして門司を通って博多の方にある筑紫の荒津（ｱﾗﾂ)に入って新羅の使節は新羅の方に帰って行くという里程です。ここで出て来るのは津とか浦とかいうのが多い。

斉明天皇が百済に救援軍を出します。その時、難波御津→大伯海(ｵｵｸﾉｳﾐ:岡山県大伯郡の海）→伊豫の熟田津(ﾆｷﾞﾀﾂﾞ)。「熟田津に船乗りせむと月待てば潮もかなひぬ今榜ぎ出でな」（万葉集巻一、八。斉明天皇御歌）というのがありました。そこを出て那大津(ﾅﾉｵｵﾂ)に出て、そこから出ようとした、と云います。

難波のミナト：現在の大阪のミナトの表記がいろいろありましたので資料に書いておきました。難波之碕・難波崎・浪速渡・浪速済・難波之大渡・難波柏渡・難波津・難波御津・難波三津之浦・難波三津浜。そういう用語が使われているようです。それぞれの用語に

よってミナトの形状が違っているかどうかというのは最終的にはその当時の文献か発掘調査で当時のミナトが出て来ない限り判らないのですけども、いろいろな表現があるということです。

その他にアドエとか江之口とか、旧大和川の入口のところに堀江とか、そういうのも使っていたようです。

ところで現在は住吉(スミヨシ)と云いますが、昔は墨江(スミノエ)と云っていたわけです。墨だったのが、きれいな文字を使うことになったのか、住吉と書き、これも「スミノエ」と読みました。住吉津(スミノエノツ)・住吉三津(スミノエノミツ)・住吉得名津(エナツ)・住吉敷津浦(シキツウラ)というふうな感じで、津とか浦とかいろんな用語が多用されているようです。ということは古代にいろんな名称があったことになります。

その他、その図で見て頂きたいのは九州にあったミナト地名です。坂門津(サカトノツ)・国埼津(クニサキツ)・草野津(カヤノツ)。門司、これは多分海の門をつかさどる司(ツカサ)ということでの門司だと思います。岡水門(オカノミナト)・袖之湊(ソデノミナト)・那ノ津(ナノツ)・博多津(ハカタノツ)・草香江(クサカエ)・荒津(アラツ)・冷泉津(レイゼイノツ)などがあります。

ちょっと離れた所に相子田停(アイコダノトマリ)停(トマリ)：これも船が着くミナトということになるようです。

同じように古代では各地でどういうような表記がなされていたかというのが、資料2.全国の古代ミナト地名。いろんな名称があることが判ります。読み上げて行きます。本州の青森：日本海の方から。十三湊（とさミナト）・鰐田浦(アキタウラ)、これは坂上田村麻呂が蝦夷の征伐に行きますが、鰐田浦に船を着けてそこから進んで行くという記事です。鰐田浦これは今の秋田です。それから佐渡の国津(クニツ)、新潟の蒲原ノ津(カンバラノツ)、富山の亘理湊(ワタリノミナト)、石川の加嶋津(カシマノツ)：これは大陸との交通で出て来ます。比楽湊(ヒラカノミナト)、敦賀津(ツルガノツ)。島根県の千酌浜(チクミハマ)隠岐に大津という地名があります。

太平洋側の方、北の方から。高浜(タカハマ)、海上潟(ウナカミガタ:現在千葉県海上カイジョウ郡)真間入江(ママノイリエ)・東淡水門(アヅマノアワノミナト)。国府津(コウヅ)・今浦(イマウラ)・御津(ミツ)・船津(フナツ)・鳴呼児之浦(アコノウラ)・紀伊水門(キイノミナト)・徳勒津(トコロノツ)・渡邊津（ワタナベノツ)・大津・明石水門(アカシノミナト)・水児船瀬(カコノフナセ)・飾磨江(シカマノエ)・都宇郷(ツウゴウ)：これは郷名ですけど多分「津」という郷。二字にせよとのことで都宇：多分ここにも「津」があったのかなと思います。それから三津(ミツ)、佐婆津（サバノツ)。

四国に渡って稠能浦(アンノウラ)・熟田津(ニギタヅ)、高知の方に大津。

九州では先程言った坂門津・国埼津・草野津・那ノ津など。鹿児島では網津(オオヅ)・坊津（ぼうノツ)。

それらの文字が現在どのように表記されているのかというのが、資料３です。ミナト地名に関係があるようなものを一応選び出したのですが、全部を抽き出すことは出来ませんでした。同じような地名もあるし、港が形成されていないような所も多いのです。港が造られるような入江の多い所なんかは数多くの地名があります。これを全部書くことは出来ませんでしたので省略してあります。

北海道から北方四島の方では「泊」という地名が多いようです。青森から日本海岸の方に行きますが、大湊とか佐渡島の両津(リョウツ)

とか富山の魚津(ウオツ)・新湊(シンミナト)。福井になりますか原発のある小浜(オバマ)、鳥取県の境港(サカイミナト)：これは新しいのでこの字を使っているのかなと思います。それから小津(オヅ)とか江津(ゴウヅ)とかあります。

太平洋岸の方はいろいろありますが「浦」とか「津」が多いようです。小名浜(オナハマ)、これも原発がある所です。那珂湊(ナカミナト)・勝浦(カツウラ)・袖ケ浦(ソデガウラ)、三浦、榎津・富津(フツ)。「津」という地名が多いようです。

四国の方では椿泊湊(ツバキトマリノミナト)、川之江(カワノエ)、新居浜(ニイハマ)、八幡浜(ヤハタハマ)、興津(オキツ)、浮津(ウキツ)、室津(ムロツ)などがあります。

九州については資料4.九州の現在のミナト地名を見て下さい。門司から東の方、瀬戸内沿岸に行くと、松江(マツエ)・中津(ナカツ)・今津(イマツ)があります。大分県から宮崎県にかけては「浦」という地名が多いようです。そして宮崎の方ではあまり目立った地名はありません。細島というのは行ったことがないので、どういう地形か判りませんが日向灘の北の方にあるようです。鹿児島県寄りになると油津とか、そういう所が出て来ます。

佐多岬に行くと、大泊(オオトマリ)、島泊(シマトマリ)があります。逆に門司の方から西海岸を下って来ると、波津(ハツ)、渡(ワタリ)、津屋崎(ツヤザキ)、姪の浜(メイノハマ)とか唐津(カラツ)、波戸岬(ハトミサキ)。鹿児島県にも波止脇(ハトワキ)があります。それと関係があるかなと思います。

長崎県の方に行くと「浦」とか「泊」とかいう地名が増えます。そして同じような地名で京泊(キョウトマリ)があります。京へ向かう湊だったのかなと思います。

熊本から長島にかけては「浦」という地名が多いのかな。三角浦(ミスミウラ)・大浦・御所浦(ゴショノウラ)・田浦(タノウラ)・久玉浦(クタマウラ)・宮之浦(ミヤノウラ)。そういう所があるようです。

鹿児島県に入ると、米ノ津(コメノツ)・福之江(フクノエ)・京泊・網津・小湊・坊津とありますが、鹿児島県でどういう表記がされているのか、というのが資料5･6です。資料5.は三国名勝図会記載の港湾、資料6.は鹿児島県の現在のミナト地名になります。三国名勝図会に記載されたものと現在のミナト地名が合致しているものも結構ありますが、そうでないものもあるようです。読みの難しいものだけ説明します。

資料5.では鰐ノ浦(ワニノウラ)：伊唐島(イカラシマ)にあるようです。長島から渡って脇本だと思うのですが、樵之浦(カシノウラ)。阿久根には倉津港(クラツコウ)というちょっと深い港もあるようです。現在は京泊となっていますが京泊津(キョウトマリノツ)と呼んでいたようです。それから唐浜(カラハマ)というのもミナトというふうに記載されています。久見崎浦(グミザキウラ)というのがあります。近世の軍港：薩摩の軍港だったと云います。船間島をふくめてです。船間島は多分ドックだったと思います。

串木野から東市来にかけて戸崎嘴(トサキハナ)。これは市来になります。江口浜(エグチハマ)の下に下口浦(オリクチウラ)、帆之港(ホノミナト)とあります。

笠沙から坊津にかけては非常にミナト地名が多く、坊津港と書いた中にも唐湊(カラノミナト)・唐浦(カラウラ)・舞鶴の浦(マイヅルノウラ)・亀ケ浦(カメガウラ)とか、いろいろあるようです。泊の方も丸木浦(マルキウラ)・泊浦(トマリウラ)があります。

枕崎から知覧の方に行くと松ケ浦港の隣は門之浦(カトノウラ)、その右の方は石籬浦(イシガキウラ)。遣唐使船の一隻が漂着した所です。

山川の方に行って、無瀬浜(ｾﾅｷﾊﾏ)と読むようです。鹿児島湾に入って唐渚(ﾄﾘ)。今は唐湊と書くようです。（編集者後記：唐渚は田上川河口のミナトでなければならないが、鹿児島大学キャンパスにあった古墳時代の集落・平安時代の荒田庄の立地を考えると、河口の湊を考えるのは無理。三国名勝図会の記述も伝承としての湊の説明である）。

福山の方に若尊碕(ﾜｶﾐｺｻｷ)。この裏の方に自衛隊の潜水艦に基地があるようです（編集者後記：大日本帝国海軍時代から世界に誇る魚雷の試験場があった）。

桜島から南に下り、江之島、古江浦。高須港の下に葦箇浜(ｱｼｶﾞﾊﾏ)。私は鹿屋の出身ですが、父が昔の歌に葦ｹ湊(ｱｼｶﾞﾐﾅﾄ)がうたわれていると云っていました。今は全くの浜で海水浴場になっています。そこにミナトがあったのだと云われて、何に載っていたのかと思っていましたが、つい先日、三国名勝図会に載っているというのが判って、そういう歴史があったのだなと思いました。

佐多岬から太平洋岸に出て、内之浦・波見浦(ﾊﾐｳﾗ)、その次ぎが洲嶼(ﾅｶｼﾏ)。波見と柏原(ｶｼﾜﾊﾞﾙ)の間が肝属川の河口で、真ん中に洲があります。それを「ﾅｶｼﾏ」と呼んだのでしょうけど、そこもやはりミナトになっています。そして志布志津(ｼﾌﾞｼﾂ)。

現在のミナト地名となると結構あります。見直してみると南薩方面の大浦・坊津・知覧辺りは「浦」という地名が多いのかなという気がします。指宿から喜入の辺りは「浜」とか「湊」とか、そういう地名が卓越していると思います。鹿児島近辺は「浜」とか「江」という地名がミナトを表わしているようです加治木・国分辺りでは圧倒的に「浜」が多くその中に「波止」というのがあります。平田先生が云われた俊寛たちが流されて硫黄島へと出て行ったのは「鳩脇：波止脇」からだったということで「波止」という地名があったことが判りました。

資料7.が島嶼部の地名。甑島では「浦」とか「港」というのが多いのですが、東港とか鹿島港とあるように新しく造られて港が多いのかなと思います。

三島・十島は「浜・泊・浦」が多いようです。熊毛地区には「浦」とか「港」とかあるようですが、鉄砲伝来で知られる船が漂着した前ノ浜もやはりミナトになるかなということであげました。一湊(ｲｯｿｳ)と宮之浦(ﾐﾔﾉｳﾗ)、現在は宮之浦に港がありますが、地形的にミナトとしていいのは一湊ではないかなと思います。

奄美諸島では「浜」「湊」「津」、いろんな文字を使っているようです。喜界島では小野津(ｵﾉﾂ)という所が昔からのミナトだと聞いていますので今の湾よりも歴史的に古い。そうするとミナト地名の名称で新旧が出て来る可能性があると見ています。

徳之島では伊仙に前泊(ﾏｴﾄﾏﾘ)・鹿浦(ｼｶｳﾗ)というのがあるのですが、徳之島町の ●の上に○を付けて亀津(ｶﾒﾂ)と書いて下さい。実際の港は亀徳港(ｶﾒﾄｸｺｳ)になっていますが亀津と亀徳はつながっていますので、それも本来のミナトになると思います。

沖永良部では和泊(ﾜﾄﾞﾏﾘ)・沖泊(ｵｷﾄﾞﾏﾘ)があり「泊」という地名があるのかなという感じがします。

羅列しただけの感じがしますが、このようにしてみると日本全国であっても鹿児島県であっても、ミナトを表わす地名も現在使っている「港」だけでなく「津」「泊」「浦」といろいろな名称が使われているような気がします。それで自分なりに考えてみたミナトの名称の新旧というか移り変わりとかを、大体見て、こういう表記になるのかなというのを書きます。後でご指導ください。

1. 水門（古代） → 湊（中世） → 港（近代）
2. 渡・済：川の渡しということで役目を受け継いだが、現在はほとんど消滅。
3. 浦・江・泊・津・浜
   - 浦：地名として残っているが本来的なミナトとしての用語は古代から中世まで。
   - 江：現在は、ほとんど使われない。
   - 泊：北海道にもあり使われてはいるが、頻繁に使われるのは古代から中世ぐらいまで。
   - 津：今も実際的に使われている。泊よりは長く使われた。
   - 浜：現在でも使われるが、ミナトという名称・イメージでない。唐浜などがあり、どのように考えるか未解決。

今回指名を受け、古代の地名・中世の文書・歴史書に出て来る地名・三国名勝図会の記事そして現在の地図からミナト地名を拾い出してみました。ミナト地名の表記は黒板に書いた通り（上記のまとめ）の形になるのかなと考えます。

今後の課題ですが、私は本来のテーマとしている古代官道と古代の海の道にかかわることで、瀬戸内沿岸のミナトの地形、地形による名称の違い、歴史的な時期による名称の変遷、それが使われなくなったのであれば何故使われなくなったのか。それらを鹿児島の場合と照らし合わせて考えてみたい。坊津も昔は三津と云われていますが、廃れた理由を考えることが出来ればと思っています。

〔質疑応答〕

細島港

上野　先程細島の話が出ました。私は細島までは歩きました（編集者後記：上野氏は島津氏の参勤交代路を確認するために文献史料に記された道を歩いている）。細島とこちらの陸地の間に川があります。川を越えると細島になります。現在はもうつながっています。夕方だったのですけど、現在の日向市の港はもっと離れた場所で、大きな港です。細島の場合、出て来る文献を見ると、ちょっと外です。地図には「島」と書いてあるので、勘違いします。

平田　京泊も船間島と本土（京泊）の間に海峡みたいな水路があって、そこに碇泊していた。細島も似たような地形だろうから。

中央からの伝播地名

久米　福山の方との話で出て来たことですが、いわゆる都と地方の地名の関係ですが。都にあった地名がそのまま地方に移って来ている。その一例が、私が生まれたのは屋久島の安房(ｱﾝﾎﾞｳ)という所ですが、これは千葉県：安房(ｱﾜ)の人が移って来たことによるとも云います。父が育った所はほとんどが日蓮宗の信者です。そして安房国は日蓮が出た処です。

それから襲山郷の西の方に嘉例川という所があるのですけど（福山郷の佳例川と混同した発言）、佳例川というのはかなり古いということです。佳例川地域にいたのは松下氏で福山の松下病院はその末裔じゃないかとの話も出ました。

その方は平岡大宮司と云って奈良県（大阪府？）の久米寺近くに神社があった、と。要するに、枚岡大明神は奈良（大阪、枚岡神社

は河内国一之宮）から襲山郷嘉例川（福山郷佳例川）に移って来た。松下氏はそれに結び付くのではないか。向うとのつながりを考えるとか、地名の移動も考えられるのではないか。そういうのを追究出来ないかと考えるのですが。

繁昌　まず私から。確かに類似地名があって、今言われた安房とか京泊などもそうでしょう。一般的に浦とか泊とかいう名称なんかはそのまま採り入れている所もあると思います。神社であれば春日神などを勧請して、同じ地域に春日とか向うと同じ地名を付けるとか、そういうことはあると思うのですが、それが追えるかどうかは判りません。その辺は平田先生にお願いします、

平田　葛例郷。嘉例川や佳例川だろうと比定されているのが和名抄にその郷名があります。地名としては非常に古い例です。中央の呼び名を持って来るのは、鹿児島の場合、江戸時代から現代にかけて向うの真似ばかりしているのです。良い例が白銀坂（ｼﾛｶﾞﾈｻﾞｶ）幕末から明治の初めに「ｼﾗｶﾈｻﾞｶ」と切り替えるのです。小山田もそうです。九州ではほとんどが「ｵﾔﾏﾀﾞ」なのに鹿児島は「ｺﾔﾏﾀﾞ」と呼んでいる。鹿児島はいわゆる中央志向が強い所です。そういう点では、いつ頃からそれを云い出したのか。これはやはり文献で当たっていく以外にないわけです。容易に見付けられません。

それから向うの神社を持ってくる話。八幡・住吉・春日・天神など、ほとんどが外来神でしょう、鹿児島の場合。中央から持って来るのを有り難がった面もある。古くから。

久米　憧れていたということでは。

平田　憧れていた点はある。それから海のルートということで種子、屋久、奄美もそうですが、熊野水軍・伊豫水軍の活躍の場であったことは否定出来ない。だからいろんな文化が入って来ていると思います。それを今から実証していかなければならないと思うのです。

嘉例川・佳例川

久米　佳例川という山奥に早い時期に凄い文化があったということですね。今は車で素通り、ただ過ぎて行くという感じです。そうじゃなくて都とのつながりということで、地方の山深い処で中央との結び付きを追えるのじゃないかということを感じたのですが。枚岡大明神とのつながりからそんなことを考えているんですが。

平田　福山の佳例川とは別に、いわゆる観光用の特急列車「隼人の風」で有名になっている百年を越えた駅舎の嘉例川があるのだけど、文化財指定みたいなものになるのでしょう。福山の佳例川はわりと集落もあるけど、肥薩線の嘉例川は駅前にちょこっと建ってるだけ。集落と云えるものじゃない。人はあまりいない。

立地から考えると、鹿児島県はシラス台地で浸食の激しい処ですから、嘉例川も佳例川も、どちらも豊かな水が流れる処ではない。むしろ「涸れ川」で、水のない時期の方が多い。そうすると命名としては「涸れ川」。現地を見て回る必要がある。先日、肥薩線を栗野・横川・嘉例川と下って行ったのですが全部無人駅だった。それを霧島市長がどういう采配を振るって行くか見ものだと思う。此処には国分出身の方もおられますから。

浜田　開発が可能ですかね。山ばっかりで

平田　ですからね。

浜田　石塔がありましてね。隼人町の人から見てくれとのことで4～5年前に行ったことがあるのですが。廃屋になっている所が多くて、削ったりしても判りませんでした。

平田　嘉例川？

浜田　はい、駅から1㌔ぐらいの処。人が住めるような処ではない。廃屋が沢山あります。

平田　人のいない処がある？

浜田　はい。

久米氏と大伴氏

浜田　久米寺のある処と鹿児島の関係ですが・・・。

久米　私の祖父は・・・。

平田　久米という姓は加世田と桜島に多いのじゃないの？

久米　そうです。加世田に多いのです。私の家は本来は加世田です。

平田　それからね、先程も出て来たのですが、何ﾍﾞｰｼﾞだったかな、あぁこれだ。大阪近辺の地図がありますが、難波御津とか住吉津、大伴御津。これらは大伴氏の根拠地ですよね。万葉集に数多く出て来る大伴旅人とか大伴家持の根拠地は此処です。大伴氏は天皇家の親兵。いわゆる「大伴・物部の兵士を率い」というのは、此処を根拠地として、まず瀬戸内海を征服して、次いで九州に進出して来た。大伴旅人は隼人が反乱を起こした時、征隼人將軍になるし、大伴家持も薩摩守になった。川内駅の前には銅像も立っている。大伴氏が出て来たということは隼人を押さえる力があったということです。久米氏は大伴氏の先兵として大隅・薩摩に住み着いたと思われます。

一般的な話だけど、泊は潮待ち・風待ちで航行出来ないので泊まるという要素があると思うのです、言葉そのものに。そこで船を下りて皆休息するわけですよ。そういう要素が強いということ。

それから感じたことで、資料5.近世のミナトで脱けているなと思ったのは市来湊。重要なのが脱落している。それから羽嶋浦が脱けている。若い薩摩の群像たちがヨーロッパへと旅立った羽嶋の湊を落としている。

内之浦と外之浦

平田　これは最近気が付いたのだけど、内之浦に対する外之浦（ﾄﾉｳﾗ）という地名。前回の米原さんの説明を聞いて、びっくりしたのです。油津の方に外之浦があることは知っていたけど佐多にも外之浦があったからです。そうすると内之浦を真ん中にして両側に外之浦という配置の説明が付くわけです。内之浦に誰が乗り込んで来たかを考えるとよいことになる。内之浦に縁があるのはヒコホホデミノミコトと高屋山陵の伝説。神話伝説の時代に内之浦・外之浦という地名の存在が考えられることになる。神話に結び付けられることになります。その意味からも鹿児島県のミナト地名は大きな内容をもつことになり、この研究は非常に面白いテーマになると思う。

納　吉田町ですか、宮之浦という処がある・・・。

平田　はぁ？

納　稲荷川のずーっと上流、あすこに宮之浦というのがあるでしょう。

平田　はい。

納　あれが初めは判らなかった。海岸端（はた）でないのに、あの山奥に「浦」という名前が付いたのか？

平田　あぁ、

納　そうしたら、川の先端部だった。先っちょだと叱られた。

平田　宮之浦、佐多之浦があります。

納　先の方を「末」と云いますからね。末：ウラ・ウレ、それから来ていると判りました。

米原　陸との関係で、海がミナトならば山の方は山門（ヤマト）。

平田　そうですね。そのように考えると、内陸の方にも大津という地名があります。今話が出たので、国府のすぐそばには必ず大津があります。国府の外港として大津がある。

上野　大津というのは、政府が認めた津ということですか。

平田　重要なミナトということでしょう。

上野　逆に見れば、「津」は大昔のもの。

平田　「浦」も古い。内之浦・外之浦を考えると神話に結び付くし、「津」は大伴御津とか難波御津とか熟田津、難波津、那之津も古い呼び名でしょうね。

それから「江」で警戒しなければならないのは、古江は古いミナトで解釈出来るけど、高江は「高い家」だと思うのです。ミナトが高い処にあるわけがないのだから。

籠（コモリ）

米原　もう一つ、右の方にある籠（コモリ）というのがありますね。前籠（マエコモリ）とか。

平田　あぁ、離島の方にある地名。

米原　竹島に籠港。宝島に前籠という港があります。籠がミナトになっている。

平田　伊能忠敬の日記を見ていても、山川から種子島に渡るのに風待ちで十日ぐらい待つのは普通なんです。だから泊るのは一日や二日の泊りでなく、一週間・十日の泊りが多いと思うのです。

浜田　こじつけですけど、平家物語の波止脇は「波、止まる。その脇」だというふうに当て字を説明したことがあるのですけど。

平田　船が泊る処ですからね。それが波止場になるわけでしょうね。

来年1月1日から私が南日本新聞のコラムに川の名前を書くことになりました。一年間毎日書かなきゃならないのですが、なんとか頑張ります。面白いと思った人が周囲にいたらこの会に誘って下さい。宣伝材料になると思います。

次回は内山君、3月もし天気が悪ければ、山の話をしてくれませんか。回った山の名でも感想でもいいです。というのは川が済んだら橋とか港とか考えますから、山にも波及して来ると思います。その布石として山の地名を勉強しといて下さい。何か、話を。3月は彼にお願いします。

ミナト地名について

05．12．04
地名研究会発表資料
繁　昌　正　幸

1 はじめに　－“ミナト”（地名）の表記

水門（ミナト）が起源　→　港・湊・・・・

○ 古事記
（因幡の素兎）－今急くこの水門に往きて水をもち汝が身を洗ひて，すなはちその水門の蒲の黄を取りて・・・
（景行段）　－東の淡水門を定め・・・

2 ミナト（地名）表記の歴史

水門・津・泊・浦・江・浜・湊・港・・・

◎ 角川新字源・三省堂新明解

港－船の通る水路。みなと。船着き場。（水の門の意で，もと河口を指した。）
湊－水路の集まる所。みなと。船着き場。（上同）
津－川をわたって進むところ。わたし場。わたし。船着き場。みなと。雅語。
泊－船がとまる水べ。船をとめる。船着き場。
浦－水べの平地。海や湖などの，陸地に入り込んだ所。
　海（湖）が陸地に入り込んで，波の静かな所。
江－大きい川。いりえ。湖や海で，水が入り込んでいる所。
　（もと，川・海の意）入り江。
浜－船を引き入れるみぞ。みなと。

※参考文献　千田　稔『埋もれた港』（小学館ライブラリー 139）小学館　2001 年 2 月 20 日刊

○ 和名抄
津－和名豆。渡水處なり。『四聲字苑』
　諸度関津及び舟筏に乗りて上下し，津を経る者，皆まさに過所有るべし。『唐令』
済－和名和太利。渡處なり。『爾雅注』
泊－和名止末利。止なり。『唐韻』

◎ 瀬戸内海沿岸のミナト表記

○ 五泊
河尻泊・大輪田泊・魚住泊・韓泊・室生泊

○ 遣新羅使
大伴三津（難波三津）－武庫浦－明石浦－備後の長井浦－安芸の風速浦－周防の麻里布浦－熊毛浦－佐婆津－筑紫館

○ 斉明天皇の百済救援軍
大伯海－伊予の熟田津－那大津

○ 難波のミナトの表記
難波之碕・難波崎・浪速渡・浪速済・難波之大渡・難波柏済・難波津・難波御津・難波三津之浦・難波三津浜・・・

○ 住吉←墨江
墨江之津・住吉津・住吉の三津・住吉の得名津・住吉の敷津浦・・・

3 各地のミナトの表記

◎ 全国のミナト表記

◎ 九州のミナト表記

4 鹿児島県のミナトの表記

◎ 三國名勝図会による表記

◎ 現在の地図による表記

5 現在の地名と実際

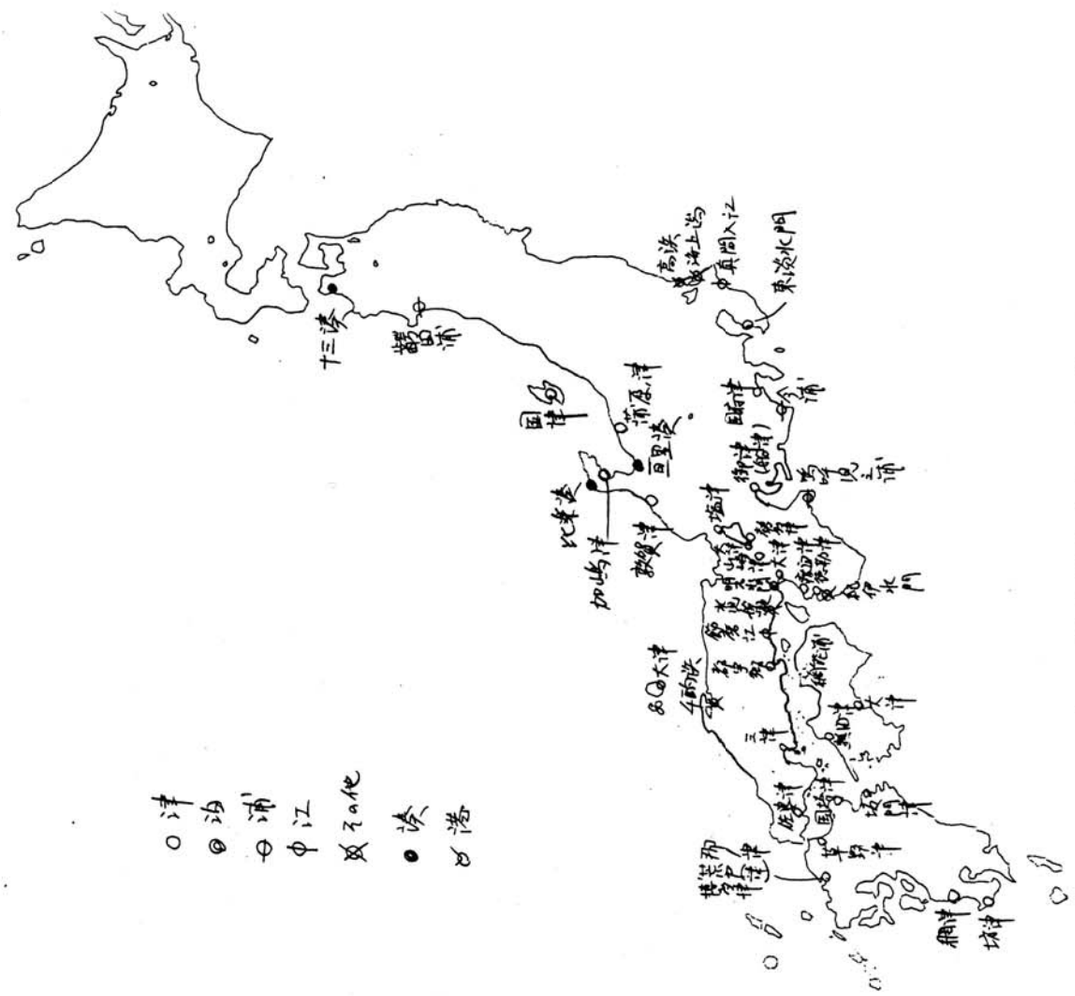
6 まとめ

ミナトの表記の変遷（推定）
水門－渡・済－浦・江・泊－津－湊－港

7 おわりに　－今後の課題

資料2

全国の古代・ミナト地名

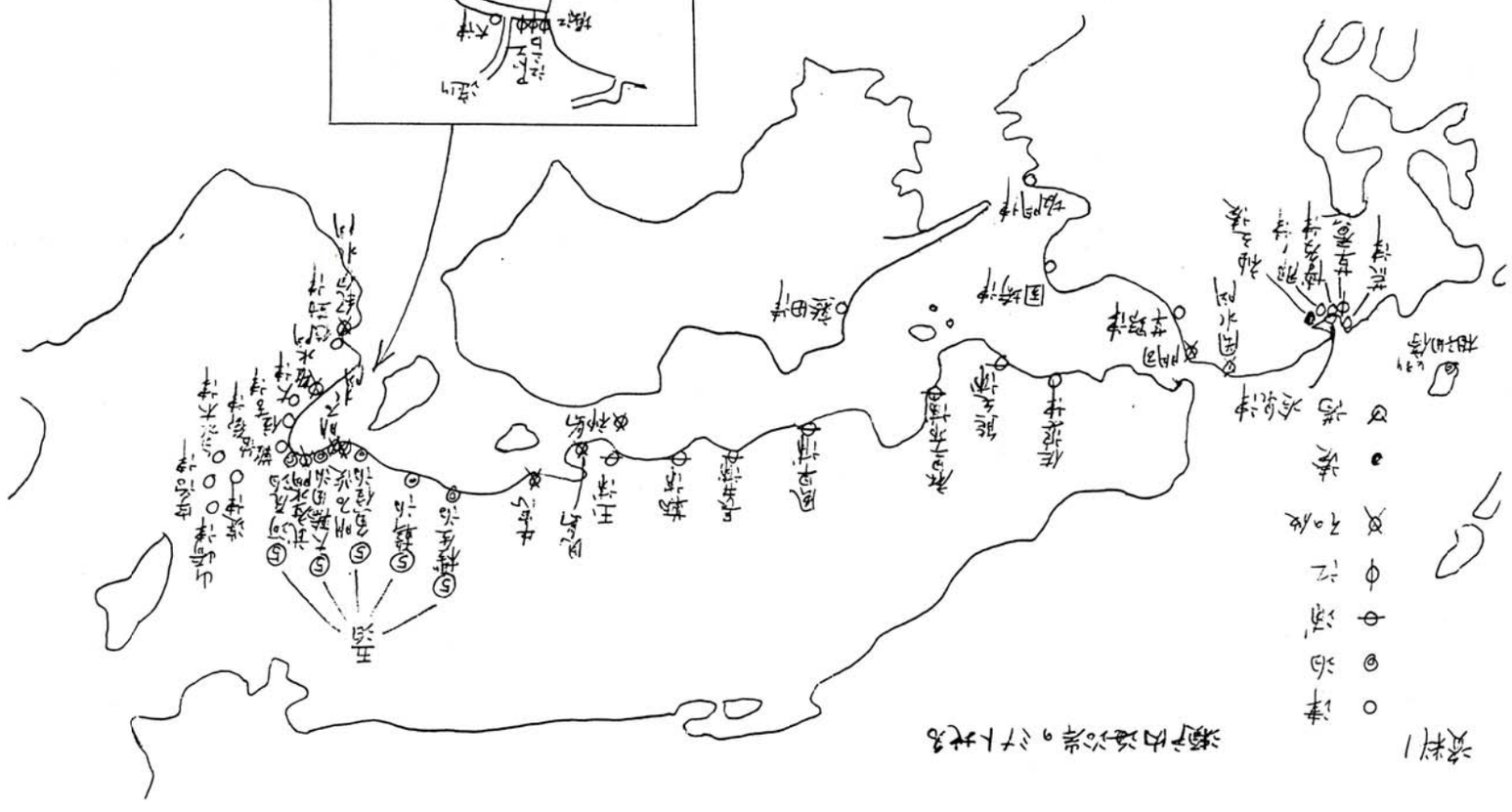


4回　森『理もれた港口小浮舟ノート－139　小浮舟』
2001年2月20日刊　中の地名も比江・浜・浦等

'05.11.20作成
Yamaji

資料1

瀬戸内海沿岸のミナト地名

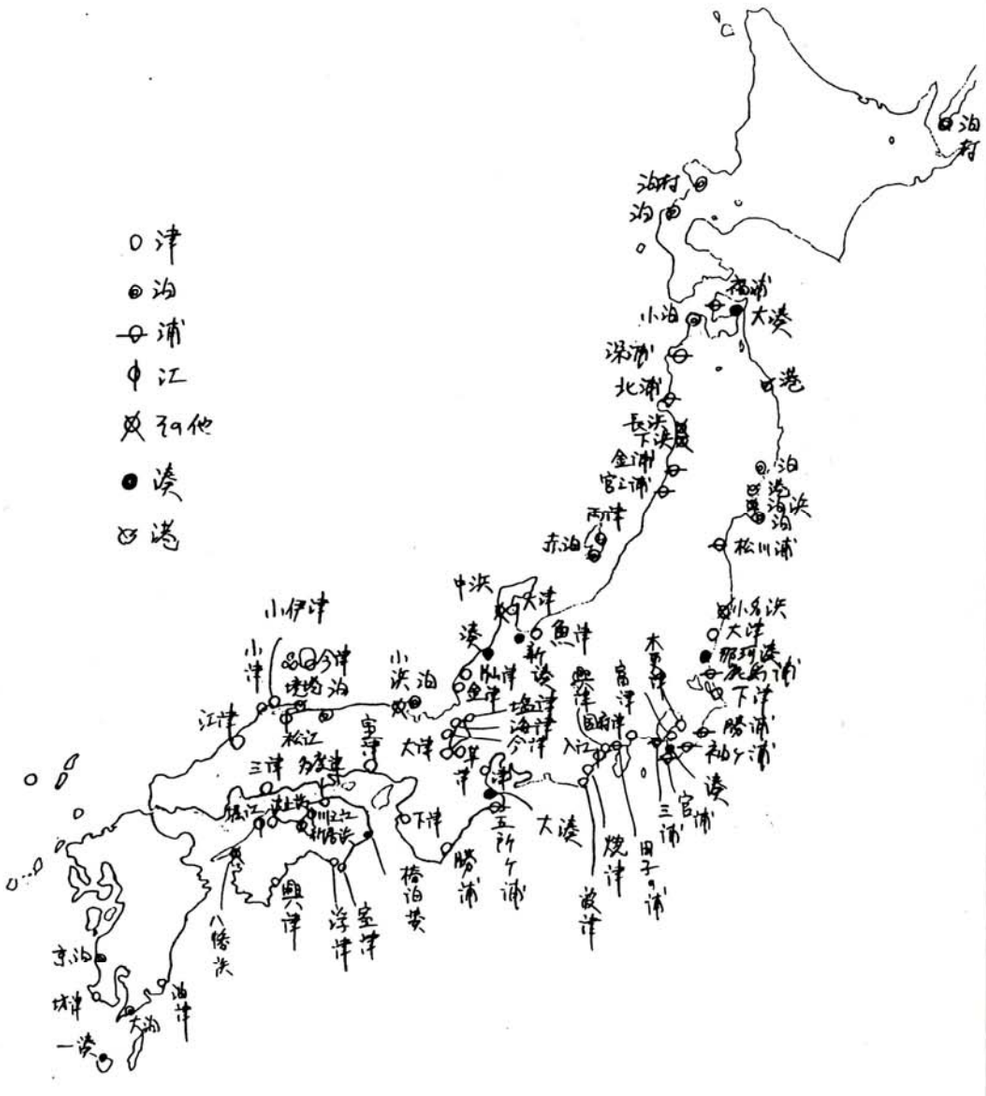


4回　森『理もれた港口小浮舟ノート－139　小浮舟』
2001年2月20日刊　による

'05.11.20作成
Yamaji

資料3

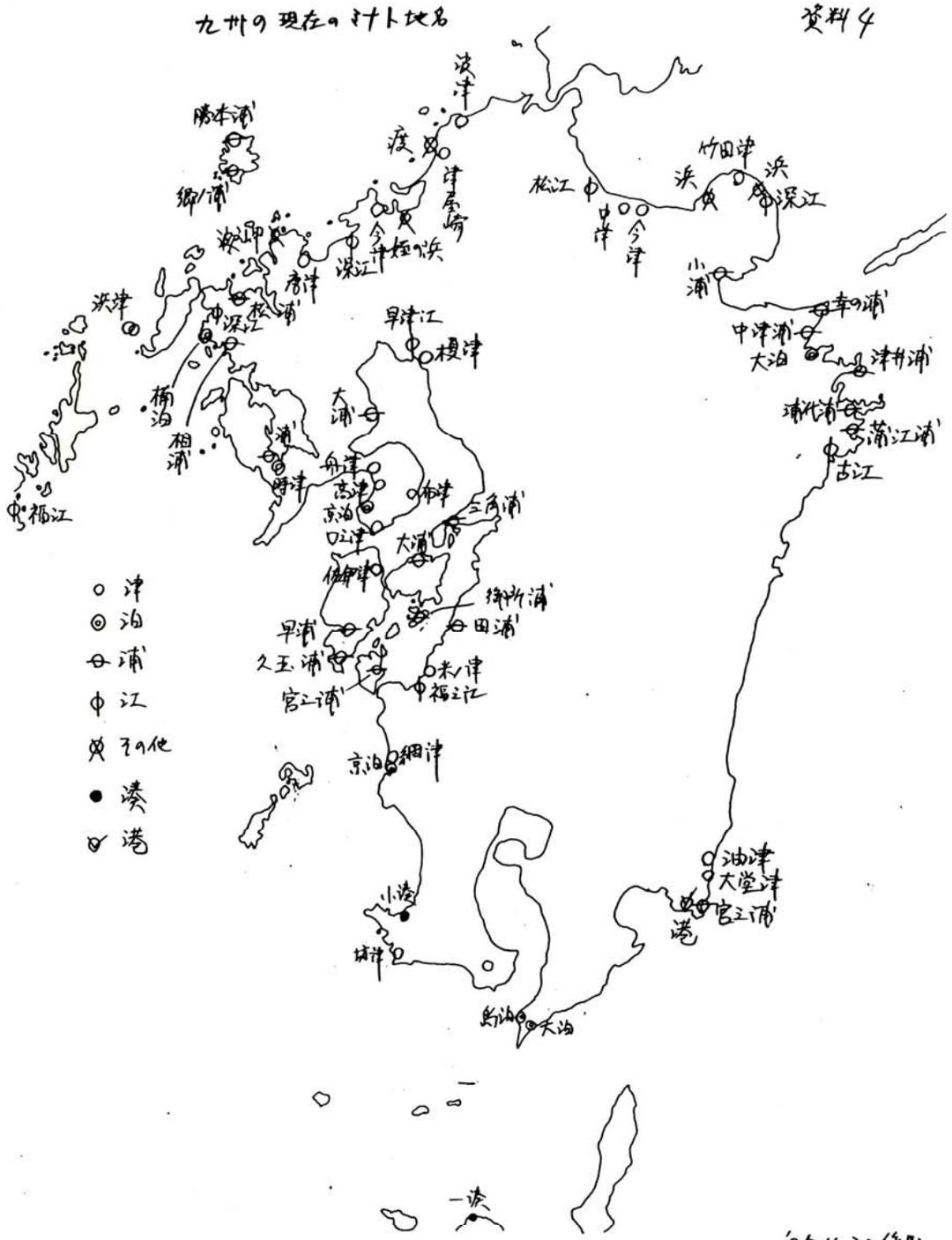
全国の現在のミナト地名



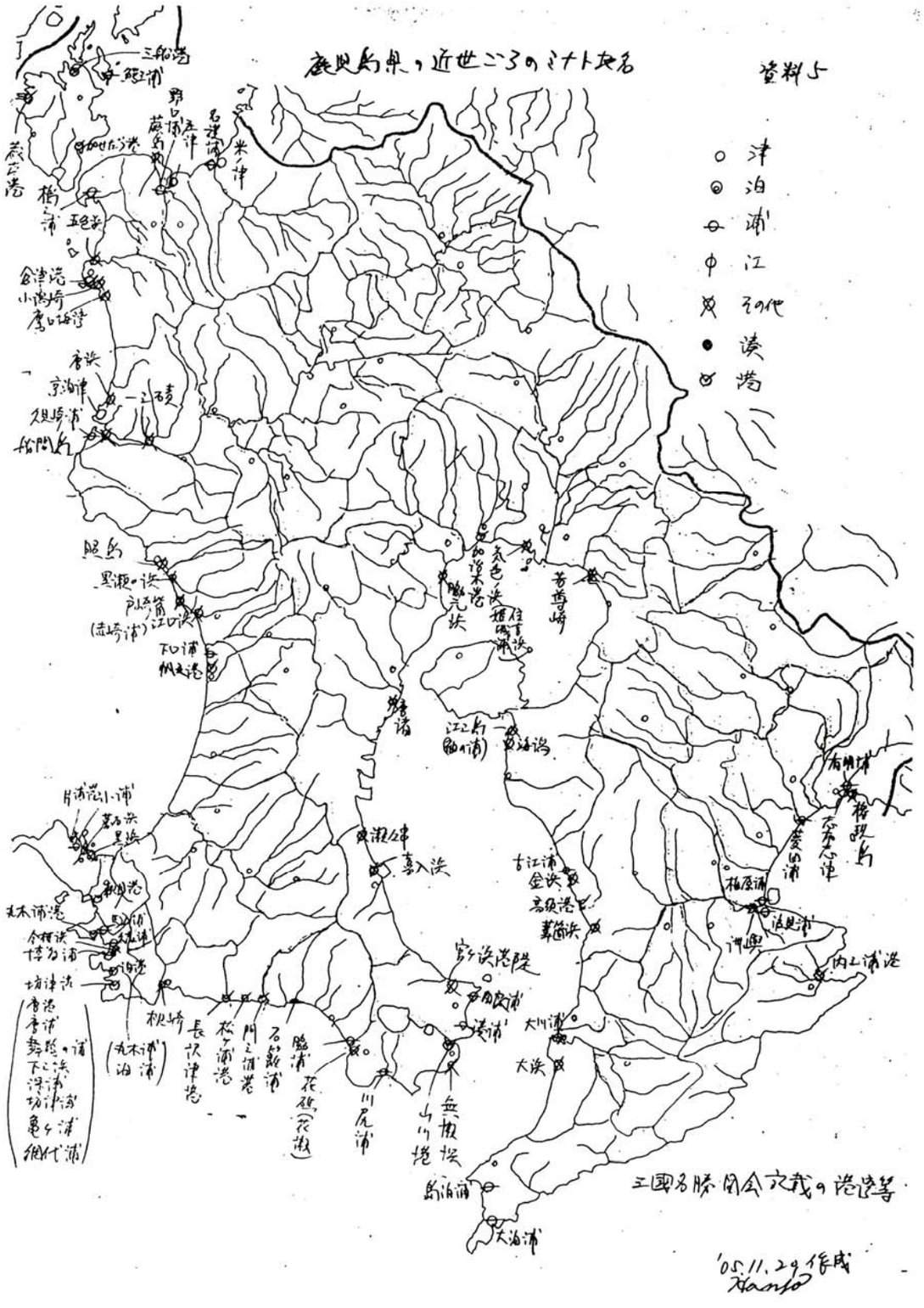
'05.11.20作成
Hanjo

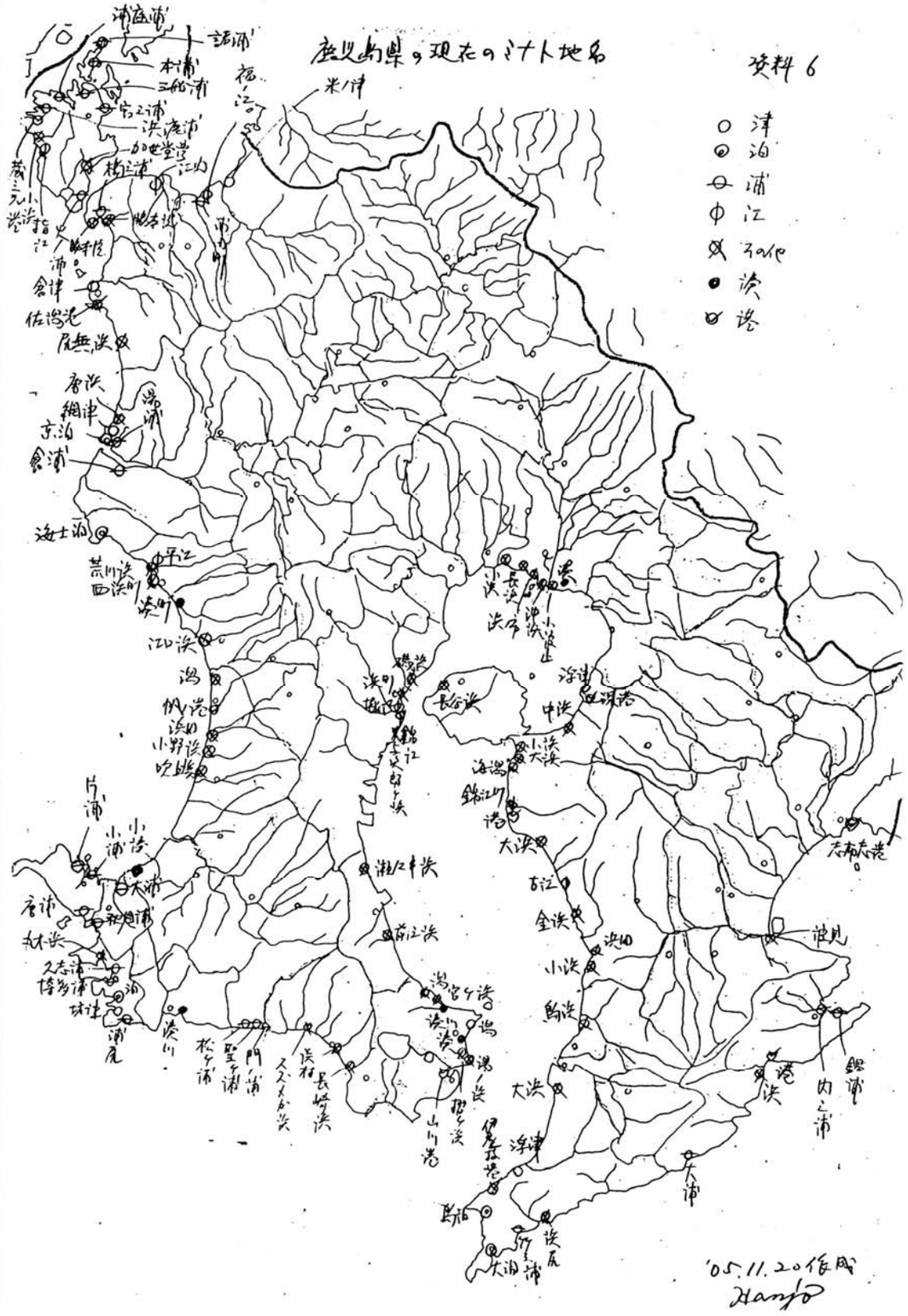
資料4

九州の現在のミナト地名



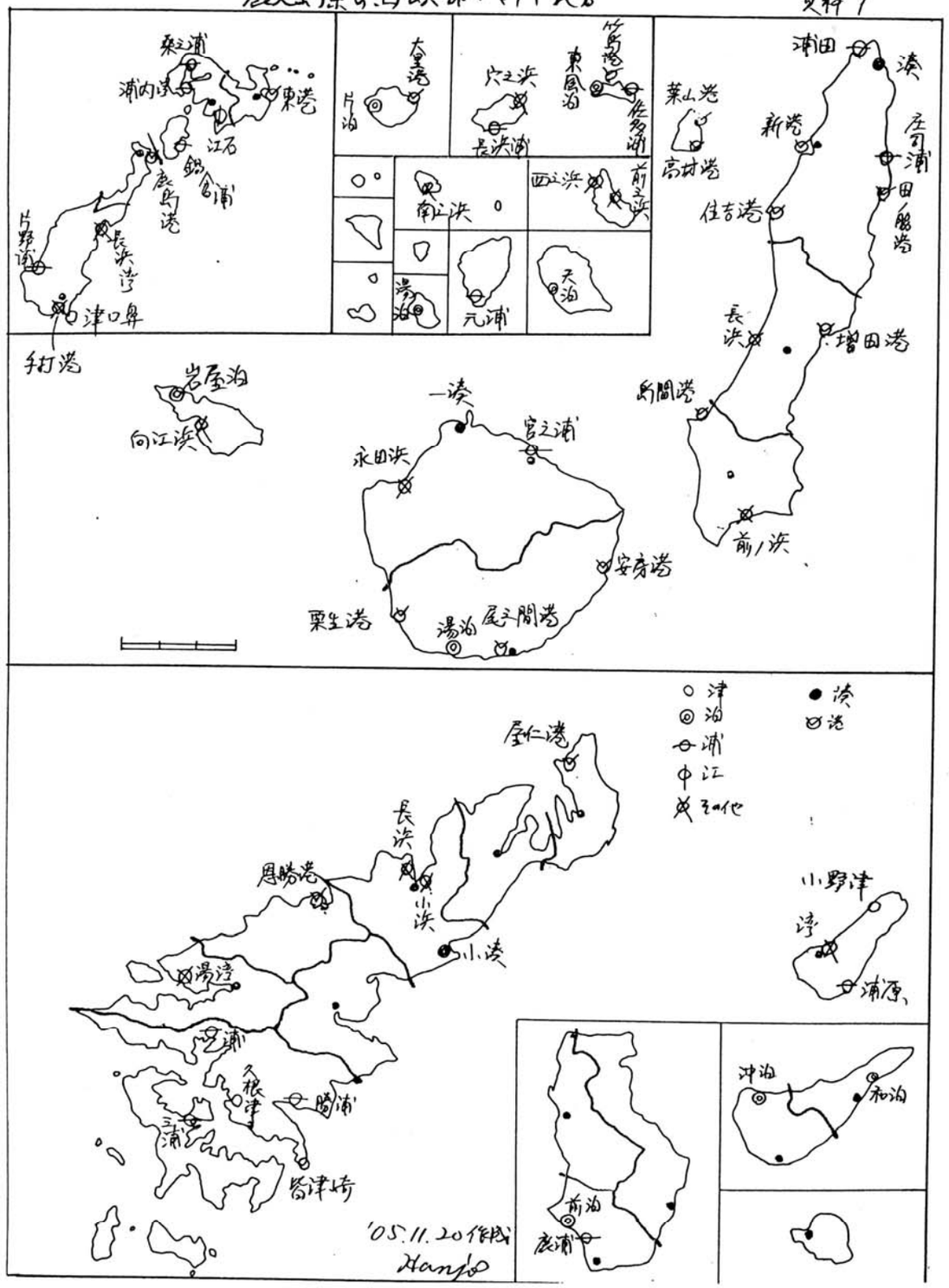
'05.11.20作成
Hanjo


鹿児島県の近世ごろのミナト地名
資料5
津
泊
浦
江
その他
浜
港
三船湾
鹿児島湾
米津
名瀬浦
蒲生浦
野口浦
指宿
開聞
坊津
枕崎
川尻浦
山川港
無量川
大浜
大泊浦
内之浦港
種子島
屋久島
奄美大島
三国名勝図会文献の港湾等
'05.11.29作成
Hanto


鹿児島県の現在のミナト地名
資料6
津
泊
浦
江
その他
浜
港
米津
福江
加世堂
指宿
枕崎
開聞
坊津
川尻
山川
大浜
内之浦
種子島
屋久島
奄美大島
'05.11.20作成
Hanto

資料7

鹿児島県の島嶼部のミナト地名



地名研究会報

第 92 号　　平成18年6月4日
鹿児島地名研究会

Ⅰ．第92回例会　　平成18年3月5日（日）　　於西郷南洲顕彰館研修室

（出会者）　入来院貞子・内山憲一・上野堯史・納　栄蔵・川野雄一・西田春人・浜田良知・繁昌正幸・肱岡修一郎・平田信芳・米原正晃（計11名）

Ⅱ．大日本地名辞書読会　　P.564～P.565　　西霧島神社・姫城・台明寺址

Ⅲ．錦江湾分水嶺踏査で歩いた地名

〔問題となった地名および事項〕

清水郷飛地の姫城、新町と川跡、台明寺衆集院と青葉の笛

分水嶺地名の十の謎：①辻岳と池田、②上鬼燈火谷、③鬢石と饅頭石、④河内と川内

⑤横川町の「岡」地名、⑥下り山：クダリ？・サガリ？、⑦霧桜峠、⑧高峠

⑨4・6・8の山、⑩島泊と大泊

（その他）岡児ケ水、白岳、新留峠、夢想谷、惣陣ケ岡、荒西山、影向石、

石嶺と鬼門平、明石と赤石、勝利峠、国見岳、飛岳、半下石と足光谷、盤山と菖栄開拓

清水郷飛地の姫城

浜田　建仁三年(1203)十月十九日、これが島津忠久が薩摩国に下向した・しないの論争の原典なのです。この文書は下向したという説の根拠なのです。それから「萩原他本証文案文」というのがありますね。萩原他というのは、どこ？

平田　さぁー。

浜田　川原に萩原田という地名がありますが、あすこに水田があったかどうかは問題があります。そんなに水田があったことは知らないのですけど、一応出しておきます。

それから姫城。近世は清水の飛地でした。郡田の周辺が国分郷で、その向うは清水郷姫城村でした。何故飛地になったのかよく判らない。姫木城の周辺だけが清水郷姫城村で、昭和２６年までは清水村姫城です。そして隼人町に含まれました。中世からその変遷を調べているけど国分郷の間に入り込んでいます。日豊線の線路、あの辺は国分だったのです。姫城から200㍍ぐらい手前から郡田川を挟んで、その両側は国分郷だった。

清水郷姫城村はそう云ったことで、国分郷を通らないと役場に来られなかった。その他にもいろいろあって地元意識が薄れ、昭和26年市町村合併で隼人町に付いたのです。今度はまた一緒になった。姫城温泉は日当山温泉と一緒になって行こうという気持になっています。われわれの時代は姫城温泉で清水の温泉だという意識がありました。

新町と川跡

浜田　あの辺の新田開発は島津氏の開発ではないか。新町という地名がありますが、あれは国分郷で、清水郷ではないのです。

平田　新町は府中のすぐ北になる。

浜田　そうですね。あれから北で、ずーっと続いている。そこの関係か。姫城が飛地に

なっている謎は近世からさらに遡っている。

平田　それはちょっと判らない。

浜田　地元でも判らない。何か情報はないかと思っているのです。

納　　こっちの国分駅の所からが川跡でしょう。

浜田　川跡は、国分市役所：国分シビックセンターから２～300㍍ぐらい向うが、小字川跡。これは川の跡だと地形的にはっきりしている。今の山形屋は川跡になります。旧市役所の辺りからが川跡になります。

そうすると今の国分高校の周辺。あの辺の水路は全部清水の水を引いている。だから、中世は国分は出て来ないのです。国分寺も皆清水の支配下にあった。国分は水利がなかった。清水から引っ張って来なければならなかった。だから古代・中世は恐らく清水が国分の中心だった。（編集者後記：昭和60年代に大隅国分寺跡の西側の発掘調査で大きな溝跡が検出されている。手篭川から水を引いていたと見られる）。

税所氏の後を本田氏が支配します。その後国分の新田開発を島津義久が取り組んで行きます。それまでは水利がない。国分高校の辺りは水利がない。

平田　（略図を板書して）国分高校・国分小学校の裏山が城山。国分小学校の横を北に行くと清水に行く宇都越になる。この愛宕山の続きは鼻面山となって国分中央高校の裏山になる。その西側を昔は手篭川が流れて大津川（天降川）に合流していた。

浜田　天降川も天篭川と合流して広瀬の方に流れていた。現在の手篭川は府中の北に付け変えられている。天降川も府中より西の方日豊線の鉄橋辺りを流れていた。ソニー工場の裏に出ていた。

平田　本来、この手篭川は鼻面山の西側を流れていた。そして天降川と手篭川とで府中：大隅国府を挟んでいた。

浜田　手篭川がこっちを流れていたのは地名の鼻面で判る。鼻面川とも云っていた。

平田　その跡が「川跡」になる。

浜田　川跡は天降川と手篭川とが一緒になった辺り。ほとんど水田になっていました。（編集時後記：総字図に川跡・川跡町などがあり、国分駅付近にも小字川跡があった）。

平田　此処：府中の東側部分に「向花町」がある。こっち：旧手篭川を隔てて唐人町があり、向花町の北には新町がある。向花町に対して新町が生まれた。

浜田　それはそうでしょう。結局、川の改修で新しく田圃や町を作ったのじゃないですか。

平田　新しい手篭川がいつ掘られたのか。

浜田　島津光久の時代です。

平田　光久の時代に掘った？

浜田　全部、一緒です。

平田　こっちも？

浜田　そして国分高校の前の水路。

平田　鼻面山を掘ったトンネルも？

浜田　そう、清水から引いて来た。これが江戸時代だから、中世がないわけですよ。国分には。その向うの方は上井城ですから。上井氏は水を確保した。国分には水はないわけですよ。

平田　そうかな？

浜田　今の国分は清水から山を掘って水を得た。

平田　国分にはその昔国分寺があった。

浜田　国分寺があった。それだけです。

平田　それは、どうだろう。

浜田　国分新田は上井氏の勢力範囲ですから。木原や川原から流れて来た川は、上井氏の領地をうるおした。

平田　府中にあった大隅国府には永正18年(1521)の史料に、武安から水を引いた「国衙に引水口」という文献史料が残っている。

浜田　ああ、そうですか。

平田　この用水路がいわゆる松永用水路で姫城・新町を経て府中の西側を通りソニー工場の東側から松木辺りまで流れて来ている。これが国分では古い用水路だと思う。また、国府に付属した町が向花町だったと思う。

浜田　町は向花にあったでしょうね。

平田　向花町に対して新しい町が新町でしょう。

浜田　新町はですね、河川改修で田圃を開いた後に出来た。あの辺は平田と云って、私たちは馬を洗いに行っていました。馬を持っている家が洗いに行った所です。

上野　川が二つに分かれたということですが、開発とからめて考えると、国分が主導権をもって手篭川をこっちに流した、ということですね

浜田　そうですね。

上野　そうすれば、こっち：現在の水路に流さざる得なくなる。本来の手篭川は川跡と呼ばれるようになると、国分は清水の水をトンネルを掘って求めることになる。

浜田　国分も清水も直轄地で地頭が置かれます。国分は島津氏の直轄地で、実際に支配するのは地頭ですから。私領地であればそれも考えられますが。

平田　元々清水にいたのは本田氏ですね。

浜田　そうですね。

平田　本田氏は島津氏の守護代として乗り込んで来ていた。そのうちに云うことを聞かなくなって島津氏に討たれて滅ぶ。

台明寺衆集院と青葉の笛

平田　台明寺に衆集院という表現が出て来ます。これから考えると伊集院の語源も寺に関係がありそうです。台明寺に残っているのは日吉山王社、七間二間の建物です。七間二間とは柱間の間口が七間、奥行が二間の建物のこと。日本で現存しているものはほとんどない。鎌倉時代の遺構として七間二間の建物跡が発掘された例はあります。その意味であの建物は大切だと思います。

浜田　どこへ行っても三間二間が多いのですけど、七間二間。それと台明寺は荒廃したとよく書かれるのですが、橘南渓は行っているのですね。

平田　橘南渓はね。

浜田　行っているのです。老僧が一人いて泊めてくれと云ったら、断られた、と。次の日、また訪ねた。へこたれているというような表現で書いてあります。それから二・三年前「国分の昔横断ロード」という冊子を作って青葉の笛作りををやったのがありましたがあまりよく鳴らないのです。

平田　青葉の笛、地元では関心が薄いのですが、いろんなことを書いている人がいるのです。美濃晋平という東洋音楽史を調べている人で、和泉村教育委員会「フォーラム青葉の笛」という冊子を送って来ました。それによると相当数：八つ以上だったかな、青葉の笛があって、一ノ谷で熊谷次郎直実に討たれた平敦盛のものと称するものもいくつかあるそうです。その他に源氏ゆかりの青葉の笛も結構あるとのことです。有名なのが悪源

太義平の笛だそうです。義平は源義朝の長男ですが、忘れ形見として娘に青葉の笛を残して行った、と。それを大事にして神社に祀っている所が多い、と。平敦盛は小学校唱歌で知られましたが、悪源太義平は知られていません。源平それぞれ青葉の笛にかかわりを持っています。

浜田　何という神社だったか、あぁ姫城の山王社。あすこの下の池に漬けて、それを税所氏が都に持って行く、と書いてあるのは「国分諸古記」ですかね。

平田　池はね、気色の森の南の方にあって日豊線の下に埋まっているのです。

浜田　今はないのです。

平田　その池に漬けて贈於郡司の税所氏が姫城の妙見社で祀った後、青葉の笛竹を都に届けるのがしきたりだった。

浜田　私の郷里です。面白い所ですね。皆さん、お出でください。

平田　台明寺の奥にも、よい渓谷があります。甌穴などもあるのですが、あまり知られていません。

浜田　奥の方は「堂」という地名です。堂の頭の方は何というか、ちょっと思い出せません。手前の方に鐘撞（かねつき）という地名があります。ところがですね、1㌔以上離れています。

平田　それくらい離れているのは多いのじゃないかな、山寺の場合は。鐘撞は離れていても不思議ではない。

浜田　そうですかね。

平田　山寺というのは山門や御堂がそれぞれ離れている所が多い。

浜田　1㌔もですか。

平田　かなり離れている。山寺でまとまって堂を建てるのは広さから云って無理な面もある。

浜田　堂から離れた所にある小字鐘撞は私の集落なんです。こんな所に鐘撞という名が付いていると皆首をひねっている。

平田　話は尽きませんが、後半の時間を確保するために前半はこれで終わります。

錦江湾分水嶺踏査で歩いた地名

内山憲一

前回突然言われましてとまどいましたが、素人なりに考えたことを発表いたします。私は山登りが好きで、休日には大抵山に登ります。山で珍しい地名に出会うこともあります。甲南高校の時の先生であり「鹿児島の地名」という本も書いておられるので、聞けば判るのじゃないかと葉書を出しました。その縁でこの会に参加させて頂いております。

分水嶺踏査で出会った地名について説明しますが、1枚目がレジュメ、資料が1・2・3と付いて、さらに3が①・②・③と分かれます。1枚目の南日本新聞の記事はこういうことをしたとの内容です。後でご覧下さい。資料2が歩いた分水嶺を図示したものです。カラーだと見やすいのですけど、私が作った地図がみにくいものになっています。ご容赦ください。普通分水嶺といえば半島の真ん中辺を通っていると思いますが、資料2の地図を見ると結構縦長というか、海に近い所を通っているなということが判ると思います。

この地図で33日から43日の間は途中省略と書いてありますが、これは稲尾岳という所です。この辺は非常にやぶがひどくて大変苦労した所で、時間をとってしまった所でした。分水嶺とは感覚的に言えば降った雨が二つに分かれる所です。鹿児島県の場合ですと、西の方が東シナ海、真ん中に錦江湾があって、東の方が太平洋になります。それぞれの川、現在先生が「川由来考」を書いていますが、どの海に注ぎ込む川の流域かということで、三つの海に注ぐ川をみたのですが、川の流域の境界線を地図でたどって行けばこのようになります。要するに分水嶺を辿って行けば川を渡ることはない。そういうルートが分水嶺になります。

そういうことで歩きました。分水嶺は単純に境目ということで、水を分ける流域が違って来るのは当然です。例えば宮崎県と鹿児島県の県境がありますし、町境もあります。歴史的なことで言えば薩摩国・大隅国の国境もあります。行政域が違うだけでなく、それによって文化的にも違い出て来ることにもなります。そういうことも歩いて感じました。

先生に手紙を出すまでは歴史に関心はなく古文書を読むなんてことは苦手だったのですが、実際に現場を歩いて古道があるのを見て面白いと感じました。そういうことで興味を持つようになりました。若いうちにこういう経験をすれば歴史好きになると思いました。

概略からすれば前半が薩摩半島でしたからいろんな歴史的地名もあって楽しみもありました。後半の大隅の方になると山ばっかりであまり史跡などにも出会わないので、大隅は昔は狩猟をする場所とか炭焼きをするための木を伐る場所、そう云った場所があることも判りました。結構炭焼窯の跡もありました。

レジュメに「十の謎」と書いてありますが気になった場所が十個あったもんですから選んでみました。

資料3の①を見てください。謎の地名と気になる地名を書いてみました。網かけが2種類あり、気になる地名は薄い網かけがしてあります。

まず謎1。錦江湾を挟んだ同一地名。第1日目の下の方に、※類似と書いてあります。根占の辻岳。山川の辻之岳、これは分水嶺ですが根占の辻岳は分水嶺ではありません。辻之岳も昔の地図輯製二十万分の一図で調べたら、辻岳という名前になっていました。だから同じ地名になります。

第2日目の池田。これは池田湖のある集落です。大根占にも池田という地名があり同一の地名として気付いたものです。これらを地図で緯度を見比べたのですが、ほとんど違いがない。1分か2分しか違いがありません。距離にして見れば2～3kmしか違わない。辻岳も池田も同じような緯度の所で、錦江湾を挟んで同一地名が二つあった。非常に不思議な感じがしました。池田は両方とも分水嶺になっています。

謎2、上鬼燈火谷（ｶﾐﾌｯｶﾞﾀﾞﾝ）という所です。第5日目に書いてあります。これが先生に葉書を出したきっかけの地名になります。難しい文字で振り仮名が地図に振ってあります。これが何なのかといろいろ考えました。実際に歩いた後に現地に行って地元に人の話を聞いたりしましたが、鬼が火をたいたのではと云いまして土地の人も判らないのだなと思いました。「鬼燈火」3字で「ほうづき」と読みます。ほうづきにこの漢字を当てるの

だいうことも判りました。ほうづきの谷のことで、鹿児島弁で「ﾌｸｯｶﾞﾀﾞﾝ」と理解できました。最近山登りをしていて道端にほうづきが咲いているのに気付きました。此処にも昔ほうづきがあったのかも知れません。不思議な感じの地名です。

謎３。鬢石（ﾋﾞﾝｲｼ）と饅頭石（ﾏﾝｼﾞｭｳｲｼ）というのがありました。両方とも分水嶺です。どちらもいわれがあります。島津貴久が反乱に遭って加世田の方に逃げる時、岩の割れ目に水があって、その水で鬢を整えたとのいわれがあります。結構離れています。殿様が逃げる途中、二か所でそういうことを出来るのかと感じました。現物を見た感じでは鬢石の方が立派で本物じゃないかなと思いました。饅頭石というのは皆さんご存知のように、昔饅頭石という駅がありました。昭和24年に上伊集院駅に変わりました。結構いわれがある駅名だったのですが戦後すぐ名前が変えられました。

謎４。南薩が河内（ｶﾜｳﾁ、ｺｳﾁ）と読むのに、北薩で川内と書くのに気付きました。10日目に松川内（ﾏﾂｶﾜｳﾁ）という所があります。祁答院の辺りか蒲生町だったと思います。川内（ｾﾝﾀﾞｲ）は「ｶﾜｳﾁ」の大きなものだと思うのですが、出水の方にも古川内・湯川内・白木川内・大川内などがあります。水俣にも古川内温泉があります。それから招川内（ﾏﾝﾊﾞｶﾞﾜ）と読むらしいのですが、川内という地名が沢山あります。５日目の周辺地名の欄に観音河内・牛之河内、そう云った地名があります。南薩にこの難しい方の河内があって、北薩の入来だとか出水とか県外に簡単な方の川内がみられ、何故かたまっているのかなと思いました。北アルプスの上高地という観光地がありますが、神河内が上高地に変わったと聞きました。河内・川内という地名を調べたところ川に囲まれた平地とか川のほとりとか、そう云った意味があるらしいのです。両方とも同じような土地の名だと気付きました（編集時後記；高知県の高知も同系統の語句）。

謎５、横川町に何故「岡」が多いかということ。横川町は13日目に行きました。此処に書いてあるのは貝吹岡（ｶｲﾌﾞｷｵｶ）と茶屋ケ岡・丸岡ですけど、他にも二牟礼岡（ﾌﾀﾑﾚｵｶ）とか雨祈岡（ｱﾒｲﾉﾘｵｶ）・鏡ケ岡など「岡」地名が非常に多いのです。丸岡公園は岡というイメージがありますが、貝吹岡や茶屋ケ岡は他の所では絶対に「山」だというのまで此の辺りでは「岡」と付いております。

謎６「下り山」と「佐賀利山」。私も地図で見ただけで現地の人に聞けばよかったのですが、何と読むのか判りません。宗教的な呼び名であれば、クダリ山でしょうが。

平田　あれはサガリヤマ。（編集時後記：鹿児島県でクダリと読むのは金峰町の尾下ぐらい。ほとんどがサガリヤマ）。

内山　サガリヤマですか。実は私は全国の山も登っておりますが、四国の石鎚山という所に行ったらですね、確か宗教的な呼び名で白装束の人たちが沢山居て挨拶が決まっています。おノボリさんとおクダリさんというのです。それからいうと、クダリ・ノボリかなと思うのです。（編集時後記：鹿児島県ではサガリに対してアガリという）。そこらは具体的なものがいろいろ関わっていると思うのですけど。佐賀利山はサガリヤマとしか読めません。16日目のこれは、大霧地熱発電所の近くにあります。道路の近くで岡みたいな所ですけど、下から見れば高く見えます。山と

いう感じです。これは霧島の歴史からいうとわりと古い火山です。霧島では西の方から東の方へ噴火が移って行ったと云われています。

謎７。霧桜峠というのは21日目に行きました。霧島と桜島に挟まった場所的にちょうど中間にありますから、そういう名前なのかなと思いました。市町村が合併した時に生まれた地名かなとも思いました。東京に国立という所がありますが、これは国分寺と立川が合併した時に新しい地名を作ったものです。それと同じような感じがしました。

謎８。岡なのに高峠という地名。これが24日目の所です。高峠はツツジの名所です。高峠というのは岡ですから何故高峠なのかというと、私の推測ですけど多分あすこ辺りに肝属川に出る峠道があったのじゃないかと思います。地図に高峠という注記があってその地名が岡の呼び名に移って行ったのかなと推測しました。高峠も分水嶺になります。

謎９が４・６・８の山になります。30日目に八山岳（ﾊﾁｻﾝﾀﾞｹ）。大根占町の山になります。32日目に六郎館岳（ﾛｸﾛｳｶﾝﾀﾞｹ）とあって33日目が四坂岳（ｼｻｶﾀﾞｹ）がありました。何故か知らないけど８６４と来て不思議な感じがしました。25日目、七岳（ﾅﾅﾀﾞｹ）という山の名前がありました。これは恐竜の背中みたいにぽこぽこと七つほどの頂上があるのです。見ただけで七岳の名が形から付いたなと判ります。近くに五郎ケ元というのもあります。32日目の周辺の地名で万九郎という地名もあります。ですから５・７・９もあり、４から９までが揃う何だか数字の多い地名と思いました。

最後の謎10。これは山とは関係ないのですけど45日目の所、一番最後の佐多町に島泊と大泊というのがあります。島泊は明らかに種子島とか南島の方へ出発のために湊に泊まって波が静まるのを待った地名だと思います。昔あの辺では根占が中心的な湊だったと思うのですが、根占から出て此処で風を待った。島泊と大泊は半島の両側になってます。東シナ海側（島泊）と太平洋側（大泊）になります。波が荒くて出られなければ待つこともあったのではないかと思いました。

レジュメに書いてないのですが、気になる地名の追加をあげます。資料３の①に戻ります。１日目の岡児ケ水（ｵｶﾁｮｶﾞﾐｽﾞ）、近くに浜児ケ水もあります。これはよく知られていますが、稚児が天智天皇に水を献上したという伝説が残っている地名です。

次に第４日目の 606m. p. 地点です。これは地図に名前が書いてなく、昔の地図で調べても判らなかったものです。日石原油基地から山に向かった所にあるあの辺では一番高い山です。もっと低い山に名前があるのに此の山に何故名前がないのかと思っていたら、先生の川由来考に白岳（ｼﾗﾀｹ）というのが出て来ました。これが白岳かなと思いました。

次に第８日目、新留峠。古道ありと書いてあります。これは薩摩国と大隅国との境の峠で昔は相当使われたのだろうなという感じの所です。

13日目ですが、さっきは「岡」の話をしました。今度は「谷」です。十三谷と夢想谷。夢想谷：ロマンチックな名前が付いていますが、唐突な感じの地名です。周辺の地名が白猿とか鉱事場。これは山ケ野金山があった所です。大坂に十三（ｼﾞｭｳｿｳ）という地名があります。十三と夢想だと、ちょっと語呂が似て

います。地名関係の本を読んでいたら、六十谷(ﾑｿｳﾀﾞﾆ)という地名があるらしいのです。六十谷と十三谷、何か関連性があるような気がします。夢想谷というのは他の文字が変化したものか、元々こんな文字じゃなかったのじゃないかと思います。（編集時後記：夢想谷は夢の中で想って、金鉱脈を見出したことからの命名）。

22日目の惣陣ケ丘。福山町牧之原の山が惣陣ケ丘です。惣陣ケ丘に似た地名が重富に惣陣岳というのがあります。岩剣城という城跡が重富小学校の裏にあります。昔戦争があったらしく岩剣城のすぐ上の方に惣陣岳があります。そう云ったことで此処でも戦争があって陣取った場所の地名なのかなと感じました。

平田　島津義久が肝付氏との戦いで陣取った所。

内山　ああ、そうですか。

浜田　亀割峠を登って行った所。

内山　ああ、亀割峠の上。

26日目。スマン峠、妻岳（角之岳）。ツマとか隅ということで、片隅とか刺身のツマと云います。刺身のツマは大根を細くおろしたもの。端っこという意味で「妻」の字を持って来たのじゃないか。

31日目に荒西(ｱﾗｾ)山とあります。これは京都の嵐山からもって来たのじゃなかと登山の本に書いてあります。大原というのも京都の大原ということで、平家の落人伝説があるのじゃないかと思いました。

46日目の影向石。これは「ﾖｳｺﾞｲｼ」と読むと思います。神様が降りて来てあの辺を開いたとの伝説があります。影向石というのを調べてみたら、特別な地名でなくて一般的な地名でした。神様が降りて来た石のことを影向石というらしいのです。一般の石とも異なる神聖な石だということです。影向石、それに先程饅頭石とありましたが、大きな石が残っている場所というのは結構分水嶺にはあります。不思議な感じを持ちました。

元へ戻って２日目の石嶺という地名。この下に鬼門平というのがあります。それは岩山です。今和泉から池田に行く途中、右手の方に岩山があります。それが鬼門平です。石嶺という集落からは、鬼門平が正面に見えるのです。石嶺という地名も鬼門平から生まれたなと思いました。先日鬼門平に初めて登ったのですが、なだらかな所なんです。昔山修行の人たちが造って供えたものがありました。（編集時後記：陰陽道でいう鬼門「ｷﾓﾝ」の方角を訓読したら「ｵﾆｶﾄﾞ」になるのでは）。

10日目、明石というのがありますが、これは山の名前なんです。明石という山の名前も不思議だなと思ったのです。赤い石です。

平田　串木野だったかな、赤玉という特別な石が珍重されたという話を聞いたことがある。黒石・白石・青石があるのだから赤石があっても不思議ではない。（編集時後記：鹿児島県地誌によると明石で一時期金鉱を探したらしい）。

11日目に勝利峠というのがあります。説明板が立っていました。蒲生町の郷土研究家が立てられたもので、島津氏と祁答院勢とが戦って祁答院の残党が残っていたのを全部討ち取って勝鬨をあげたので勝利峠と名付けたとの説明が書いてありました。寒くて不気味な所でした。

14日目に国見岳があります。国見岳はわりとポピュラーな山の名前で鹿児島県には枕崎にもありますし、国見山というのも他に二つほどあります。

15日目に一軒家というのがあります。これは不思議な地名です。実際に行ったら家が一軒ありました。立派な家でした。栗野岳に登る途中で国立公園の地域に入るちょっと手前でした。

24日目に[illegible]岳：ビシャゴ岳というのがあります。これは高峠よりもちょっと北の方にある山で、鹿児島から見ると丁度桜島の右手にピラミッド型の山が見えます。それがビシャゴ岳です。ビシャゴはイカルという鳥のことで、イカルガの里という地名もありますからイカル＝ビシャゴに因んで付けられて地名です。

30日目に半下石(ﾊﾝｹﾞｲｼ)という所を通りました。半下石(ﾊｹﾞｼ)とか足光谷(ｱｼｺﾝﾀﾝ)とかあります。新聞に載っていたのですけど、大根占に大浜海岸という所があります。神ノ川の河口になります。そこの砂鉄を持って来てこの山の中で木を伐って炭を作り、製鉄していた所といわれます。

浜田　此処の製鉄はタタラですね。私は行って見ましたが、古代の製鉄ではない。神ノ川上流の山の方。田代の役場の奥の方。

内山　そうですね。

浜田　佐多の。

内山　佐多ですか。（編集時後記：半下石・足光谷は大根占・田代境。八山岳は大根占・高山町境が正しい）。結構変わった地形ですね。半下石という所は川が岩で覆われています。この辺では38日目に盤山(ﾊﾞﾝｻﾞﾝ)という所があります。

浜田　田代でしょう。

内山　田代ですね。稲尾岳の登山口が盤山という集落です。これも新聞に載っていたのですが、中国からの引揚者が付けた地名だということです。

44日目のこれは佐多の地名です。菖栄開拓と書いてあります。やっぱり開拓村。わりと新しい。ここら辺も大隅は開発が遅れていたことを示す地名が見られます。以上です。

〔質疑応答〕

鬼燈火谷：ふつっがだん

米原　５日目の上鬼燈火谷。此処は確かにこんな所にこんな地名があると思うほどの所です。錫山からも鹿児島からもすぐ近くの所だけど異様な感じがします。

内山　そうですね。

米原　此処は私が聞いた時、平家の落人だという人でした。勢多の戦いで敗れた人たちが此処に逃げ込んだというような言い伝えがある。錫山の入口の所でちょっと道路が広くなっているけど、こんな所にという感じの所でした。（数人が発言。ワイワイガヤガヤ）

西田　分水嶺は道路から近くですか。

内山　道路のある所はあまりないのです。やぶをかき分けかき分けの所です。一人で行くもんですから、それが問題です。大体、薩摩半島はＪＲで行って、バスで行ける所はバスで行って、それから登ります。帰りは歩いて、そこからまたＪＲの駅まで引き返します。

西田　私の疑問は山がつながっているのかいないのかということ。つながっているわけじゃないのですね。

内山　地図を見て頂だけると判ると思うのですけど、一旦平地を越えたりとか山がつながっている所は、そうですね、２/３ぐらいですね。例えば27日目に通った所は自衛隊の

横の通路で平らな所を歩きました。此処は完全に平地：町の中でした。ひどくくだびれていましたので霧島ケ丘公園の真ん中をタカンバッチョを冠って歩きました。ちょっと恥ずかしかったです。

勝利峠・尾下

米原　11日目の勝利峠。これは「ｼｮｳﾘ」と読むのですか。

内山　ショウリトウゲです。

米原　非常に近代的。勝ち関の方が意味としてはよさそう。それが勝利に変わったわけですね。16日目は佐賀利山。６日目の下り山は、オサガリ、オクダリ？

平田　尾下(ｵｸﾀﾞﾘ)は田布施にあります。鹿児島県ではオクダリは少数例。大半はサガリヤマ。修験者たちが山に修行に出掛けるのを見送るのがアガリヤマ、修行を終えて下って来るのを村人が迎える所がサガリヤマです。

内山　鹿児島ではサガリなんですね。

夢想谷・一軒茶屋

米原　13日目の夢想谷。私は虚無僧と結び付くのかと思ったのですが、どうですか。一軒茶屋というと、鹿児島南港のそばにある二軒茶屋と似ているけど。

平田　茶屋は近世交通路の発達に伴っています。

米原　一軒茶屋というのは峠の茶屋を指すのでしょうね。

内山　立派なお宅でしたけど。

浜田　峠を越えるような場所？

内山　峠じゃなくて栗野岳に登る道なんですが、あまり一般の人は通らない道です。

十三塚・鳩脇

納　鹿児島でよく聞く地名：十三塚。十三という数字が付いた地名がありますね。私が知る範囲では隼人町の奥と串良か。串良にも十三塚があるのですが、十三というのは信仰的なものですか。十三に何か意味があるのですか。

内山　全国的に多い地名です。

平田　柳田国男全集を見ると、全国の十三塚をリストアップしたものがあります。仏塔には三重塔・五重塔・九重塔の系統と七重塔・十三重塔の系統があります。層塔でも十三という数が用いられています。

納　それから、この中に鳩脇が出て来ます。浜之市からトンネルの方に行くとカーブする所がありますね。

浜田　トンネルを出た所です。

平田　前回も鳩脇の話が出ました。俊寛たちが硫黄島に流されて行った湊です。

浜田　長門本には着いた所が鳩脇と書いてある。出た所は気色の森じゃないか。

平田　気色の森の次に八幡を拝んでます。

浜田　気色の森に船を繋いでいてそこから出たと思っていたのです。鹿児島高専の脇を通って海岸線と並行する直線の道路がありますね。あれは昔からあったのですか。（編集時後記：鳩脇が長門本平家物語に藤原成経と平康頼が硫黄島から帰り着いた所として記されている。俊寛たちが硫黄島に流されて行く時も気色の森と八幡は地名が続いて出て来るので、鳩脇から船出したと見るのが自然の解釈だろう）。

鷹ノ子岳・島泊

上野　鷹ノ子岳には登られたのですか。

内山　地図で見ると、鷹ノ子岳は入来峠を下って行けば右手の山です。私はこっちを通りました。左手の清浦ダムに尖った山があります。それが現在鷹ノ子岳と「鹿児島の山」

という登山の本には書いてあります。それは分水嶺ではありません。

米原　45日目の島泊。

平田　島への泊り。

米原　島泊とはどういうことかとあすこの人たちに聞いたのです。あすこの人たちは、こっち：陸地から見ると入り江に出っ張って島のように見える、それで島泊と云うんだとといわれるのですが、そうかなと思います。奄美あたりでは自分たちの集落を「シマ」と云いますよね。そう言った影響で自分たちの集落を島と表現したのかなと思ったりもしたのですけど。

浜田　島に見えますか？

米原　あすこは島にみえます。こちらから見るとですね。（編集時後記；京泊は京へ向かう船が風待ち潮待ちをした湊。奄美の和泊・大和浜は日本本土との連絡を意識した呼び名である。船乗りは入り江と島とを混同することはないだろう）。

十の謎の総括

平田　謎１、錦江湾を挟んでの同じ地名。昔は川を簡単に渡れなかった。山の尾根を通る道は意外によく利用された。そうすると峠を登って来る道と山の上で交差する所だ出て来る。山上にいわゆる四辻が出来る。辻岳というのは、そういう辻がある山の呼び名になる。池田が東と西にあるのは、西から東へ移住して行った人たちが持ち込んだ地名と考えるのが自然。

岡児ケ水と浜児ケ水は、稚児ケ水が児ケ水となったもの。説明されたとおりです。天智天皇伝説がどうして生まれたのか、それは不明。志布志にも高須にも天智天皇伝説がある（編集時後記：国分の台明寺にも天智天皇伝説がある）。

鬼門平。これは陰陽道の鬼門(ｷﾓﾝ)の方角でもある。鬼が入ってくる方角を訓読みにしたと考えられる。一般的に北東の方角が鬼門です。鶴丸城は北東の堀の曲がり角の石垣がへこんだ形になっている。

鬼というのは以前話したことがあるのですが、小字を見ると集落に近いのです。ということは病人を近くに隔離して来た。ハンセン氏病や肺結核の患者との同居は避けたが、血のつながりから見捨てるわけにもいかず、人目に付かないようにして食物の補給はした。子供たちが近づかないように「鬼」の名前をつけたのじゃないかと思う。鹿児島県の鬼地名はわりと近い所にある。

それに比べると姥捨山などは村里から遠く離れた所にあるようです。６日目の角免の近くに場貫山というのがあるけど、これは婆抜山で姥捨山とみられる。

内山　そこにあるのですか。

平田　伊作峠のすぐ下。伊作峠の別名と見てもよい。

内山　ああ、あの一帯。

平田　あの一帯に姥捨山があったのではないか。10日目の千貫岳、千貫岩。これは銭瓶・銭神の変化とみる方が面白い。最近は顧みられないが遠足の場所だった千貫平は、別名尾巡山(ｵﾒｸﾞﾘﾔﾏ)。千貫は宗教的色彩が強い地名。

内山　10日目の千貫岳・千貫岩というのはロッククライミングの場所になっています。

平田　千貫はそんなに大きな岩ではない。何故かというと、１貫は 3.75Kg。千貫は 3.75t.岩石の3.75t.はそんなに大きなものではない。千貫の岩なんてのはごろごろしてる。

饅頭は、県内には名物饅頭が多かった。川内のくず饅頭、伊集院饅頭、加治木饅頭、溝辺の石原饅頭など。

中国語でいう饅頭(ﾏﾝﾄｳ)が日本に伝わって大坂・奈良で饅頭が生まれた。どこで「まんじゅう」という言葉が生まれたか、はっきりしないけど饅頭ﾏﾝﾄｳ→饅頭ﾏﾝﾂﾞ→饅頭ﾏﾝﾁﾞｭｳに変化したのでしょう。

中国の饅頭は今は包子(ﾊﾟｵﾂﾞ)というけど餃子(ﾁｬｵﾂﾞ：ぎょうざ)の具と同じく肉や野菜を中に入れるが、日本では餡が入る。そしてよくふくらむように上に十字が切られ、ふくらんだ時は十字の形がうすく残ります。島津のマルに十字に近いなとも思います。

鹿児島でまんじゅうと云えば女性器を意味します。江戸時代の舟饅頭と呼ばれた安い売春婦をもとに隠語を通り越してあけすけな表現になっています。饅頭石という駅名消滅の引き金になったかも知れません。

７日目の神之川。貞観２年(860)の白羽神社、志那尾神社、鹿児島神社、伊邇色神社などと一緒に三代実録に出て来るのだけど、郡山に智賀尾神社という古い神社がある。そこから流れて来るので神之川という。大根占の神ノ川は何の神かはっきりしない。（編集時後記：若宮・諏訪・妙見・波上権現・戸柱などいろんな神が集められた神社で航海安全の神が中心）。

それから獅子戸岳。猪(ｲﾉｼｼ)と鹿(ｼｶ・ｶﾉｼｼ)、どちらも「シシ」という。人の目につくのは鹿の子：バンビ。鹿の子を見掛けた山ということだろうな。

納　何かで石躰神社を昔は鹿児島神社と云ったというのを聞いたことがあった。

平田　鹿児島神社：大隅正八幡が、昔石躰神社の位置にあったとの説に拠っているのでしょう。

内山　鹿児島は今の桜島の古名になる？

平田　そのように考えてよいでしょう。島津の殿様が狩に出掛ける所を鹿倉（狩倉）と云います。県内に「狩倉」地名は多い。木場という地名は焼き畑と結び付けらているが、狩倉も木場も山腹から山裾にかけての小さな平地で、湧水地でもある。「川由来考」の下調べで狩倉や木場を水源とするものが多いことに気付いた。そういう所は動物も集まって来るので、狩猟の場とすれば獲物も多い。自然、狩倉が発生する。また周辺の木材を伐採して集散地としたり、樹木が若ければ伐採して焼き畑にすることも出来る。いずれにせよ水があることが重要な着眼点になると気付きました。

時間が来ましたから今日はこの辺で終わりましょう。先日県立図書館で薩摩町郷土誌を見ていたら、わりと詳しい地名の解説がありました。コピーして来たので、これを基に薩摩町の地名に誰か取り組んで欲しいのです。希望者はいませんか。

入来院　私でよければ。

平田　どれか大字を一つ選んで取り組んで下さい。求名が面白いかもしれません。

十日ほど前、古代交通研究会長の木下良氏と一緒に歩き、大隅・薩摩の古代官道について新しい知見を得ました。大口・菱刈・横川・牧園・溝辺・隼人を歩いて古道の痕跡を確認しました。それをもとに６月例会は大隅・薩摩の古代官道について話をします。

入来院　６月10日に入来花水木会主催で入来麓見学会が行われます。プリントをお配りします。（以下、録音不良、省略）。

平成18年3月5日
鹿児島地名研究会
内山 憲一

錦江湾分水嶺踏査で歩いた地名

1. 錦江湾分水嶺踏査(資料1・資料2)

2. 分水嶺踏査で歩いた地名(資料3①～③)

3. 分水嶺地名の“十の謎”(資料3①～③)

・謎1　錦江湾を挟んだ同一地名 「辻岳」・「池田」

・謎2　「上鬼燈火谷」とはホオズキ？鬼との関連？

・謎3　「鬢石」・「饅頭石」どちらが本物？

・謎4　南薩→「河内」・北薩→「川内」

・謎5　横川町には何故「岡」が多い

・謎6　「下り山」、「佐賀利山」 クダリ？サガリ？

・謎7　「霧桜峠」は霧島と桜島の中間点

・謎8　丘なのに「高峠」？

・謎9　4・6・8の山

・謎10　「島泊」・「大泊」は南西諸島への出発港？

平成16年12月14日付 南日本新聞　　資料 1
〒　屋号　　第3種郵便物認可

長崎鼻から霧島経て佐多岬へ

錦江湾分水嶺を踏破

鹿児島市の内山さん

2年かけ週末山行550キロ

山川町の長崎鼻から徒歩で「錦江湾分水嶺」踏破に挑んでいた鹿児島市の森林インストラクター内山憲一さん(五二)は十一日、最終地点・佐多町の佐多岬に到着した。二〇〇二年九月から週末を中心に日帰り山行を繰り返し、四十七日目での達成。歩いた距離は五百五十キロに上る。

▲錦江湾分水嶺を踏破しゴールの佐多岬に到着した内山憲一さん(右から2人目)

雨水が左右二方向に分かれる境界を分水界という。雨水が鹿児島湾に流れ込むか、太平洋や東シナ海に注ぐか、分水界の山尾根を結んだ線が錦江湾分水嶺。長崎鼻から霧島を経て佐多岬まで三百七十キロのルートになる。

内山さんはもともと山登りが趣味。鹿児島市の与次郎ケ浜を散歩中、開聞岳から高隈山へと見渡すうち、名前も知らないピークが多いことに気付き、鹿児島湾を一周する山歩きを思いついた。日本山岳会も創立百年を記念して、北海道の宗谷岬から佐多岬に至る中央分水嶺踏査を進めており、霧島―佐多岬間で協力することにした。

マイカーや公共交通機関で前回の到着点まで行き、新しい区間を歩く繰り返し。登山道が整備されていたり、林道としばしば交差しているルートはいいものの、やぶを抜けなければならない場所も多く何度も迷ったという。出発点まで戻るのに自転車も使い、走行距離は百五十キロに達した。

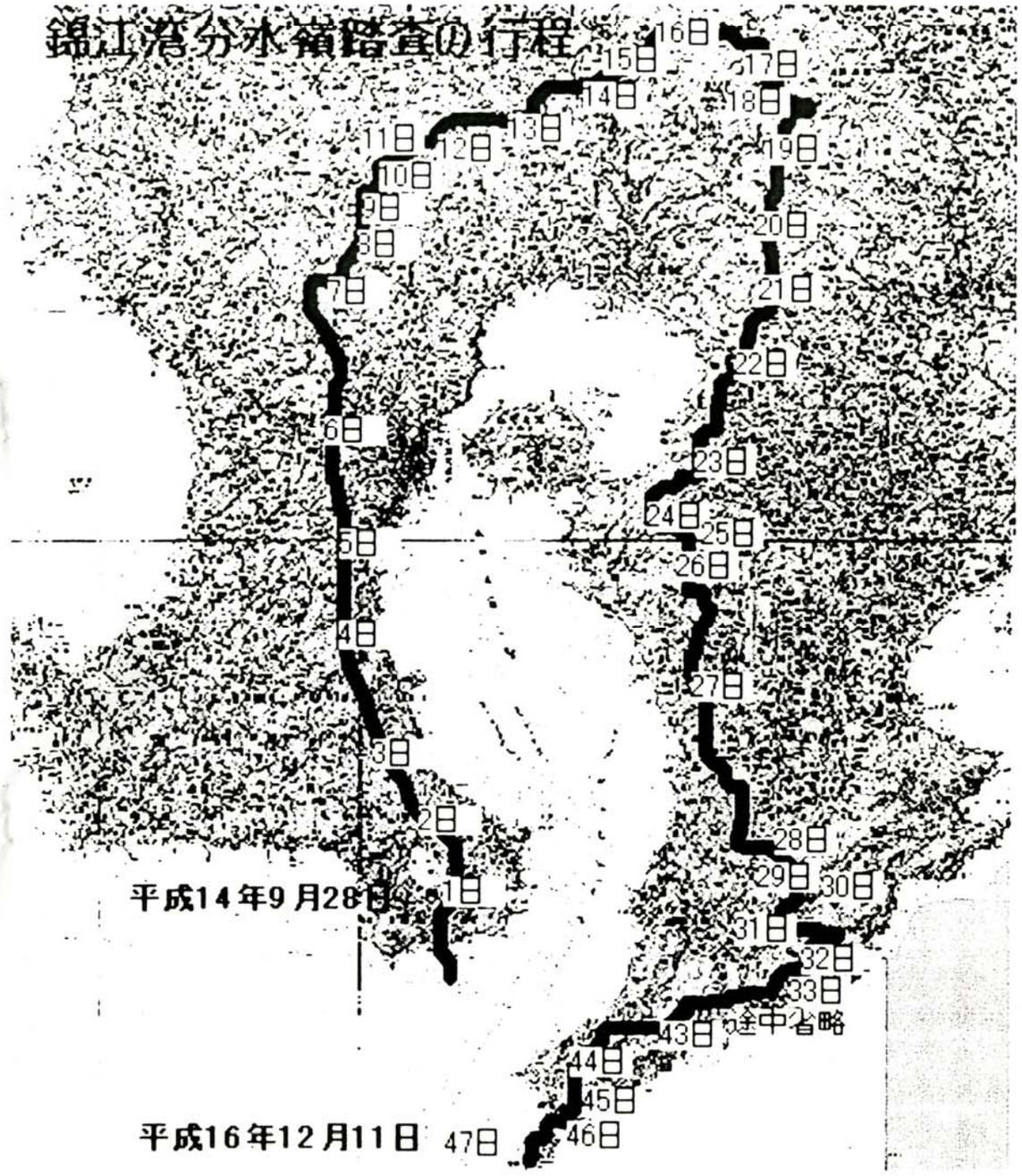
佐多岬到着には日本山岳会宮崎支部の四人が祝福に駆けつけ、展望台よりさらに先のがけっぷちまで歩いた。

無名峰との出合い楽しむ

内山さんは「珍しい地名を知り、むかし殿様が歩いた道も通って、歴史に興味がわいた。全く手つかずの自然はいいが、かつて使われていて今は放置されている林道や中途半端に手入れされた山林の荒れようはひどかった」と話した。

錦江湾分水嶺踏査の行程

資料2



資料3－①

錦江湾分水嶺踏査で歩いた地名　　**謎の地名**　**気になる地名**

※注・・・（　）の地名は現在の地図に記載のないもの。1884年「輯製二十万分の一図」等から転記。

H14.9.28	行政区画	山川町				
第1日	長崎鼻	（鏡平）	岡児ヶ水	辻之岳（辻岳）	鷲尾岳（雌岳・雄岳）	
	※周辺	浜児ヶ水	鰻池	池田湖	※類似	辻岳［根占］
H14.10.13	行政区画	山川町	指宿市			
第2日	池底	清美岳	石嶺	池田		
	※周辺	鬼門平（鬼門の岳）	※類似	池田［大根占］		
H14.11.2	行政区画	指宿市	喜入町	頴娃町		
第3日	堀切園	三巣山	吉見山	尾巡山	種子尾山	
H14.11.8	行政区画	頴娃町	喜入町	知覧町	川辺町	鹿児島市
第4日	606mP	手蓑峠	木床峠	川辺峠		
	※周辺	中茶屋	鬼ヶ谷	須々原	火河原	
H14.12.14	行政区画	鹿児島市				
第5日	須々原	錫山IC.	権現ヶ尾	貴石	伊作峠（柳ヶ谷峠）	
	※周辺	美濃岳	土鬼燈火谷	［ふつっがだに］		
H15.1.4	行政区画	松元町	鹿児島市	伊集院町		
第6日	宇り山	春山		仁田尾	石谷	中川峠
	※周辺	角免		※参考	古道あり	
H15.3.21	行政区画	鹿児島市	郡山町			
第7日	西俣	蔦ヶ岡	八重山	入来峠（土瀬戸峠）	［薩隅国境］	
	※周辺	神之川	※類似	神ノ川［大根占］		
H15.4.5	行政区画	郡山町	入来町	蒲生町		
第8日	鷹ノ子岳	長野	新留峠	［薩隅国境］		
	※周辺	愛宕山	真黒岳	※参考	古道あり	
H15.4.26	行政区画	蒲生町	祁答院町			
第9日	450mP	［薩隅国境］				
H15.5.4	行政区画	祁答院町				
第10日	千貫岳		［薩隅国境］			
	※周辺	千貫岩	明石			
H15.5.10	行政区画	祁答院町	蒲生町			
第11日	勝利峠	矢止岳	木場峠	［薩隅国境］		
	※周辺	上方限	前方限	漆		
H15.5.24	行政区画	祁答院町	姶良町	薩摩町	横川町	
第12日	木場峠	［薩隅国境］				
H15.6.1	行政区画	横川町				
第13日	野坂		野坂	十三谷	［薩隅国境］	
	※周辺		夢想谷	白猿	鉱事場	
H15.6.7	行政区画	横川町	栗野町			
第14日	山ヶ野	国見岳（九郎太郎）	大王	王ノ山	田之頭	［薩隅国境］
	※参考	九郎坊太郎坊	安良岳			
H15.7.12	行政区画	栗野町				
第15日	三日月池	一軒家	［薩隅国境］			
H15.10.4	行政区画	栗野町	牧園町			
第16日	栗野岳	えびの岳				
	※周辺					
H15.10.25	行政区画	牧園町	霧島町	えびの市	小林市	
第17日	韓国岳	獅子戸岳	［日隅国境］			
	※参考	（虚国岳）	（西霧島山）			

H15.11.1	行政区画	霧島町	小林市			
第18日	新燃岳	中岳	[日隅国境]			
H15.11.18	行政区画	霧島町	小林市	都城市		
第19日	御鉢	永池	猪子石	[日隅国境]		
	※周辺	武床	**荒襲**			
H16.1.11	行政区画	霧島町	財部町	都城市		
第20日	瓶臺山	吉ヶ谷				
	※周辺	虎ヶ尾岡	北永野田	※参考	古道あり	
H16.1.31	行政区画	財部町	国分市	福山町		
第21日	先梨	黒石岳	[redacted]	池之段		
	※周辺	白鹿岳				
H16.2.28	行政区画	福山町	国分市			
第22日	荒磯岳	塚脇	**惣陣が丘**	牧之原		
			※類似	惣林岳[重富]		
H16.3.27	行政区画	福山町	輝北町			
第23日	狐ヶ丘	上場公園(楠八重山)	牛根峠			
	※周辺	上之茶屋	日洲街道[高岡筋]			
H16.4.17	行政区画	輝北町	垂水市			
第24日	岳野	**鶴岳[ビシャゴ岳]**	[redacted]	大野原		
H16.4.24	行政区画	垂水市	鹿屋市			
第25日	七岳	光岩				
H16.5.1	行政区画	垂水市	鹿屋市			
第26日	大篭柄岳	**スマン峠**	**妻岳(角之岳)**	御岳		
	※周辺	小篭柄岳				
H16.5.2	行政区画	鹿屋市				
第27日	権現丘	西原				
	※周辺	鳴之尾牧場	里山[一里山が正当？]			
H16.5.23	行政区画	鹿屋市	大根占町			
第28日	霧島が丘	横尾岳	陣ノ岡	大尾[うお]	宿利原	川北
	※周辺	大姶良	高尾神社[役行者像]			
H16.6.27	行政区画	大根占町	吾平町			
第29日	659mP					
H16.7.3	行政区画	大根占町	吾平町	高山町		
第30日	[redacted]	(重岳)				
	※周辺	半ヶ石(半下石:ハゲシ)		足光谷[あしこんたん]		
H16.7.17	行政区画	大根占町	高山町	内之浦町	田代町	
第31日	**荒西山**	[あらせやま]				
	※周辺	**大原[おおばい]**				
H16.7.19	行政区画	田代町	内之浦町			
第32日	[redacted]					
	※周辺	五郎ヶ元				
H16.7.21	行政区画	田代町	内之浦町			
第33日	[redacted]	(論所頭)				
	※周辺	南風谷[はえんたん]				
H16.7.25	行政区画	田代町	内之浦町			
第34日	765mP					
H16.9.3	行政区画	田代町	内之浦町			
第35日	770m岩稜P					

H16.9.18	行政区画	田代町	内之浦町		
第36日	750mP				
H16.9.25	行政区画	田代町	内之浦町	佐多町	
第37日	845mP				
H16.10.2	行政区画	田代町	佐多町		
第38日	枯木	自然石展望台			
	※周辺	稲尾岳(釜山)	盤山[中国引揚者の開拓村]		
H16.10.10	行政区画	田代町	佐多町		
第39日	777mP	辺塚峠			
H16.10.23	行政区画	田代町	佐多町	根占町	
第40日	862mP	(京岳)			
H16.11.3	行政区画	佐多町	根占町		
第41日	860mP				
H16.11.7	行政区画	佐多町	根占町		
第42日	木場岳	(正月山)			
	※周辺	木場			
H16.11.20	行政区画	佐多町			
第43日	821mP	(大八重山)			
H16.11.27	行政区画				
第44日	大中尾林道	菖栄(昌栄開拓)	馬籠	大瀬戸神社	
	※周辺	川北	川南	伊座敷	
H16.12.5	行政区画	佐多町			
第45日	348mP				
	※周辺	立目崎	[redacted]		
H16.12.10	行政区画	佐多町			
第46日	205mP	**(影向石)**			
	※周辺	尾波瀬	[redacted]		
H16.12.11	行政区画	佐多町			
第47日	**(御崎山)**	佐多岬			
	※周辺	田尻	御崎神社	枇榔島	大輪島